信州大学キャンパスマスタープラン　Shinshu University Campus Master Plan 2007

自然と社会と個人の調和　～ A Harmony of Nature, Society and Individual ～

平成２０年３月





目 次

序．キャンパスマスタープランについて

１－１．キャンパスマスタープランの必要性と策定の経緯 …… 序－1
１－２．キャンパスマスタープランの位置づけ …… 序－1
１－３．アクションプランの位置づけ …… 序－1
１－４．信州大学の理念との整合 …… 序－2
１－５．信州大学「信州大学ビジョン2015／信州発飛翔プラン」との整合 …… 序－2
１－６．キャンパスの全体像 …… 序－5

Ａ．松本キャンパス

２．現状と課題
２－１．配置図・現状写真・問題点 …… A－1
２－２．ディベロップメントプラン …… A－1
３．松本キャンパスマスタープラン
３－１．キャンパスマスタープランの目標と作成方針 …… A－2
３－２．基本方針と戦略 …… A－3
３－３．カテゴリー別計画
３－１．全体計画の骨子 …… A－4
３－３－２．建物の計画 …… A－5
３－３－３．オープンスペースの計画 …… A－7
３－３－４．交通の計画 …… A－9
３－３－５．インフラストラクチャーの計画 …… A－11
３－３－６．コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画 …… A－12
３－３－７．維持管理の計画 …… A－13

Ｂ．長野(教育)キャンパス

２．現状と課題
２－１．配置図・現状写真・問題点 …… B－1
２－２．ディベロップメントプラン …… B－1
３．長野(教育)キャンパスマスタープラン
３－１．キャンパスマスタープランの目標と作成方針 …… B－2
３－２．基本方針と戦略 …… B－3
３－３．カテゴリー別計画
３－１．全体計画の骨子 …… B－4
３－３－２．建物の計画 …… B－5
３－３－３．オープンスペースの計画 …… B－7
３－３－４．交通の計画 …… B－10
３－３－５．インフラストラクチャーの計画 …… B－12
３－３－６．コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画 …… B－13
３－３－７．維持管理の計画 …… B－14

Ｃ．長野(工学)キャンパス

２．現状と課題
２－１．配置図・現状写真・問題点 …… C－1
２－２．ディベロップメントプラン …… C－1
３．長野(工学)キャンパスマスタープラン
３－１．キャンパスマスタープランの目標と作成方針 …… C－2
３－２．基本方針と戦略 …… C－3
３－３．カテゴリー別計画
３－１．全体計画の骨子 …… C－4
３－３－２．建物の計画 …… C－5
３－３－３．オープンスペースの計画 …… C－7
３－３－４．交通の計画 …… C－9
３－３－５．インフラストラクチャーの計画 …… C－11
３－３－６．コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画 …… C－12
３－３－７．維持管理の計画 …… C－13

Ｄ．南箕輪キャンパス

２．現状と課題
２－１．配置図・現状写真・問題点 …… D－1
２－２．ディベロップメントプラン …… D－1
３．南箕輪キャンパスマスタープラン
３－１．キャンパスマスタープランの目標と作成方針 …… D－2
３－２．基本方針と戦略 …… D－3
３－３．カテゴリー別計画
３－１．全体計画の骨子 …… D－4
３－３－２．建物の計画 …… D－5
３－３－３．オープンスペースの計画 …… D－7
３－３－４．交通の計画 …… D－9
３－３－５．インフラストラクチャーの計画 …… D－11
３－３－６．コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画 …… D－12
３－３－７．維持管理の計画 …… D－13

Ｅ．上田キャンパス

２．現状と課題
２－１．配置図・現状写真・問題点 …… E－1
２－２．ディベロップメントプラン …… E－1
３．上田キャンパスマスタープラン
３－１．キャンパスマスタープランの目標と作成方針 …… E－2
３－２．基本方針と戦略 …… E－3
３－３．カテゴリー別計画
３－１．全体計画の骨子 …… E－4
３－３－２．建物の計画 …… E－5
３－３－３．オープンスペースの計画 …… E－7
３－３－４．交通の計画 …… E－9
３－３－５．インフラストラクチャーの計画 …… E－11
３－３－６．コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画 …… E－12
３－３－７．維持管理の計画 …… E－13

はじめに

2006年9月、「キャンパスマスタープラン策定プロジェクトチームワーキンググループ」が編成され、信州大学としては2000年の「施設長期計画」に引き続き21世紀に向けた施設計画の策定に着手することとなった。

本大学の特徴であるキャンパスの分散配置をメリットに転化させ、より特色のある大学作りを目指すこととした。そこで今回、策定のメンバーには工学部の教員も加え、より具体的な提案を目指している。新たな時代に向けて本マスタープランが有効に活用され本学の進歩と躍進に繋がれば幸いである。

キャンパスマスタープラン策定プロジェクトチーム

１ー１．キャンパスマスタープランの必要性と策定の経緯

本学は地域分散型総合大学であり、松本、長野（教育・工学）、上田、南箕輪、それぞれに沿革と特性の異なる5つの主要キャンパスを持っている。

「キャンパスの施設長期計画要領」（平成6年文部科学省（当時文部省）編集）には「成長と変化を続ける大学等において、各大学等の教育・研究内容にふさわしい施設を整備し、ゆとりと潤いのあるキャンパスとするためには、長期的な観点に立って秩序ある施設整備を進めるために方向を示す、長期の見通しに立った施設計画を策定する必要がある。」とあり、この要領に基づき本学においても平成12年に各キャンパスの長期計画を策定し、策定後5年毎に見直しを掛けてきた。

法人化された今、法人独自で長期計画の策定が必要とされ、環境対応、危機管理対応、ユニバーサル化、省エネルギー、オープンキャンパス、サイン計画、緑地の確保、駐車スペースの確保等々大学キャンパスに求められている課題解決が山積しており、「信州大学ビジョン2015／信州発飛翔プラン」（2015年に向かって全学の構成員が目指すべき目標を骨子として策定したもの）が策定されたことにより、新たに構築することになった。

そこで、国立大学時代の基本的な観点に加えて、個性豊かな、学生、教員さらに地域住民にも魅力ある、信州大学にふさわしいキャンパスマスタープランを策定し、今後の信州大学の将来像を描くものとする。

キャンパスマスタープラン策定にあたっては、本学の知識を結集するために教員も参加し、「信州大学ビジョン2015／信州発飛翔プラン」を踏まえ策定するプロジェクトが、施設マネジメント委員会において承認された。

１ー２．キャンパスマスタープランの位置づけ

このキャンパスマスタープランは、大学の理念目標である「教育・研究・地域貢献・国際交流」に基づくと共に、策定された「信州大学ビジョン2015／信州発飛翔プラン」の内容も踏まえ、各キャンパスのディベロップメントプランと整合性を図りながら現況の課題やニーズなどを整理し、長期的なビジョン（骨太方針）として目指すべきキャンパスの方向性を示したものである。この方向性のもと、個々の整備などを進めるためにあたっては、その時々のキャンパスの状況を加味し、より具体的な計画を定め実行に移していくこととなる。また、本計画も5年ごとを目処に見直し、時代のニーズに即した計画としていく必要がある。

１ー３．アクションプランの位置づけ

キャンパスマスタープランの基本方針と戦略を踏まえ、建物、オープンスペース、交通、インフラストラクチャー、コミュニティ、維持管理の各計画が示されているプランを実現していくための実行計画（アクションプラン）を策定するにあたりプロジェクトの規模や内容に応じて、4つに分類し整備を進めていく。

なお、アクションプランは毎年見直しを図ることを原則とする。

Ⅰ．概算要求を行い国の予算により実施する事業
　大規模で、全学的視点で事業計画を立案し、事業の必要性・緊急性・事業効果を踏まえ、年次計画に基づき予算要求。

Ⅱ．学内予算措置により計画的に実施する事業
　小規模で学内措置により実施可能な事業については、計画に基づき段階的に整備する。

Ⅲ．学生・教職員参加型の活用により実施する事業
　花壇、アートなど、ボランティアなどの協力で実施可能な事業については、経費・組織を整備の上、実施する。

Ⅳ．民間資金の活用など新たな整備手法で行う事業
　駐車場の利用者負担、PFIによる整備など

下記の課題も視野に入れ、必要であれば組織を整備して進めていく。

（例）・建物のスペースマネジメント
　　・プリメンテナンス
　　・クォリティマネジメント
　　・当該部局の施設マネジメント会議との連携

１－４．信州大学理念との整合

■信州大学の理念と目標

理 念

〇信州大学は、信州の豊かな自然、その歴史と文化、人々の営みを大切にします。

〇信州大学は、その知的資産と活動を通じて、自然環境の保全、人々の福祉向上、産業の育成と活性化に奉仕します。

〇信州大学は、世界の多様な文化・思想の交わるところであり、それらを理解し受け入れ共に生きる若者を育てます。

〇信州大学は、自立した個性を大切にします。

〇信州大学で学び、研究する我々は、その成果を人々の幸福に役立て、人々を傷つけるためには使いません。

目 標

信州大学は、その存立の理念に基づき、教育・研究・地域貢献・国際交流において次の目標を掲げます。

［教　育］

かけがえのない自然を愛し、人類文化・思想の多様性を受容し、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人であり、自ら具体的な課題を見出しその解決に果敢に挑戦する精神と高度の専門知識・能力を備えた個性を育てます。

［研　究］

人類の知のフロンティアを切り拓き、自然との共存のもとに人類社会の持続的発展をめざした独創的研究を推進し、その成果を地域と世界に発信し、若い才能を引きつける研究環境を築きます。

［地域貢献］

信州の自然環境の保全、歴史と文化・伝統の継承・発展、人々の教育・福祉の向上と産業発展の具体的課題に貢献するため、大学を人々に開放し関連各界との緊密な連携・協力を進めます。

［国際交流］

諸外国から学生・研究者を積極的に受け入れ、世界に開かれた大学とし、信州の国際交流の大きい推進力となります。

（2001 年 10 月制定）

１－５．信州大学ビジョン 2015 ／信州発飛翔プランとの整合

■信州大学ビジョン 2015 ／信州発飛翔プラン

－「オンリーワンの魅力あふれる地域拠点大学」をめざして －

〇信州大学のめざすもの

信州大学は、「信州は、我らのキャンパスだ！」を合言葉に、「オンリーワンの魅力あふれる地域拠点大学」をめざして

> １．未来の社会を展望した有為な人材教育の実践
> ２．地域に根ざし世界に拓く研究拠点の形成
> ３．豊かな地域社会の創造に向けての協働と貢献
> ４．社会環境の変化に柔軟に対応する大学経営の推進

に取り組みます。

１．未来の社会を展望した有為な人材教育の実践

> 信州大学は、学生の視点に立ち、その自己実現を支援し、優れた社会的課題解決能力などの人間力と豊かな人間性を備え、社会で指導的役割を果たしうる人材を育成することを教育の中軸とします。
>
> そのために信州大学は自らの理念と目標に立ち、構成教職員の有する多様で豊かな教育力と信州の自然、社会、歴史、文化などの環境を最大限に活用して教育活動に努めます。
>
> (1) 真理の探究による知の創造拠点の形成とその成果に基づく教育の実践
> (2) 地域社会および国際社会で活躍できる高度専門人材の育成
> (3) 生涯学習の支援と社会人再教育
> (4) 学生の確保
> (5) 教育の「質」の保障
> (6) 教育実施体制の整備充実

高等教育を享受する者に期待されているのは、豊かな人間性と諸々の高度な知的技術的能力を身につけることにあります。また大学の教育は、「豊かな自己実現をめざす高度な能力の獲得」という学生の個人的要請に応えるのみならず、「持続可能な発展をめざす社会の担い手としての人材の育成」という今日の高等教育機関に課せられた社会的要請に応えるものでなければなりません。

信州大学は、学生の視点に立ち、その自己実現を支援し、優れた社会的課題解決能力などの人間力と豊かな人間性を備え、社会で指導的役割を果たしうる人材を育成することを教育の中軸とします。そのために信州大学は自らの理念と目標に立ち、構成教職員の有する多様で豊かな教育力と信州の自然、社会、歴史、文化などの環境を最大限に活用して教育活動に努め、特に信州のフィールドを活かした〝環境マインド教育〟や〝体験型教育〟など独自の人間力養成教育を強力に推進します。

また、信州大学の教育においては、最新の情報通信技術（ICT）の積極的な活用（キャンパス間ネットワーク）など教育実施体制の整備充実に取り組みつつ、学生の修学支援を最大限行います。

(1) 真理の探究による知の創造拠点の形成とその成果に基づく教育の実践
- ○人間としての総合的な魅力を養う教育の充実
- ○課題を設定し、包括的な「知」の実践を通して解決する能力の育成
- ○環境マインド教育、フィールド体験学習などの本学の実績と信州の自然や伝統を活かし時代の変化に対応する教育
- ○一年次生へ教育の場としての新たな寮制の導入など生活環境の整備

(2) 地域社会および国際社会で活躍できる高度専門人材の育成
- ○地域に貢献する高度専門人材の育成
- ○地域の先進・中核的医療を担う人材の育成
- ○起業マインドをもった人材の育成
- ○国際社会で活躍する研究者および専門技術者の育成

(3) 生涯学習の支援と社会人再教育
- ○本学を基幹とする生涯学習ネットワークの構築
- ○専門能力の向上をめざした社会人再教育の拡充

(4) 学生の確保
- ○多面的評価と多様な選抜方法の導入
- ○効果的な募集活動による意欲的な学生の安定的確保
- ○地域社会や企業の要請に応えた社会人の受入れ
- ○日本国内で活躍することをめざす外国人留学生の受入れ促進

(5) 教育の「質」の保障
- ○社会からの付託に応える学部・大学院教育の充実
- ○教育システムの国際化対応
- ○優秀な教員の確保と能力の向上

(6) 教育実施体制の整備充実
- ○教育機能強化のための検証と望ましい教育実施組織への再編成
- ○国内外の大学との連携強化
- ○「面倒見のよい」学生総合支援体制の充実
- ○留学生や海外からの研究者受入れ体制の充実

２．地域に根ざし世界に拓く研究拠点の形成

信州大学は、人類の知のフロンティアを切り拓き、自然との共存のもとに人類社会の持続的発展をめざした独創的研究を推進し、その成果を広く提供することにより、地域と世界に貢献します。

(1) 長期的視野に立った基礎研究の推進
(2) 信州の自然や生活環境に根ざしたモデル研究の創出と世界展開
(3) グローバルな教育研究拠点の形成とネットワークの構築
(4) 学内高度研究特区などの設置
(5)「知財」の重視と円滑な「知的創造サイクル」システムの構築
(6) 研究環境の整備
(7) 研究資金の自立的獲得の支援

信州大学は、人類の知のフロンティアを切り拓き、自然との共存のもとに人類社会の持続的発展をめざした独創的研究を推進し、その成果を広く提供することにより、地域と世界に貢献します。

また、研究者を大切にし、若い才能をひきつける研究環境を築くことを目標に、長期的視野に立った基礎研究を着実に推進するとともに、地域に根ざした我が国唯一の研究分野、世界的教育研究拠点をめざす分野の研究を推進します。

本学の研究の特色と今までの実績を踏まえ、重点分野への集中を図り、ファイバー工学、ナノテクノロジー、ものづくり、健康と長寿、高度先進医療、機能性食料、山岳科学（里地・里山を含む）などの分野の優れた研究、さらに地域に根ざした新たな分野として地域ブランド、イノベーション・マネジメントなどの分野の研究を推進します。併せて、これを基盤に優れた人材を育成し、新たな「知」を生み出すことにより、象徴的世界的研究拠点を形成します。

(1) 長期的視野に立った基礎研究の推進
- ○教員の自由な発想に基づく研究とその成果の教育への反映
- ○人類社会の主要課題に関する基礎研究
- ○多様な基礎研究の推進と特色ある教育研究拠点の形成

(2) 信州の自然や生活環境に根ざしたモデル研究の創出と世界展開
- ○信州の自然や生活環境に根ざした地域の研究から世界的教育研究拠点への展開
- ○健康・医療などの包括的な地域社会システムの創出

(3) グローバルな教育研究拠点の形成とネットワークの構築
- ○世界最高水準の研究基盤の形成と世界をリードする創造的人材育成
- ○先端融合領域による新たな学問およびイノベーション創出拠点の形成と人材育成
- ○研究者を大切にし若い才能をひきつける研究環境の整備

(4) 学内高度研究特区などの設置
- ○産学官協働および地域活性化のための特区の形成
- ○大型競争資金による拠点形成など研究優先組織の整備
- ○特区の特色を活かした柔軟な人材運用システムと戦略的財政運用システムの構築

(5)「知財」の重視と円滑な「知的創造サイクル」システムの構築
- ○「知的創造サイクル」の円滑・効率的システムの整備充実

(6) 研究環境の整備
- ○研究環境のさらなる計画的整備
- ○他研究機関との補完的連携強化

(7) 研究資金の自立的獲得の支援
- ○競争的研究資金獲得の全学的な取組を支援
- ○産学官および地域との共同研究の深化の支援

３．豊かな地域社会の創造に向けての協働と貢献

信州にある唯一の総合大学として、県内全域への教育拠点づくりや地域のブランドづくり、街づくりなどにも積極的に関わっていきます。

(1) 信州を中心とした地域連携による教育および文化の拠点としての機能強化
(2) 産学官連携強化による産業振興と力強い地域経済構築への協働
(3) 高度な先進医療の提供と医療人の育成および健康増進のための地域システムの構築
(4) 信大サポーターのネットワークづくり

信州は、澄んだ空気、清い水、青い空など美しく多様性に富んだ豊かな自然環境の中で、各地域特有の歴史と文化･伝統を築き個性豊かな圏域を形成しています。信州大学は､県内各地域でそれぞれ特色ある｢知｣の拠点としての役割を担って設立された伝統ある前身の高等教育機関を統合し設立された総合大学です。信州にある唯一の総合大学として、県内全域への教育拠点づくりや地域のブランドづくり、街づくりなどにも積極的に関わっていきます。これらの活動を通じ､信州を中心とした｢知｣の拠点として､地域と協働し、教育、文化、産業および健康・医療・福祉の基盤を支え豊かな社会の創造に貢献することによって、人々に信頼され、愛される大学として信州とともに発展していきます。そのためには、大学が生み出した知識から革新技術や新産業の創出を通じて地域経済の活性化や人々の質の高い豊かで安全な生活の実現および魅力ある地域社会と文化の創造に協働します。

(1) 信州を中心とした地域連携による教育および文化の拠点としての機能強化
〇豊かな地域社会を創造するための地域と密接に連携した教育、研究および地域貢献
〇地域政策などへの参画と貢献

(2) 産学官連携強化による産業振興と力強い地域経済構築への協働
〇産学官連携による信州型スーパークラスター形成、地域資源型研究開発プロジェクトなどの積極的挑戦と地域産業人材の育成
〇第 2 期知的クラスター創成事業などの広域的産学官連携の深化による地域求心力の発揮

(3) 高度な先進医療の提供と医療人の育成および健康増進のための地域システムの構築
〇｢福祉への貢献、医療人の育成、未来の医学・医療の創造」をめざす高度な先進医療の提供と地域医療水準の向上への貢献
〇健康で安全・安心な文化的生活の地域モデル形成

(4) 信大サポーターのネットワークづくり
〇卒業生、在校生が誇れる大学づくり
〇知の社会貢献活動などを通した開かれた大学づくり
〇同窓会や在校生、父兄、地域社会などとの連携強化

４．社会環境の変化に柔軟に対応する大学経営の推進

大学を取り巻く社会環境が著しく変化する中で、学長のリーダーシップのもと「信州大学ビジョン 2015」の達成に向けて、広く内外の状況に目を向け、変化に柔軟に対応する自立的な大学経営を推進します。

(1) 社会的使命とその公共性の上に立った自立的な大学運営
(2) 財政基盤の強化
(3) 多様化に応える人事システムと柔軟な組織の構築
(4) 病院経営の基盤強化
(5) ブランド・マネジメントの推進
(6) 安全快適なキャンパス環境の整備

本学は、大学を取り巻く社会環境が著しく変化する中で、学長のリーダーシップのもと「信州大学ビジョン 2015」の達成に向けて効果的かつ効率的に取り組んでいくため、教職員の意識改革に努めるとともに、広く内外の状況に目を向け、変化に柔軟に対応する自立的な大学経営を推進します。

また、地域社会の信頼に応え、その理解と支援のもとに経営基盤の強化とキャンパス環境の整備充実に努めます。

(1) 社会的使命とその公共性の上に立った自立的な大学運営
〇学長のリーダーシップによる戦略的な組織運営体制の構築
〇知的・物的資産の共有と活用

(2) 財政基盤の強化
〇戦略的な財務運営の推進
〇外部資金や競争的資金の獲得の強化
〇コスト意識の徹底と費用対効果を考慮した効率的運営

(3) 多様化に応える人事システムと柔軟な組織の構築
〇研修 (FD・SD) による人材の育成
〇透明性、公平性の高い人事制度の整備
〇国際性や専門性を備えた経営人材の育成と確保
〇最適な組織編成と効率的な業務の推進

(4) 病院経営の基盤強化
〇広域健康・医療システムの中核としての経営戦略
〇機動的な診療体制の整備
〇学外識者の参画による経営部門の強化
〇医療制度の適確な把握による増収および業務の効率化

(5) ブランド・マネジメントの推進
〇ステークホルダーを意識した戦略的な広報の推進
〇国際的広報活動の推進
〇学術情報などの情報基盤・メディアの整備
〇説明責任および透明性の確保のための情報発信
〇自治体および地域住民との教育研究活動情報の共有

(6) 安全快適なキャンパス環境の整備
〇キャンパス・アメニティの向上
〇地域の特色を活かしたキャンパス環境の整備
〇循環型社会に対応するエコキャンパスの構築
〇防災・防犯を考慮した安全なキャンパスの構築

(2008 年 1 月制定)

１－６．キャンパスの全体像

信州大学は、5 つの主要キャンパス 12 施設から構成される（下図及び右表参照）。本キャンパスマスタープランにおいては、この 5 キャンパスそれぞれについて検討を行い、右表の通り分類記号を付すものとする。



地　区	分類記号	キャンパス名	各施設名（延床面積）	敷地面積
松本市	A	松本キャンパス	附属図書館（4,542㎡） 人文学部（4,610㎡） 経済学部（8,944㎡） 理学部（17,559㎡） 医学部（46,570㎡） 医学部附属病院（68,090㎡） 全学教育機構（13,003㎡）	258,126㎡
	A’	松本附属学校園	附属松本小学校（4,408㎡） 附属松本中学校（5,705㎡） 附属幼稚園（1,095㎡）	55,785㎡
長野市	B	長野（教育）キャンパス	教育学部（23,749㎡）	71,047㎡
	B’	長野附属学校	附属長野小学校（8,373㎡） 附属長野中学校（7,182㎡） 附属特別支援学校（3,361㎡）	85,592㎡
	C	長野（工学）キャンパス	工学部（48,104㎡）	68,161㎡
南箕輪村	D	南箕輪キャンパス	農学部（28,559㎡）	527,539㎡
上田市	E	上田キャンパス	繊維学部（43,635㎡）	125,305㎡
その他	附属志賀自然教育研究施設（山ノ内町）（1,097㎡）			71,976㎡
	宇宙線地下観測所（長野市、安曇野市）（200㎡）			3,126㎡
	附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター　西駒ステーション（伊那市）（166㎡）			2,501,502㎡
	附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター　手良沢山ステーション（伊那市）（744㎡）			2,279,007㎡
	附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター　野辺山ステーション（南牧村）（2,458㎡）			287,846㎡
	繊維学部大室農場（東御市）（1,065㎡）			98,093㎡
	山岳科学総合研究所　山地水域環境保全学部門（諏訪市）（1,547㎡）			1,002㎡
	山岳科学総合研究所　上高地ステーション（松本市）（145㎡）			1,182㎡
	木崎湖観測所（大町市）（41㎡）			428㎡
	職員宿舎（松本市ほか）（32,042㎡）			45,171㎡
	学生寮（松本市ほか）（16,874㎡）			22,080㎡
	国際交流会館（松本市、長野市）（3,174㎡）			2,943㎡
	学生課外活動施設等（松本市ほか）（1,438㎡）			6,958㎡

信州大学キャンパスマスタープラン　Shinshu University Campus Master Plan 2007

Ａ．松本キャンパス　～ 人・知識・情報が集まる　コミュニティキャンパス ～





序．キャンパスマスタープランについて

１－１．キャンパスマスタープランの必要性と策定の経緯 …… 序－1

１－２．キャンパスマスタープランの位置づけ …… 序－1

１－３．アクションプランの位置づけ …… 序－1

１－４．信州大学の理念との整合 …… 序－2

１－５．信州大学「信州大学ビジョン2015／信州発飛翔プラン」との整合 …… 序－2

１－６．キャンパスの全体像 …… 序－5

Ａ．松本キャンパス

２．現状と課題

２－１．配置図・現状写真・問題点 …… A－1

２－２．ディベロップメントプラン …… A－1

３．松本キャンパスマスタープラン

３－１．キャンパスマスタープランの目標と作成方針 …… A－2

３－２．基本方針と戦略 …… A－3

３－３．カテゴリー別計画

３－１．全体計画の骨子 …… A－4

３－３－２．建物の計画 …… A－5

３－３－３．オープンスペースの計画 …… A－7

３－３－４．交通の計画 …… A－9

３－３－５．インフラストラクチャーの計画 …… A－11

３－３－６．コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画 …… A－12

３－３－７．維持管理の計画 …… A－13

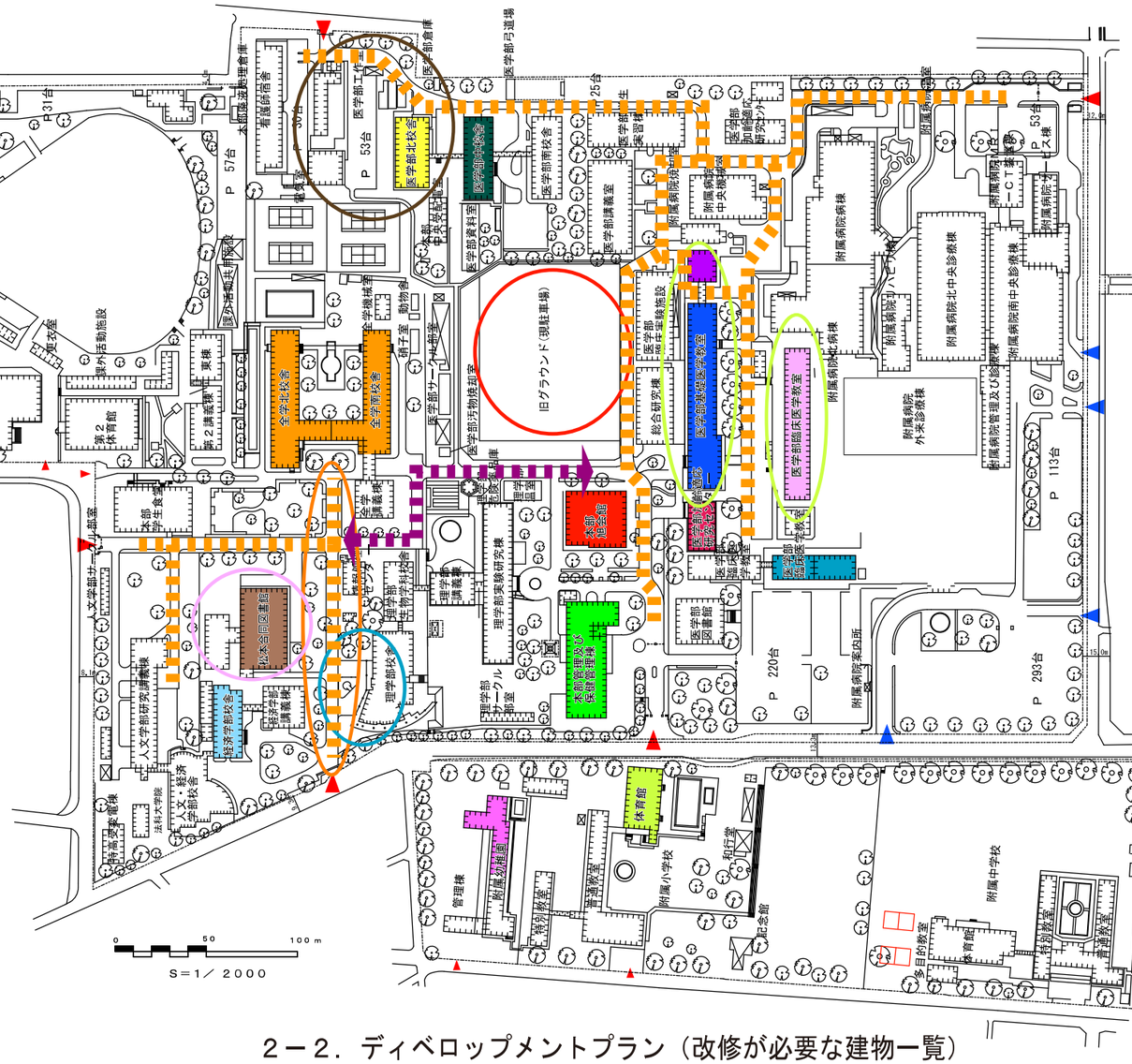
2－1．配置図・現状写真・問題点










旭町中学校
本部合同図書館
旧グラウンド（現駐車場）
医学部弓道場
医学部工作室
医学部北校舎
医学部南校舎
医学部講義室
医学部資料室
医学部学生食堂
医学部図書館
医学部サークル部室
医学部体育館
医学部実験研究棟
医学部基礎棟
医学部臨床医学教室
医学部臨床医学教室
附属病院
附属病院中央診療棟
附属病院北中央診療棟
附属病院南中央診療棟
附属病院管理及び診療棟
附属病院外来診療棟
附属病院北病棟
附属病院南病棟
附属病院医学教室
附属病院医学教室
附属病院医学教室

３ー１．キャンパスマスタープランの目標と作成方針

信州大学松本キャンパスは、大学の理念及び全学教育機構、人文学部、経済学部、理学部、医学部、医学部附属病院、法曹法務研究科の理念に沿った研究教育等の諸活動を展開する舞台であり、それにふさわしい環境の整備と質の向上を確保することを目的とする。キャンパスマスタープランの作成にあたっては、それらの理念に則し、キャンパスの立地条件、前章で検討した現状分析及びその課題、ユーザーの要望を加味し、先ず基本方針と戦略を策定する。更にその内容を建物、オープンスペース、交通、インフラ、コミュニティ、維持管理という6つのカテゴリーに分類整理し、項目ごとに短・中・長期整備スケジュールを立案する。

■全学教育機構の理念・目標

全学の教育力を結集した共通教育を実施し、幅広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性を持った人材育成を目指す。

■人文学部の理念・目標

時代や人間を見る確かな目と、他者や自然と共生できる感性をはぐくみ、人文学的「知」の先端を切り拓く研究を進めるため、思索力・批判力・開拓力・受容力・メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力・問題解決能力・企画構想能力といった資質や能力を養成する。

■経済学部の理念・目標

実証的・実践的な専門研究、企業人・職業人の育成、異分野との協力、社会・地域・海外とのネットワークの構築、相互交流型の少人数教育、社会人に対しての教育研究支援、生涯教育に対する教育体制の強化を目指す。

■理学部の理念・目標

自然と調和のとれた科学の発展に貢献できる人材の育成、信州の自然環境の保全・人々の生活維持・地域産業の発展・生涯学習への寄与・国際貢献など、社会に開かれた理学部を目指す。

■医学部の理念・目標

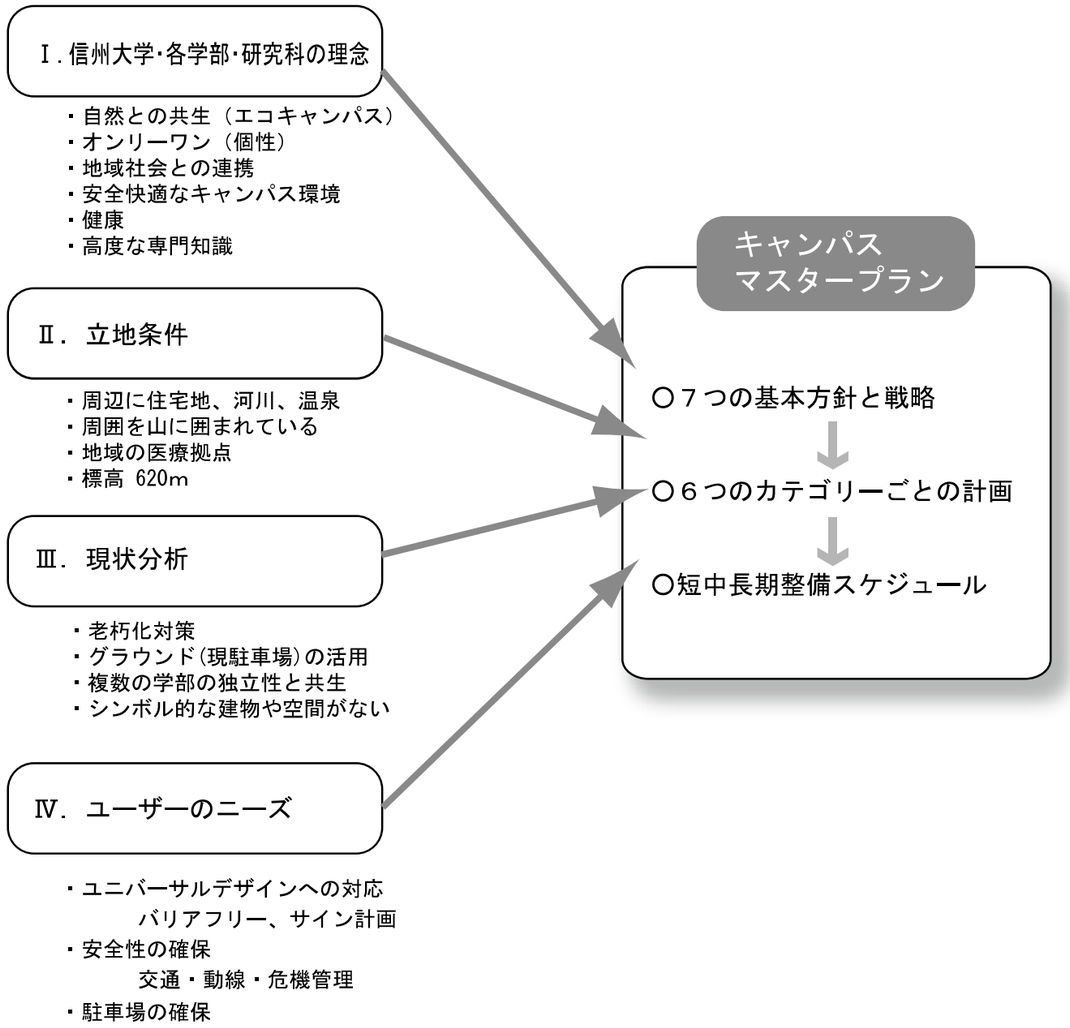
高度で個性的な医科学の教育・研究（ヒト生命の素晴らしさ、移植医療や遺伝子診療、長寿で質の高い健康）と医療活動を発展させることによって地域貢献を果たし、国際交流に寄与する。

■医学部附属病院の理念・目標

本院は診療・教育・研究を遂行する大学病院としての使命を有し、また病める人の人権を尊重した先進的医療をおこなうとともに、次代を担う国際的な医療人を育成する。

■法曹法務研究科の理念・目標

『法の支配に奉仕せよ』、『知的に究理せよ』、そして『つねに良き隣人たれ』を教育理念とし、法の支配に奉仕する豊かな人間性と高い倫理性を備え、高度な専門能力を持ち地域の経済・社会・行政に貢献できる法曹を養成する。



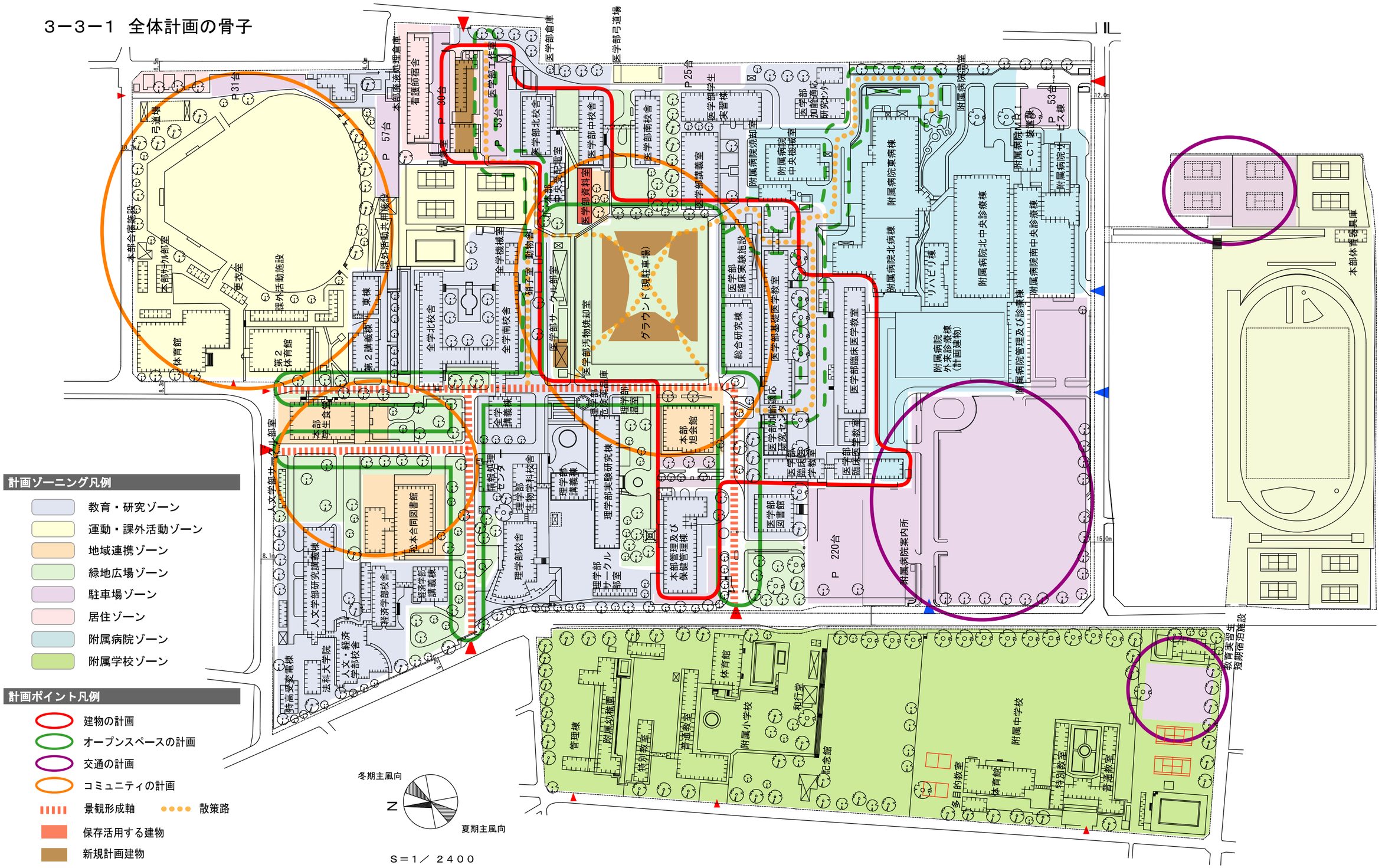
３－２．基本方針と戦略　　～人・知識・情報が集まる コミュニティキャンパス～

キャンパス整備の基本方針とその戦略を下表にまとめる。

基本方針		戦略	カテゴリー
1 キャンパスアイデンティティー	【地域の核】 ・医療サービス、教育サービス ・地域コミュニティー 【複数学部の共生、信州大学の核】 ・多種多様な研究、専門知識の発信、交流	・附属病院の駐車場の整備 ・地域の人も利用できる広場・施設の整備 ・地域文化、大学文化の発信・交流 ・知識の核としての図書館の充実	交　通 建物・オープン・コミュ 建物・コミュ 建　物
2 アメニティを高める現状資産の活用	【心地よいキャンパス「空間秩序の明確化」】 ・学生研究施設と地域開放エリア ・キャンパスの軸とオープンスペースの充実 【ニーズに対応した施設利用】 ・学生、職員の交流スペース ・教育研究環境の充実 ・駐車場、駐輪場動線の見直し 【老朽化対策】 ・建物の安全性の確保	・並木の整備 ・駐車場の増設及び有料化 ・施設整備（飲食・休憩施設、図書館・管理棟等） ・機能改善 ・広場整備（グラウンド） ・耐震補強 ・インフラストラクチャーの見直し ・上高地ステーションの有効利用	オープンスペース 交　通 建物・コミュ 建　物 オープン・コミュ 建　物 インフラ 建物・コミュ
3 地域社会との連携	【「知財・人財・資財」の共有、発展】 ・生涯学習、地域交流施設 【地域住民との共生】 ・自然資源、施設の地域開放	・企業と連携した研究、地域サービス ・地域文化、大学文化の発信・交流 ・図書館、福利施設等の地域開放	コミュニティ 建物・コミュ コミュニティ
4 参加型キャンパス	【キャンパスづくりへの学生・教職員の参加】 ・学生、教職員が参加した点検評価 ・ソフト事業への学生参加	・定期的な点検評価のシステム、組織づくり ・学生の企画参加	維持管理 コミュニティ
5 サスティナビリティ	【地域の風土の反映】 ・地場産材の使用や地域産業との連携 【エコキャンパス】 ・省エネ、CO2削減 【循環型社会への取り組み】 ・ゴミ削減、リサイクル、リユース	・県産材(信州唐松・土・わらすさ・和紙など)の使用 ・維持管理計画の策定 ・景観に配慮したゴミ置き場の整備	建物・オープン・コミュ インフラ インフラ
6 ユニバーサルデザイン	【バリアフリー、ボーダーレスなキャンパス】 ・誰もが使いやすい 【わかりやすいキャンパス】 ・迷わない案内	・ユニバーサルデザイン（デザインガイドラインの策定） ・サイン計画	建物・オープン 建物・オープン
7 安全なキャンパス	【安全な歩行空間】 ・人と車と自転車の動線の分離 【防犯、危機管理】 ・夜間の安全性	・交通計画(歩車分離)、駐車場計画、駐輪場計画 ・照明計画 ・廃棄物処理計画	交　通 オープンスペース インフラ

3－3　カテゴリー別計画

3－3－1　全体計画の骨子



計画ゾーニング凡例

- 教育・研究ゾーン
- 運動・課外活動ゾーン
- 地域連携ゾーン
- 緑地広場ゾーン
- 駐車場ゾーン
- 居住ゾーン
- 附属病院ゾーン
- 附属学校ゾーン

計画ポイント凡例

- 建物の計画
- オープンスペースの計画
- 交通の計画
- コミュニティの計画
- 景観形成軸
- 散策路
- 保存活用する建物
- 新規計画建物
- キャンパス出入口（　病院出入口）

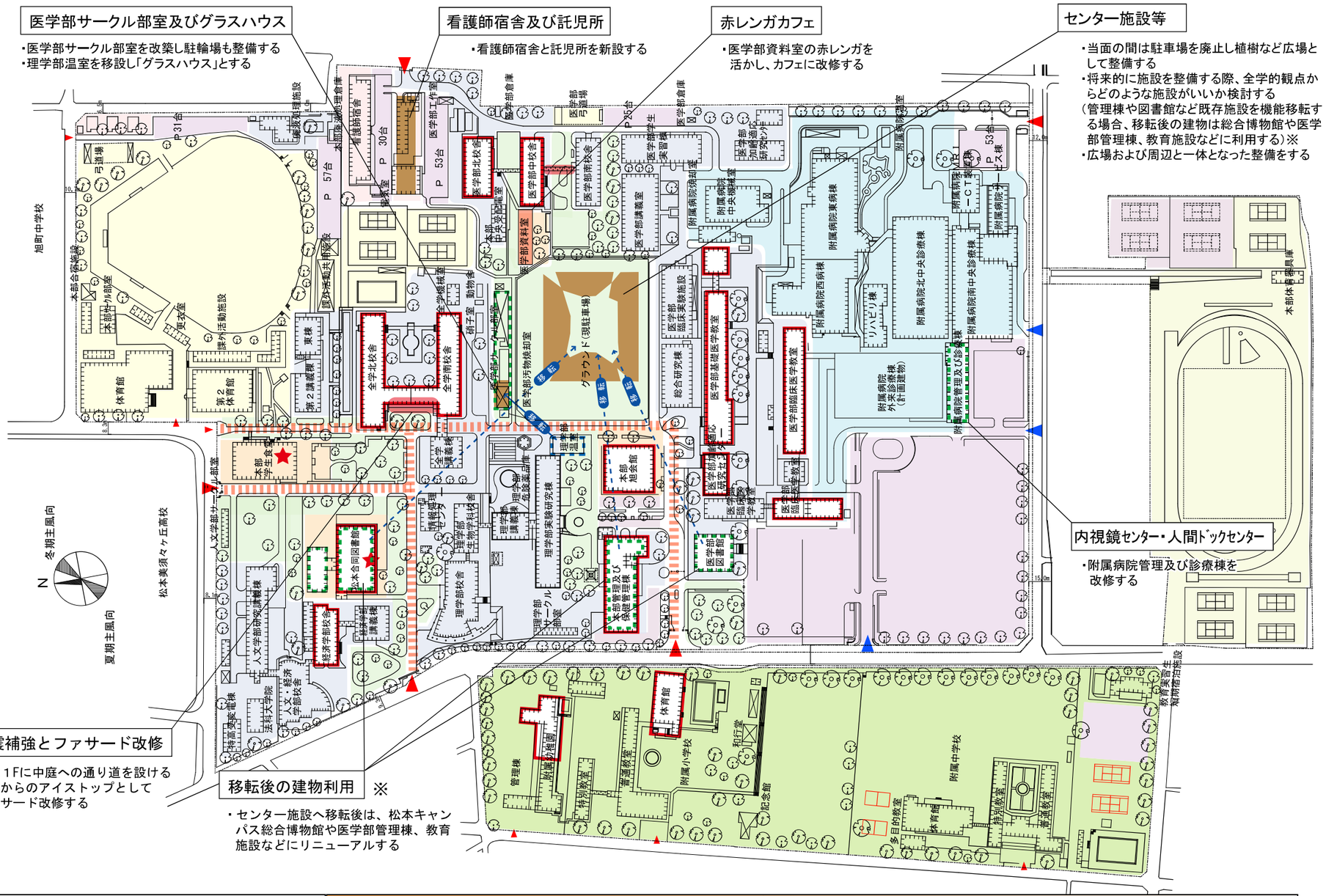
３－３－２　建物の計画

■現状と課題

耐震強度の低い建物があり、順次補強していく必要がある。景観や実用面を考慮しながら改修及び解体の選択をしていくことも必要である。また、現在駐車場として利用しているグラウンドは広場として整備するとともに新たな建物を建設し、諸機能の充実を図ることも考えられる。

■方針

景観に配慮しながら耐震補強とファサード改修を行う。医学部資料室の赤レンガを活かしてカフェに改装したり、グラウンドの周辺の建物は広場と一体となった整備を行う。また、グラウンドは当面は広場として利用し、将来的には施設整備を検討する。会議場やホールなどのほか既存施設の機能移転後も考え、移転後の旧跡地については総合博物館や医学部管理棟、教育施設などに有効利用する。



事　業　項　目		事業展開：短期（6）	中期（12）	長期
１．耐震補強	耐震強度の低い建物から順次補強改修していく。 また、補強工事と同時にファサードデザインの改善を行う。	●耐震設計→補強・改修		
２．施設整備	既存建物の保存、改修、移転など順次整備していく。 グラウンド周辺の建物の整備は駐車場計画と連動し段階的に行う。	●施設利用方針検討 ●赤レンガカフェ ●看護師宿舎 ●医学部サークル棟 ●グラスハウス ●グラウンドの広場整備	●建物新設 ●管理棟等移転 ●跡地リニューアル	
３．ユニバーサルデザイン	誰もが使いやすいデザイン、わかりやすい案内（サイン）のガイドラインをつくり、施設・空間設計に反映させる。	●デザインガイド作成 ●サイン計画		
４．県産材の使用	積極的に県産材（信州唐松・土・わらすさ・和紙など）を使用し、地域産業への関心を高める。	●施設計画に合わせて使用検討		

1　耐震補強
ー建物の計画ディテールー

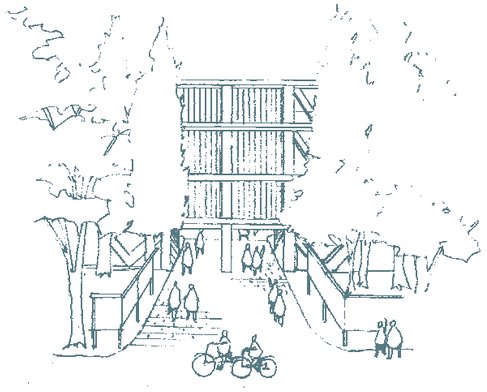
■方針

1982年の耐震基準法改正以前に建設された強度不足の建物を耐震補強していく。また、単純な耐震補強に終らせることなくデザイン性を兼ね備えた整備を行う。

●全学教育機構校舎

耐震補強と同時に、西門からの景観を意識したファサード改修をし、アメニティの向上や機能拡充のためのリフォームや増築等もあわせて検討する。


現　状


整備イメージ

2　施設整備
ー建物の計画ディテールー

■方針

豊かなキャンパスライフを送れるようニーズにあった福利施設、地域の人も利用できる交流施設など、既存のストックを活用しながらアメニティの高い空間価値を付加していく。

●赤レンガカフェ（旧医学部資料室）

医学部資料室は老朽化しているが、赤レンガの情緒ある建物である。中央広場「ミクロスの森」にも面しているので、内外装をリニューアルし新しくカフェとして利用する。


現　状


整備イメージ

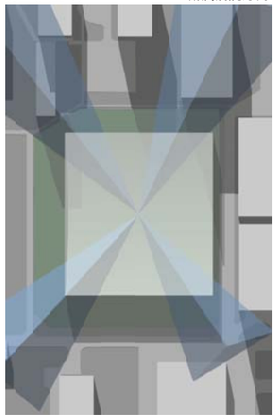
●センター施設（会議場・ホール・管理棟・図書館棟等）整備計画

グラウンドの有効利用として、当面の間は駐車場を廃止し植樹など広場として整備し、将来的には全学的観点からふさわしい施設の整備を検討する。国際会議を開催できる会議場やホールのほか、本部管理棟・松本合同図書館・医学部附属図書館の３棟の機能移転も含み検討し、学生や教職員のためのアメニティの高い大学の中心施設とする。

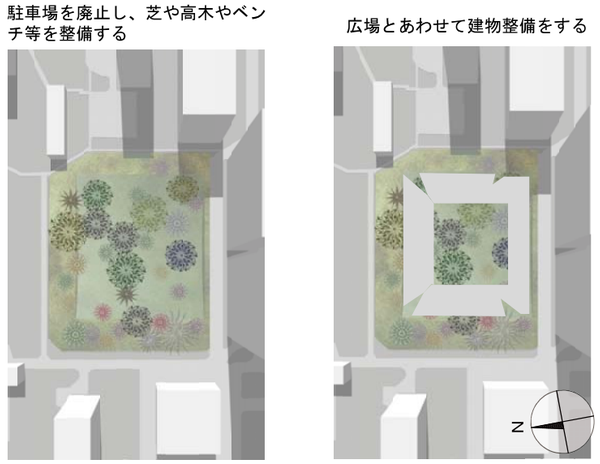
建物の計画に際しては、広場および周辺と一体となった整備とし、講義棟、正門、医学部附属病院、また新しく整備する赤レンガカフェの４方向からの動線を確保しそれらを妨げないよう建物を配置する。また、それぞれの動線が交差する部分を中庭とし、周囲の山並みを望めるよう建物のボリュームを極力おさえる。

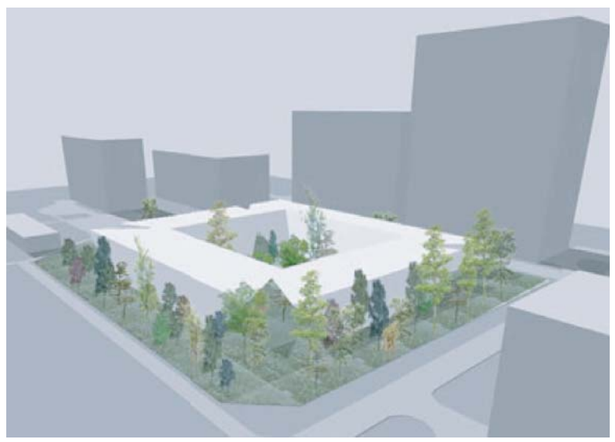
既存施設の機能移転後の旧跡地については建物の有効利用をはかりながら、他のキャンパスの情報も集めた総合博物館や教育施設などの整備を行い、信州大学の核としての機能を充実させる。

① 各方向からのアクセス動線



② 周辺とのつながりをとぎれさせないように緑地と建物を配置する




ボリュームイメージ

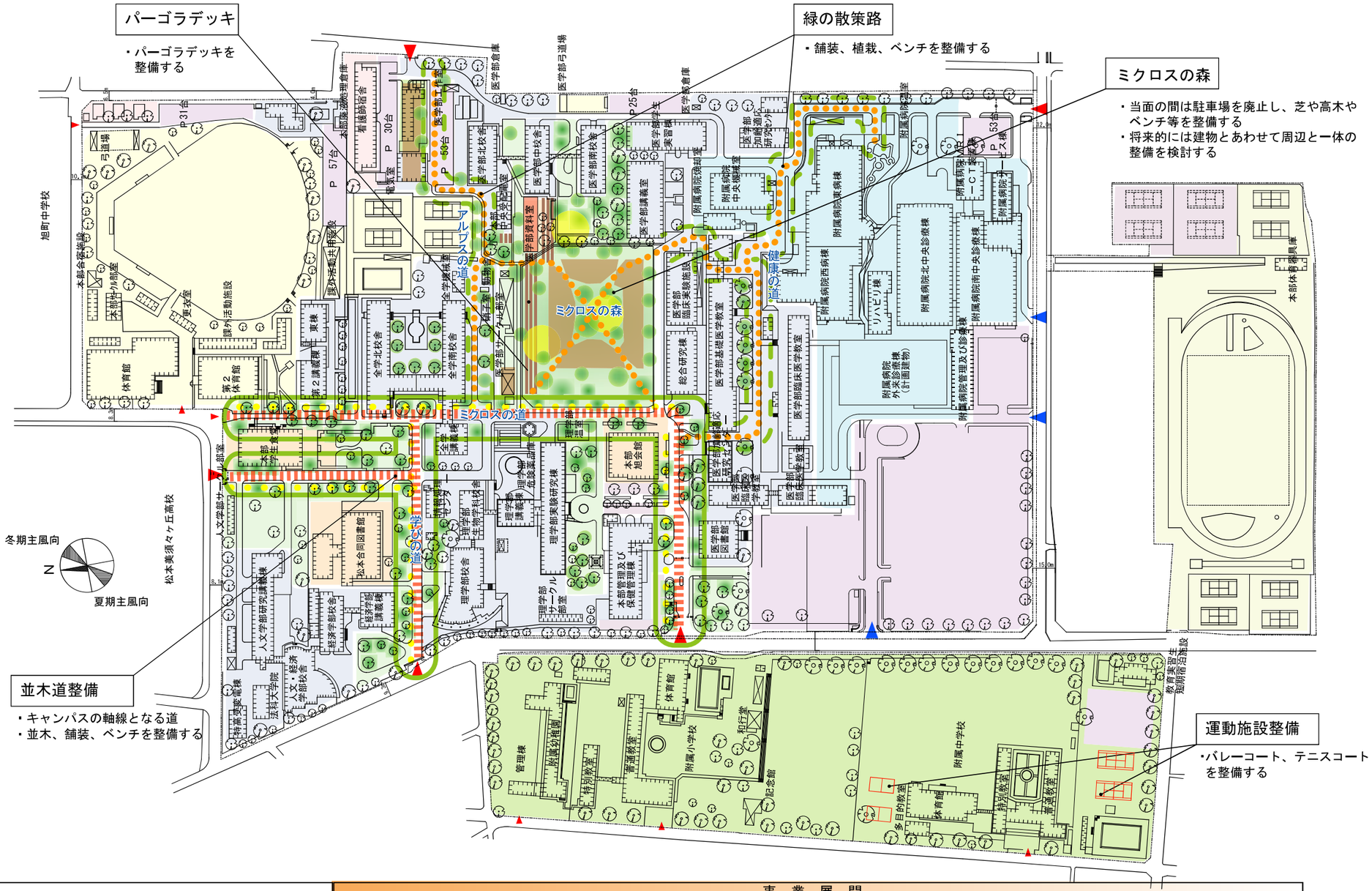
3−3−3 オープンスペース

■現状と課題

キャンパス中央にあるグラウンドが現在駐車場として利用されており、全学部の学生や教職員が集い交流できる広場などへの転換が期待される。

■方針

グラウンドの駐車場を廃止して当面は広場として整備し、将来的に新設する管理棟などの建物と一体となったキャンパスの核となる中央広場「ミクロス（mix+cross）の森」をつくる。また、それにつながる並木道や散策路の整備、さらに赤レンガカフェやパーゴラデッキなど周辺との連続性をもった オープンスペースを整備する。



計画ゾーニング凡例

- 教育・研究ゾーン
- 運動・課外活動ゾーン
- 地域連携ゾーン
- 駐車場ゾーン
- 緑地広場ゾーン
- 居住ゾーン
- 附属病院ゾーン
- 附属学校ゾーン
- 景観形成軸
- 保存活用する建物
- 新規計画建物
- キャンパス出入口
- 病院出入口

凡　例

- 散策路
- 広場整備
- ベースライト（安全確保照明）
- ハイライト（演出照明）
- 並木道整備

事　業　項　目		事業展開 短期	中期	長期
1．広場整備	ミクロスの森やパーゴラデッキなど、グラウンド周辺の広場整備を駐車場及び建物の計画に合わせて段階的に行う。	●パーゴラデッキ整備 ●グラウンドの広場整備 ●建物周辺整備		
2．並木道等整備	並木道、散策路の整備や附属中学校のバレーコート、テニスコートの整備を行う。	●附属中コート整備 ●並木、散策路整備		
3. サイン・照明計画	わかりやすい案内サイン、夜間の安全を確保できるベースライトを整備する。	●サイン・照明設計 ●随時整備		
4. ユニバーサルデザイン	誰もが使いやすいデザイン、わかりやすい案内、敷地内の段差解消などのガイドラインをつくり、空間設計に反映させる。	●デザインガイド作成		

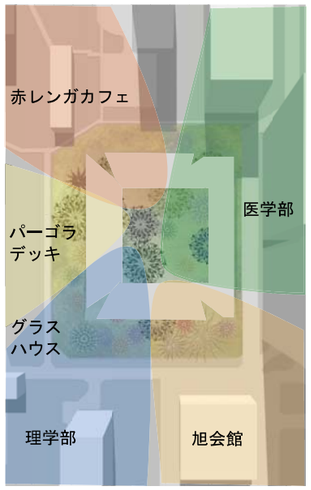
1　ミクロスの森（mix+cross）　–オープンスペースの計画ディテール–

■方針

周辺からアクセスしやすく、キャンパスの中心にふさわしいアメニティの高い広場を整備する。芝生やベンチを配置し､学生や教職員のみならず地域住民も集い交流できる憩いの場とする。

ミクロスの森は、医学部や理学部、全学棟など幾つかの学部が交差する場であり、また旭会館や赤レンガカフェなど人が集まる施設も面しているので、それぞれの施設のもつ特徴や雰囲気を連続させ、様々な表情をもつ広場とする。さらに、ゆるやかな凹凸のある芝生スペース、シンボルとなる高木やオブジェ等を配置したり、イベントにも利用できる空間を整備する。


現状（グラウンド）



- 赤レンガカフェゾーン
- イベントデッキゾーン
- 植物ゾーン
- 旭会館･集いゾーン
- 医療･健康ゾーン


ミクロスの森のイメージ

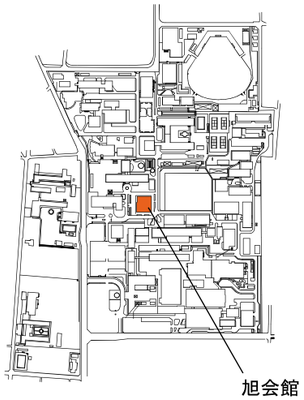
2　並木道整備　–オープンスペースの計画ディテール–

■方針

キャンパスの軸となるような並木道を整備する。また、地域の人達も通り抜けられる気持ちの良い散策路として景観に適した舗装を整備する。

●ミクロスの道

旭会館の東側前面道路は、現在はアスファルト舗装となっており、両側を車止めで車両進入禁止にしてはいるものの、駐輪場の不足から自転車が道路側に溢れ、休憩するスペースもなく、単なる「通路」としての機能しか果たしていない。ここを学生のためのアメニティ空間として環境整備することにより、旭会館東側の、ミクロスの森とも連携を持たせた形で整備を行う。




現　状

整備イメージ



３－３－４ 交通の計画

■現状と課題

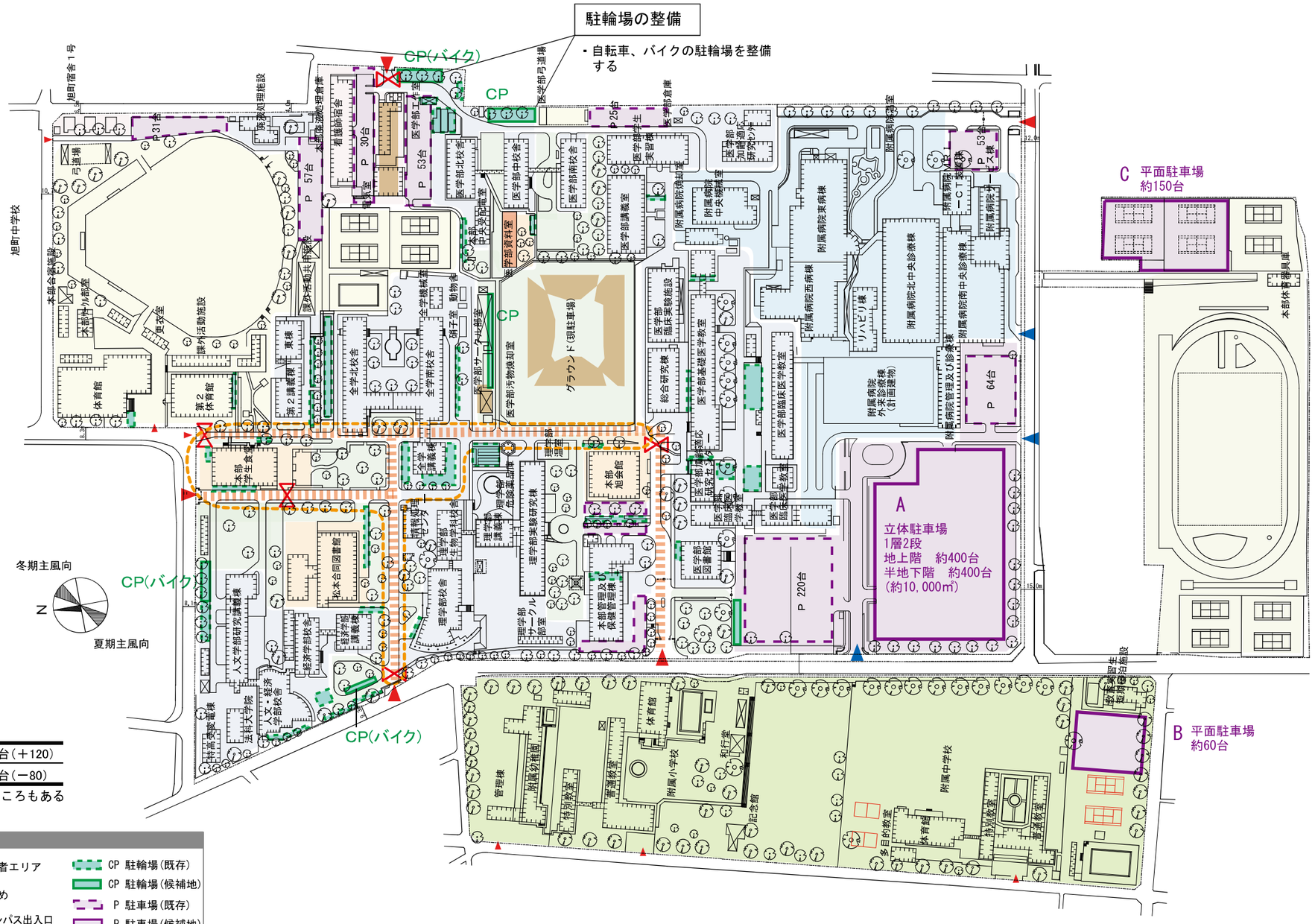
車での来訪が多くキャンパス内道路端への駐車も多い。現在約450台分の駐車場となっているグラウンドを有効活用するため、その収容台数を新たに確保する必要がある。また、キャンパス内の各所に設置されている自転車置き場は飽和状態であり、建物周辺に放置する自転車も多く、景観悪化の原因となっている。学生や教職員の公共交通機関の利用を促進するなどの対策も必要である。

■方針

車両通行エリアを一部制限し（緊急車両を除く）、歩行者の安全性とアメニティーを高める。一般外来者同様、教職員の駐車場有料化や公共交通機関の利用促進をはかる。自転車については、交通動線が複雑で進入禁止領域の設定は難しいため、利用者有料登録制の導入や所定の場所への駐輪を徹底する。バイクは門の近くに駐輪場を設置し、構内の走行を禁止する。駐車場に関しては、今後のニーズに合わせて候補地の選択及び整備を行い必要な駐車台数を確保する。新規駐車場候補地としてはA～Cが考えられるが、決定するに当たり、引き続き検討する。

	整備前		整備後
駐車場	1539台	Aの半地下P 10,000㎡の場合	約1659台（＋120）
		Aの半地下P 5,000㎡の場合	約1459台（－80）

※既存の駐車場を他の目的に利用して台数を減らしているところもある



事　業　項　目		事業展開 短期	中期	長期
1．駐車場整備	キャンパス内の駐車場は原則的に教職員も有料とし、収容台数確保のため駐車場を新規に整備する。	●附属中、テニスコート　●病院前		
2．駐輪場修繕・車止め設置	不正駐輪を予防するため利用者登録制とし有料シールの導入などを検討し、適正数を維持する。景観に配慮した駐輪場の整備や修繕、車止め等の設置をする。	●駐輪場、車止め整備		

1　駐車場整備　　ー交通の計画ディテールー

■方針

中央グラウンドにキャンパス中心施設を建設するため、そこに確保していた駐車台数を他の場所に確保する。

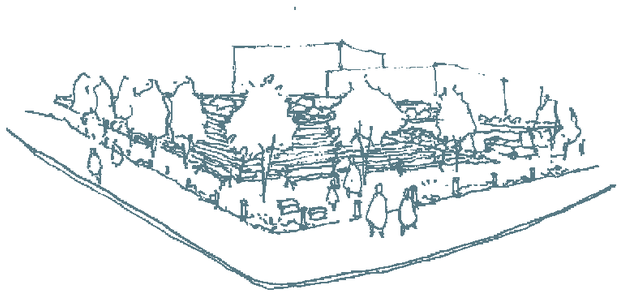
駐車場の二層化と未利用テニスコート及び附属小学校内の空き地などが考えられる。新規に駐車場を整備するにあたり、工事中はその代替駐車場の確保が必要となり、段階的かつ計画的な整備をする必要がある。

●半地下の二層式駐車場（候補地 A）

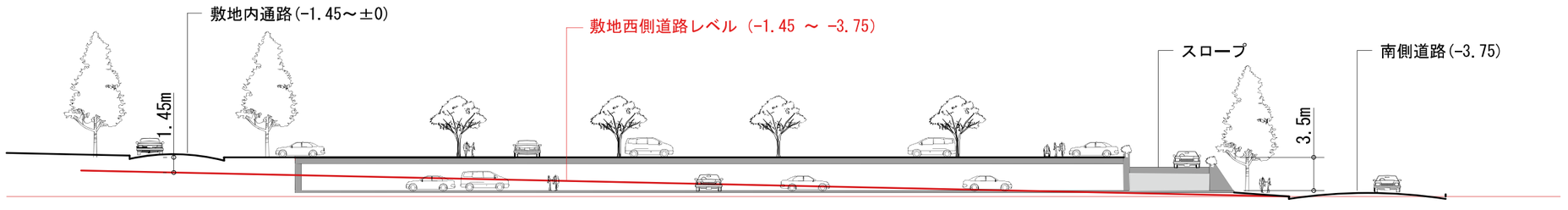
道路と病院エントランスの敷地の高低差(約4m)を利用して、基準となる地盤レベルを病院エントランスとし、その下部にもう一層の駐車場を整備する。道路からの高低差は石積みや植栽などで修景し、さらに歩道からセットバックさせ、歩行者への圧迫感を軽減する。



現　状



整備イメージ



南北断面図　　S＝1／５００

2　駐輪場整備　　ー交通の計画ディテールー

■方針

景観形成軸上の放置自転車を減らすため、所定の場所への駐輪を徹底し、各駐輪場の改修や自転車ラックを設置するなど、現在ある駐輪スペースにより多くの自転車を止められる工夫をする。また、グラウンドに新設する建物や旭会館の利用者のための駐輪場を整備する必要もある。建物の計画とともに景観に配慮した駐輪場とする。



駐輪禁止の歩道にも駐輪されており、駐車されている車とともに、歩行者及び景観の障害となっている。



キャンパス北西の門を入ってすぐ左にある経済及び人文学部駐輪場



駐輪小屋は現状のデザインを踏襲したものとする。



サイクルラックの使用により収容台数を増やす。

３－３－５　インフラストラクチャーの計画

■現状と課題

［電気設備］　70kV特別高圧２回線を特別高圧受電設備２台により、各学部、附属病院及び附属松本学校園へ配電。

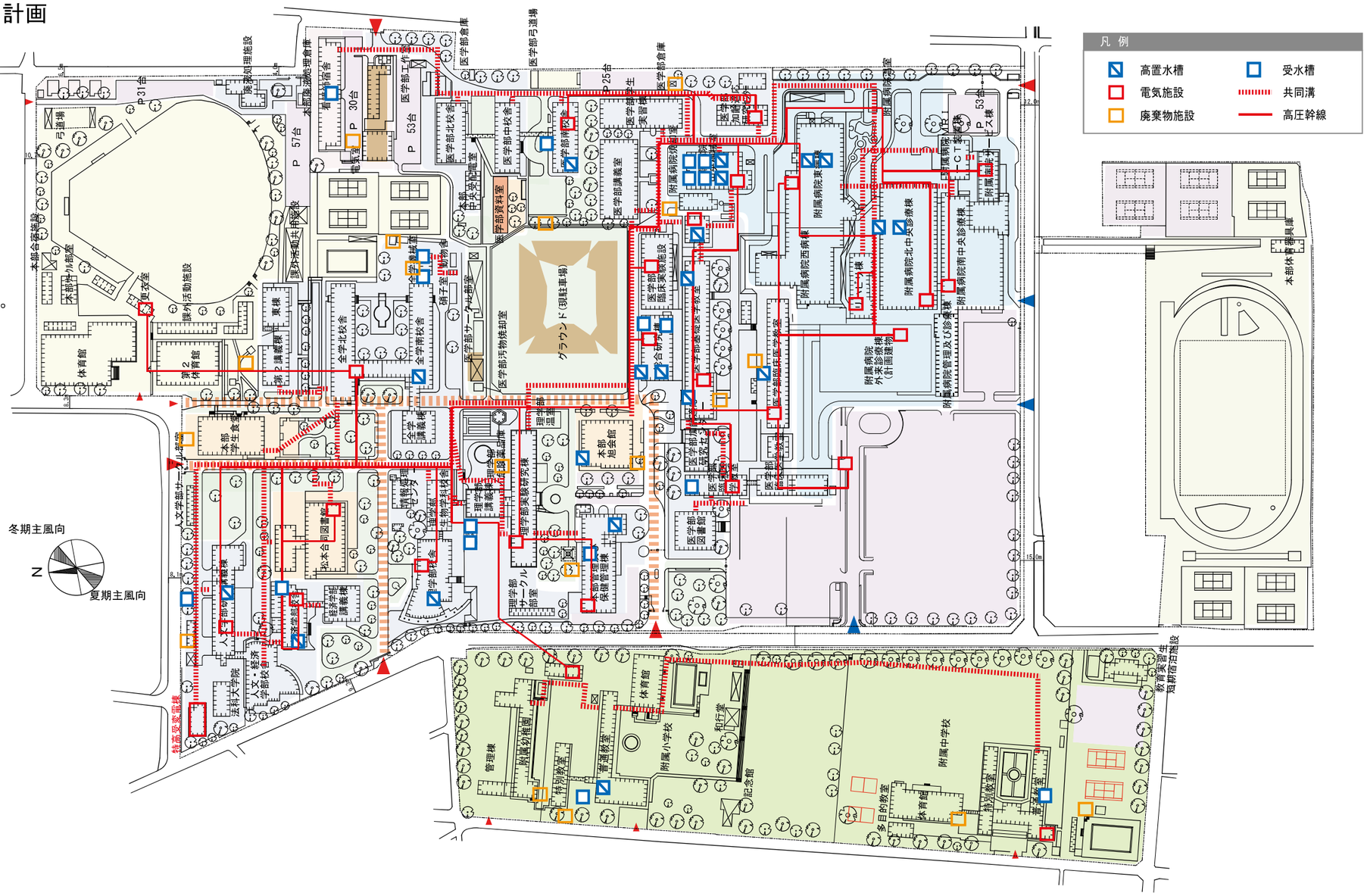
［給水設備］　市水本管より供給を受け、高架水槽方式により各建物に給水。また、深井戸２本により中央機械室受水槽から、医学部及び附属病院で便所洗浄等に使用。尚、一部の建物では、雨水を中水として利用。

［排水設備］　雨水系・生活系・実験系の３系統分流式。雨水系は、地下浸透及び公共側溝へ放流。生活系・実験系は公共下水道へ放流。尚、実験排水は建物単位でPH濃度をモニタリングしている。

［ガス設備］　都市ガス(13A)を２箇所より引き込み、土中埋設配管にて各建物に供給。また中圧配管を設置しエネルギーセンターに供給する。

［空調設備］　新営建物及び改修整備済建物についてはGHPによる個別空調が主体。それ以外は蒸気による暖房となっており、熱源はボイラ室より供給しているが各建物一括供給であるため、個別暖房ができずエネルギーロスが多い。各施設に適したシステムが必要。

［廃棄物］　資源の有効活用のため分別の徹底によるリサイクル化の推進。それ以外の一般廃棄物及び実験系廃棄物は、業者に委託して処理している。医療系廃棄物は本団地内の施設にて処理している。



■方針

１．省エネルギー化
　設備機器（ボイラー）の耐用年数を鑑みGHP（ガスヒートポンプ）、EHP（電気ヒートポンプ）の比較検討の上で将来性、経済性、快適性、維持更新のしやすさなどの観点から維持管理計画の策定を進めていく。

２．地球環境への配慮
　CO2の排出を削減するためその目標値を設定し、到達するまでのロードマップを作成する。省エネだけでなく低公害の太陽エネルギーなどの創エネ（新エネルギーの供給）も組み合わせて目標達成に努める。

３．循環型社会への取り組み
　ゴミの分別収集の徹底による再資源化、汚濁物（水、空気、物質）処理におけるエネルギー利用化を図るなど各キャンパスの課題としてキャンパス毎に研究し取り組んでいく。

○附属病院のエネルギー供給について見直し，焼却炉及びピークカット時の発電機の排熱利用を検討する。
○衛生管理上の問題から、高置水槽による低層建物への給水からポンプ圧送方式への移行を検討する。

項　目	事業展開		
	短　期	中　期	長　期
１．インフラ整備	●維持管理計画策定 ●給排水･ガス配管の改修および更新 ●空調熱源の検討 ●加圧ポンプ式給水の検討		
２．廃棄物処理	●処理方法の検討 ●ゴミ置き場の整備 ●その他廃棄物処理施設の整備		

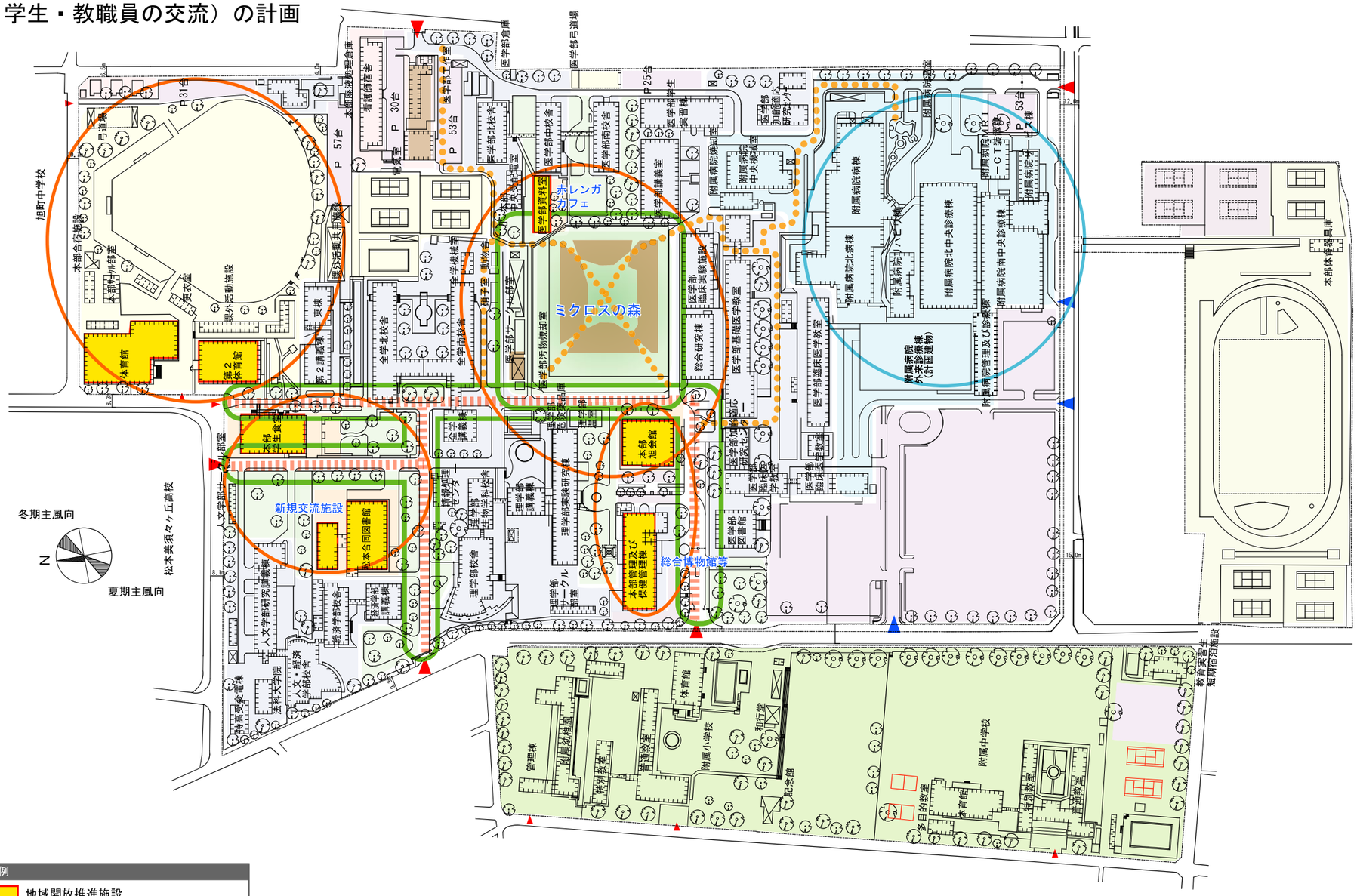
３－３－６　コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画

■現状と課題

松本キャンパスは複数学部があり、建物が密集しオープンスペースも点在しているため、全学部生が交流できる核となる場所は学食周辺など一部に限られている。また、図書館や学食周辺においては個々のエリアが独立し他との連続性に欠けている。

■方針

中央広場「ミクロスの森」を交流の核として他のエリアとの連続性を重視し、イベント開催や諸施設の積極的な地域開放により、市民も気軽に来れるキャンパスとする。また、諸施設の運営管理については、市民やNPOとの協働や外部業者委託なども検討し、より地域に開かれたキャンパス運営とする。



計画ゾーニング凡例

- 教育・研究ゾーン
- 運動・課外活動ゾーン
- 地域連携ゾーン
- 駐車場ゾーン
- 緑地広場ゾーン
- 居住ゾーン
- 附属病院ゾーン
- 附属学校ゾーン
- 景観形成軸
- キャンパス出入口
- 病院出入口

凡　例

- 地域開放推進施設
- 地域共用・コミュニティゾーン
- 附属病院ゾーン
- 各コミュニティゾーンをつなぐグリーンベルト
- 散策路

事　業　項　目		事業展開 短期	中期	長期
１．交流施設の計画・運営への学生や市民の参加	ミクロスの森でのイベント企画など広く市民にも呼びかけ、学生や教職員はじめ市民の交流の場ととして活用する。	●企画・実施		
２．施設の地域開放促進	諸施設の地域開放を促進する。赤レンガカフェは外部業者に運営委託することも検討する。		●検討・実施	

1　計画・運営への学生や市民の参加　–コミュニティーの計画ディテール–

■方針

ハードからソフトまでキャンパスづくりに積極的に学生や市民の参加を促し、地域に開かれた愛着あるキャンパスとする。

●ミクロスの森の利用

広場で多種多様なイベントを企画または募集する。学内だけでなく一般市民の活動の場としても利用してもらう。また、植栽などの管理も市民やNPO団体と連携しながら協働できる仕組みを構築する（キャンパス通貨など）。

●赤レンガカフェの運営

質の高いサービスを提供するため外部業者への委託も検討し、心地よい時間がすごせる空間とする。また、病院とのつながりから「健康」「安全」をコンセプトに有機野菜をつかった料理や薬膳ランチなど体によい食事を提供したり、学生のための料理教室も開催するなど集客につとめる。



地元の食材を生かした五穀膳の例

2　施設の地域開放　–コミュニティーの計画ディテール–

■方針

キャンパス内の施設を地域に開放し、多くの人が利用できるようにする。

●既存施設（運動施設・図書館・福利施設）

民間経営会社とのPFI契約（土日に限る）によりトータル的な施設運営管理や柔軟なソフト展開も検討する。



体育館

［参考］　ＰＦＩ（Private Finace Initiative）

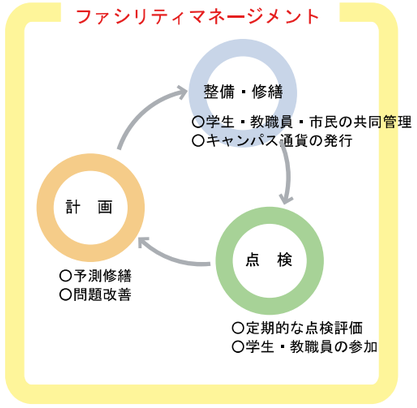
公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力、技術的能力を活用して行う事業手法。

民間のノウハウを活用することにより、国や地方公共団体等が直接実施するよりも効率的かつ効果的に公共サービスを提供できる場合に採用される。

３－３－７　維持管理の計画

■現状と課題

施設維持管理は維持管理部署によって把握実施されており、施設マネージメントのデータベース化及び運用のためのシステム（スクールプラン）を平成19年度より導入している。

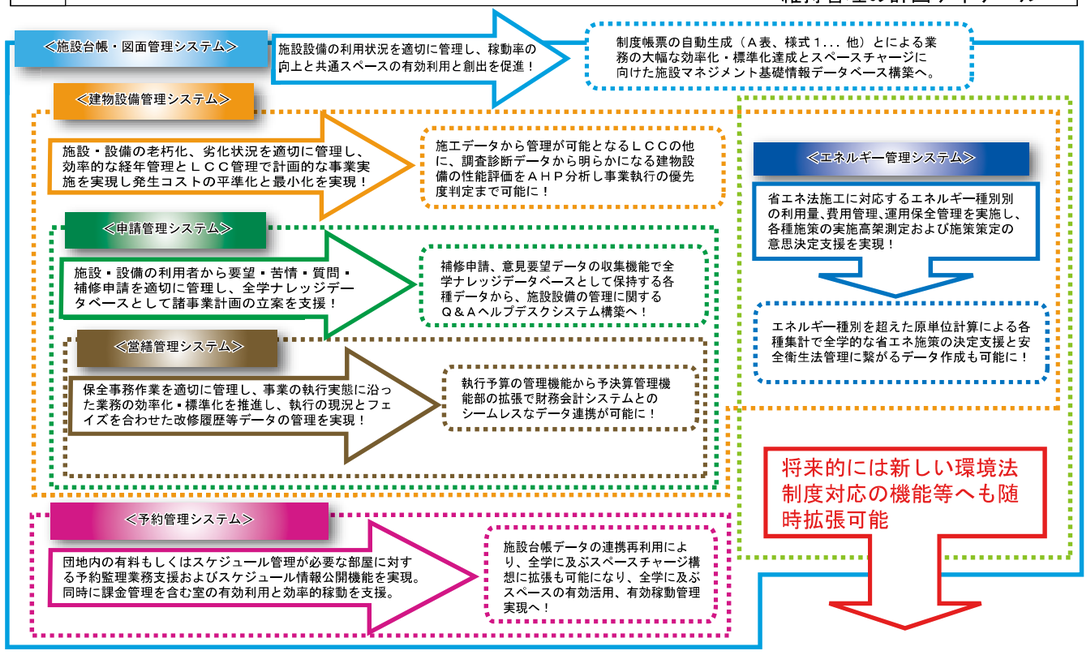


■方針

まず施設の状況を常に把握し計画的に修繕し維持していくことが重要である。また、学生や教職員も参加して点検することにより施設管理職員だけでは把握しきれないニーズに合った修繕ができるとともに施設維持への意識向上も期待できる。ペンキの塗り替えなどの簡易作業は、一般市民も参加できるイベントとして企画し、地域ぐるみで大学を支えていく仕組みをつくっていくことも重要である。

事　業　項　目		事業展開：短期	中期	長期
１．施設管理のシステム化（ファシリティマネージメント）	キャンパス全体を総合的かつ長期的視野にたって統括し、各維持管理部署との情報を共有するデータベースをつくる。	●データベース化 → 随時更新		
２．参加型点検評価	学生や教職員等が定期的に点検するキャンパスパトロールを実施し、そのデータを蓄積管理し、修繕計画へ反映させる。	●点検組織づくり → 定期点検実施		
３．キャンパス通貨、NPO団体等との協働	外構の植栽管理などは市民やＮＰＯ団体と協働し、協力に対する対価補償としてキャンパス通貨などを検討する。		●キャンパス通貨の運用	

1　施設管理システム（スクールプラン）　ー維持管理の計画ディテールー



信州大学キャンパスマスタープラン　Shinshu University Campus Master Plan 2007

Ｂ．長野（教育）キャンパス　～ こどもと地域と学びあう　まちなかキャンパス ～





序．キャンパスマスタープランについて

１－１．キャンパスマスタープランの必要性と策定の経緯 …… 序－1

１－２．キャンパスマスタープランの位置づけ …… 序－1

１－３．アクションプランの位置づけ …… 序－1

１－４．信州大学の理念との整合 …… 序－2

１－５．信州大学「信州大学ビジョン2015／信州発飛翔プラン」との整合 …… 序－2

１－６．キャンパスの全体像 …… 序－5

Ｂ．長野(教育)キャンパス

２．現状と課題

２－１．配置図・現状写真・問題点 …… B－1

２－２．ディベロップメントプラン …… B－1

３．長野(教育)キャンパスマスタープラン

３－１．キャンパスマスタープランの目標と作成方針 …… B－2

３－２．基本方針と戦略 …… B－3

３－３．カテゴリー別計画

３－１．全体計画の骨子 …… B－4

３－３－２．建物の計画 …… B－5

３－３－３．オープンスペースの計画 …… B－7

３－３－４．交通の計画 …… B－10

３－３－５．インフラストラクチャーの計画 …… B－12

３－３－６．コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画 …… B－13

３－３－７．維持管理の計画 …… B－14

２－１．配置図・現状写真・問題点







問題点凡例

- 自転車が歩道を占領している
- 土日は駐車場の利用者は少ないため、善光寺に近い事から地域貢献を考える
- 正門から上がる道路は、スロープがきついため冬季にスリップする
- 登録文化財のレンガ造り倉庫であるが、有効利用されていない
- 福利施設の前にある３棟の建物群は、緑地帯との一体性が損なわれている
- グラウンドは有効利用されていない
- 県庁前道路からのアプローチで、第一体育館がランドマークになっている
- 北側住民の動線となっているので、サブ動線として考える必要がある
- ２２mの計画道路があるが、経緯が判らないので市に確認する必要がある







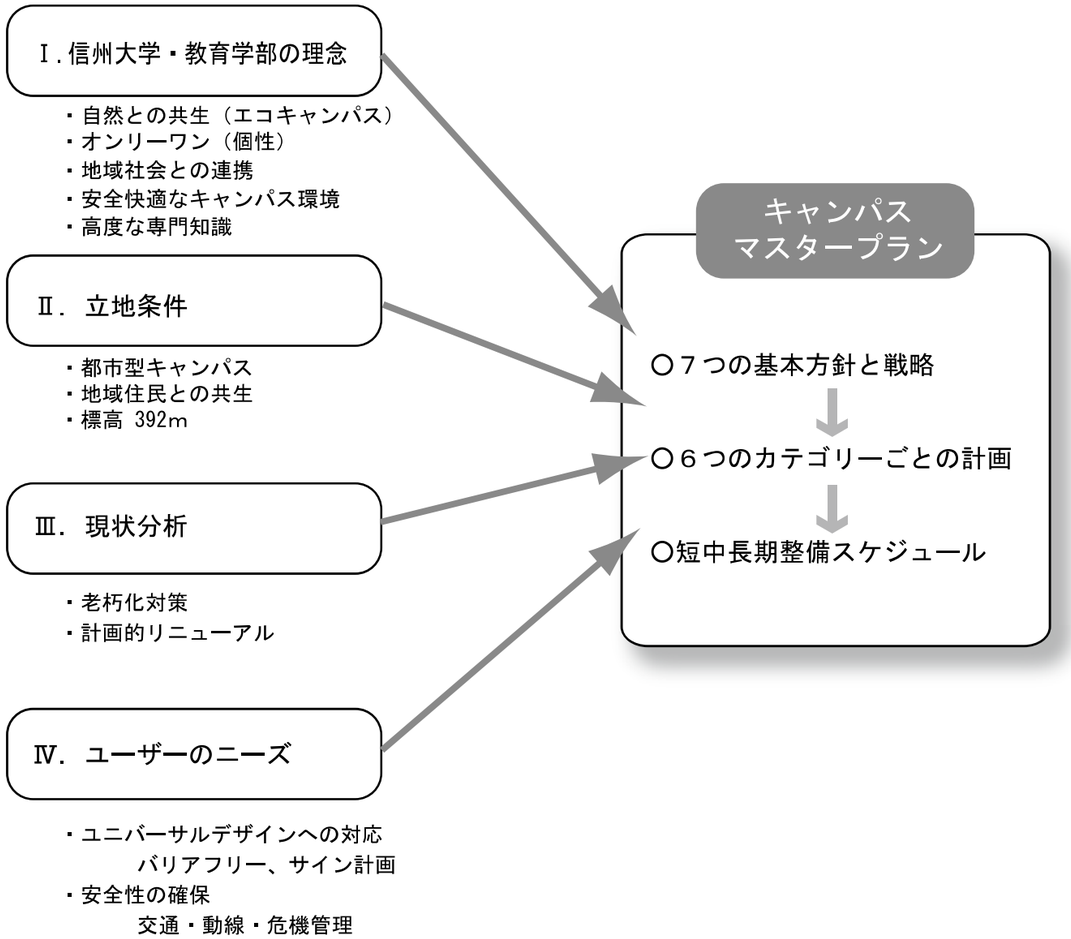
２－２．ディベロップメントプラン（今後改修が必要な建物一覧）

ディベロップメントプラン				
体育館改修	1965（昭40）	R1	1,156㎡	Is値0.74
人文美術校舎耐震改修	1966（昭41）	R4	4,960㎡	Is値0.44
北校舎改修	1966（昭41）	R2	1,056㎡	Is値0.94
管理校舎耐震改修	1967（昭42）	R4	2,667㎡	Is値0.31
図書館改修	1970（昭45）	R2	1,852㎡	Is値0.81
東校舎耐震改修	1978（昭53）	R5	2,154㎡	Is値0.51

Ｂ．長野(教育)キャンパスマスタープラン

３－１．キャンパスマスタープランの目標と作成方針

信州大学長野(教育)キャンパスは、大学の理念及び教育学部の理念に沿った研究教育等の諸活動を展開する舞台であり、それにふさわしい環境の整備と質の向上を確保することを目的とする。キャンパスマスタープランの作成にあたっては、それらの理念に則し、キャンパスの立地条件、前章で検討した現状分析及びその課題、ユーザーの要望を加味し、先ず基本方針と戦略を策定する。更にその内容を建物、オープンスペース、交通、インフラ、コミュニティ、維持管理という6つのカテゴリーに分類整理し、項目ごとに短・中・長期整備スケジュールを立案する。



■教育学部の理念・目標

（理　念）

教育学部は,信州の恵まれた自然環境と教育を尊重する県民の気風･風土の中で、豊かな人間性と専門的知識及び実践に培う基礎的能力を身につけた、明目の教育を担う人材を育成する。

このため、附属学校園との一体化はもとより、教育委員会や諸学校との連携を深め、地域や家庭の協力のもと実践的な知の体系としての「臨床の知」の修得を目指した教育研究を推進する。

（目　標）

「臨床の知」の理念のもと、次の目標を掲げて教育研究を推進する。

１．高度な専門知識と実践的な教育技術を身につけ、創造性に溢れた教育者の育成
２．附属学校園の積極的な活用等により、教え方の工夫や新たな教材開発など教育現場に役立つ研究の推進
３．教育委員会や地域の諸学校等と連携し、不登校、学力問題、カリキュラム開発等の多様な教育課題を解決するための専門的な支援
４．生涯教育･リフレッシュ教育等の地域社会の要請に対応する開かれた教育・研究体制の構築

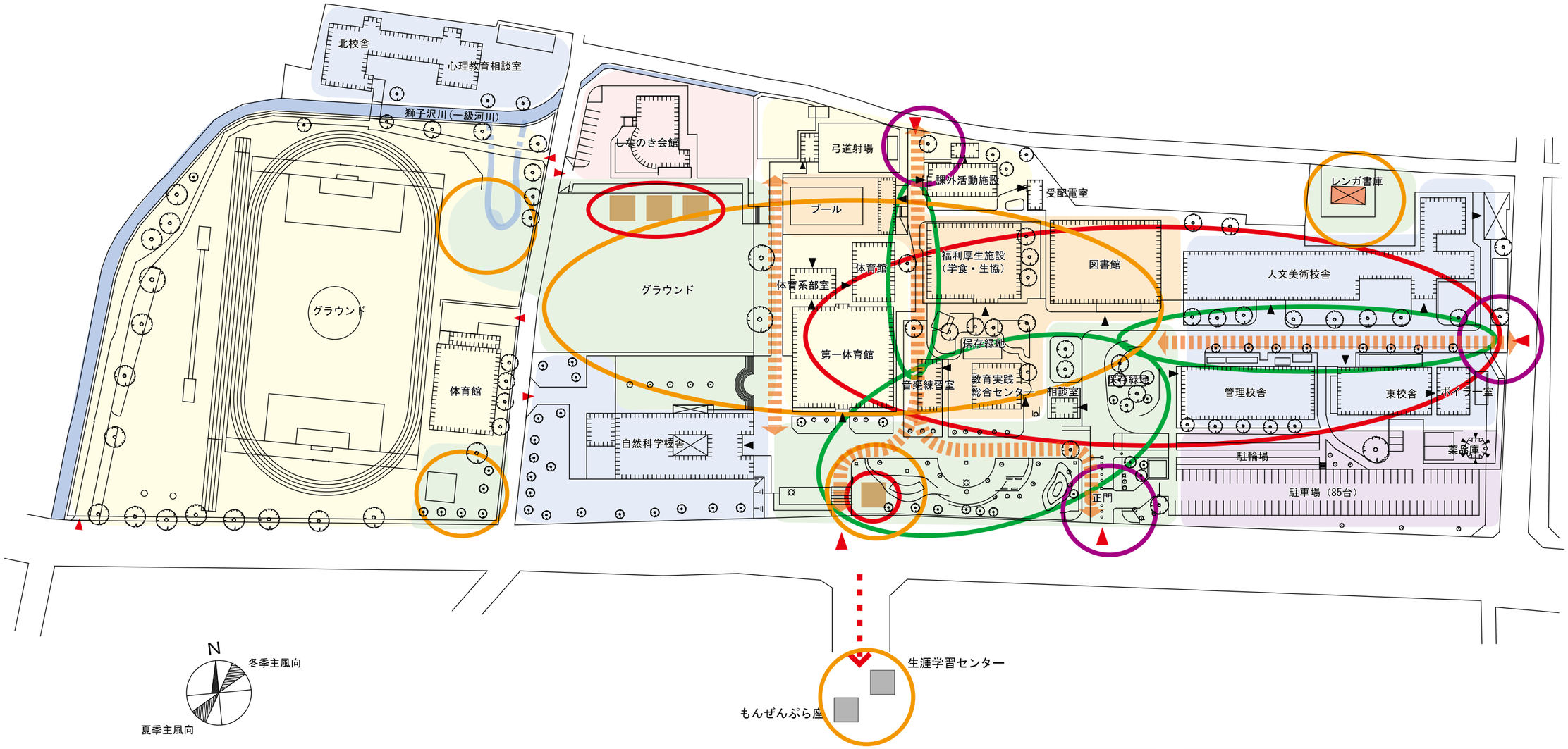
３－２．基本方針と戦略　　～こどもと地域と学びあう まちなかキャンパス～

キャンパス整備の基本方針とその戦略を下表にまとめる。

基本方針		戦略	カテゴリー
1	キャンパス アイデンティティー	【学部の特徴を生かす】 ・教育学部の多種多様な履修過程 【都市立地を生かす「都市型キャンパス」】 ・積極的なコミュニティ形成 ・学外施設の共有利用 ・周辺景観への配慮	・音、アートなど五感で感じる空間づくり ・交流施設整備 ・学外キャンパス、学内外サービス （生涯学習、小学校や空き店舗を利用した学習活動）	オープンスペース 建　物 コミュニティ
2	アメニティを高める 現状資産の活用	【心地よいキャンパス「空間秩序の明確化」】 ・大学の顔、象徴的建物[シンボル] ・地域に開かれた広場や通り抜けの道 ・エッジの景観とアクセスのしやすさ ・豊かな自然と眺望の確保 【ニーズに対応した施設利用】 ・学生、職員の交流スペース ・教育研究環境の充実 ・駐車場、駐輪場動線の見直し 【老朽化対策】 ・建物の安全性の確保	・シンボル広場整備(広場整備、体育館壁画、レンガ倉庫改修等) ・道の整備(舗装、緑化交流スペース) ・ゲートの整備 ・施設整備 ・機能改善 ・耐震補強 ・インフラストラクチャーの見直し	オープンスペース オープンスペース オープンスペース 建　物 建　物 建　物 インフラ
3	地域社会との連携	【「知財・人財・資財」の共有、発展】 ・産学官協働 ・施設開放（駐車場、図書館、体育館等） 【地域住民との共生】 ・パブリックスペースの協同管理、整備	・教育現場との連携、家庭との連携 ・駐車場の有料化と一般開放 ・図書館、福利施設等の地域開放 ・キャンパス通貨、NPO等との協働	コミュニティ コミュニティ コミュニティ 維持管理
4	参加型キャンパス	【キャンパスづくりへの学生・教職員の参加】 ・学生、教職員が参加した点検評価 ・意識向上	・定期的な点検評価のシステム、組織づくり ・キャンパスづくりへの参加活動	維持管理 建物・オープン
5	サスティナビリティ	【地域の風土の反映】 ・地場産材の使用や地域産業との連携 【エコキャンパス】 ・省エネ、CO2削減 【循環型社会への取り組み】 ・ゴミ削減、リサイクル、リユース	・県産材(信州唐松・土・わらすさ・和紙など)の使用 ・維持管理計画の策定 ・水路を活かしたビオトープづくり ・景観に配慮したゴミ置き場の整備	建物・オープン インフラ オープンスペース インフラ
6	ユニバーサルデザイン	【バリアフリー、ボーダーレスなキャンパス】 ・誰もが使いやすい 【わかりやすいキャンパス】 ・迷わない案内	・ユニバーサルデザイン（デザインガイドラインの策定） ・サイン計画	建物・オープン 建物・オープン
7	安全なキャンパス	【安全な歩行空間】 ・人と車と自転車の動線の分離 【防犯、危機管理】 ・夜間の安全性	・交通計画、駐車場計画、駐輪場計画 ・照明計画 ・廃棄物処理計画	交　通 オープンスペース インフラ

３－３　カテゴリー別計画

３－３－１　全体計画の骨子



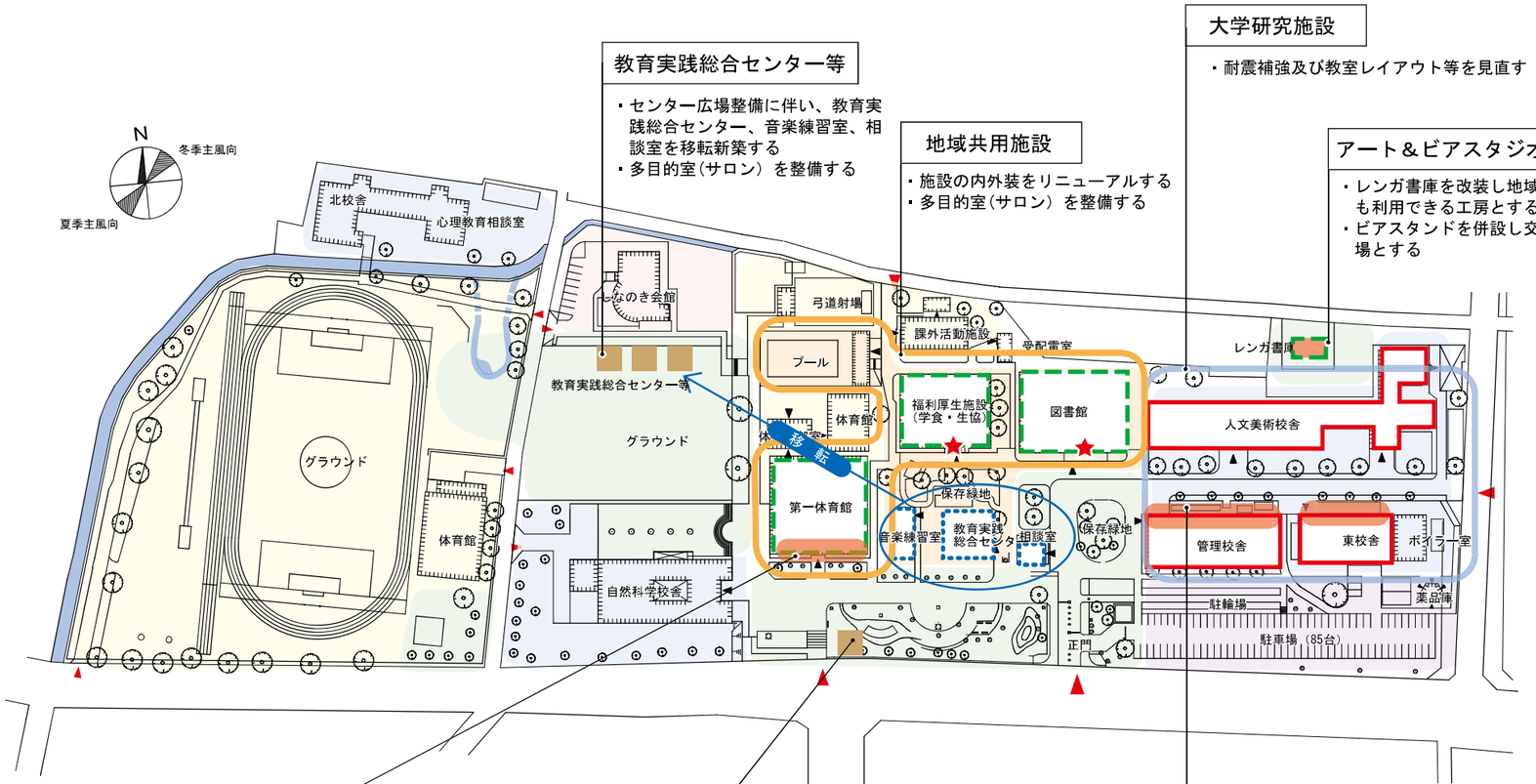
３－３－２　建物の計画

■現状と課題

現在ある建物は建設時期の古いものから比較的最近建てられたものまで、構造、規模、デザイン等統一されていない。また、内外装の老朽化が進み、耐震的に問題があるものもある。現状の施設を最大限に活かしつつ、構造的な安全性の確保とニーズに対応した空間の整備が必要である。

■方針

学生が安全かつ快適にキャンパスライフを送れるよう、既存建物の老朽化対策及び耐震補強をし、ニーズに対応したリニューアルを行う。内外装は地元の材料等の使用を積極的に検討する。さらに、キャンパスに愛着をもてるよう、建設過程においても学生や市民も参加できるような仕組みをつくることが望ましい。また、誰もが使いやすいユニバーサルデザインのガイドラインを作成し、順次整備する。



事　業　項　目		事業展開：短期	事業展開：中期	事業展開：長期
１．耐震補強	耐震強度の低い建物から順次補強改修していく。 また、補強工事と同時にファサードデザインの改善を行う。	●耐震設計→補強・改修		
２．施設整備	大学研究施設は学生や教職員のニーズにあったレイアウトを見直す。 地域共用施設は外来者にも心地よい空間にし、ビアスタジオやギャラリーカフェをつくり地域の人とも交流できる施設とする。それらの施設は学生提案、学生主体により運営管理する。また、体育館の壁画制作も学生や市民の参加で行う。	●施設利用方針検討　●施設設計	●ギャラリー&カフ　●福利厚生施設再生 ●体育館壁画　●レンガ書庫改装	●教育実践総合センター等移転新築
３．ユニバーサルデザイン	誰もが使いやすいデザイン、わかりやすい案内（サイン）のガイドラインをつくり、施設・空間設計に反映させる。	●デザインガイド作成 ●サイン計画		
４．県産材の使用	県産材(信州唐松・土・わらすさ・和紙など)を使用することを通じ、地域産業への関心を高める。		●施設計画に合わせて使用検討	

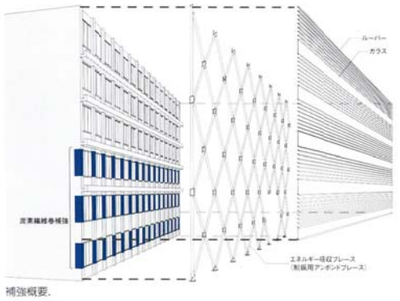
1 耐震補強 ―建物の計画ディテール―

■方針

1982年の耐震基準法改正以前に建設された強度不足の建物を耐震補強していく。また、単純な耐震補強に終らせることなくデザイン性を兼ね備えた整備を行う。

○東京工業大学の事例　（「新建築2006.7」より）

1967年に建てられた大学校舎の耐震補強改修工事で、従来より細めのブレース材を利用し、その上に人工木ルーバーを用いることにより、キャンパスの新たな顔となるデザイン性の高いファサードとなっている。




内観写真（改修後）


ファサード改修前


ファサード改修後

2 施設整備 ―建物の計画ディテール―

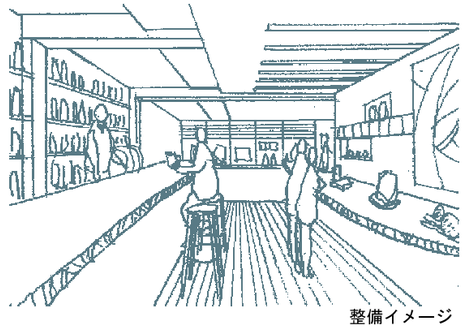
■方針

豊かなキャンパスライフを送れるようニーズにあった福利施設、地域の人も利用できる交流施設など、既存のストックを活用しながらアメニティの高い空間価値を付加していく。

●アート＆ビアスタジオ（旧レンガ書庫）

県の登録有形文化財であるレンガ書庫を美術学生の工房及びビアガーデンとし、学生だけでなく地域にも開放する。

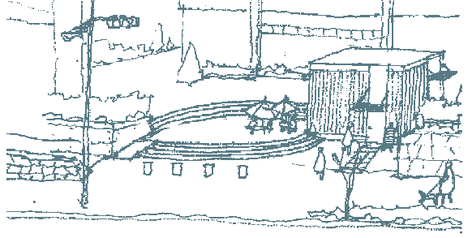

現　状


整備イメージ

●ギャラリー＆カフェ

県庁通りの正面に学生の作品などを展示したカフェを石垣の中段に設け、広場整備とともに歩道からの圧迫感をなくし、市民も利用しやすい形態とする。

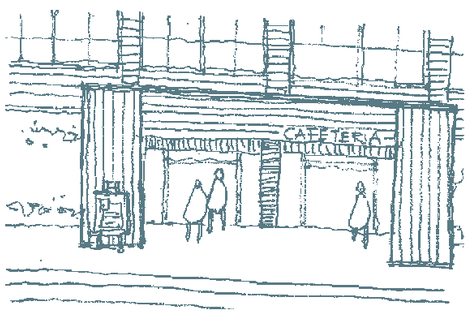

現　状


整備イメージ

●学生食堂の外装改修

学生や教職員以外にも市民が利用しやすいよう、県産材などを利用し入り口の改装を行う。


現　状



整備イメージ

3ー3ー3 オープンスペースの計画

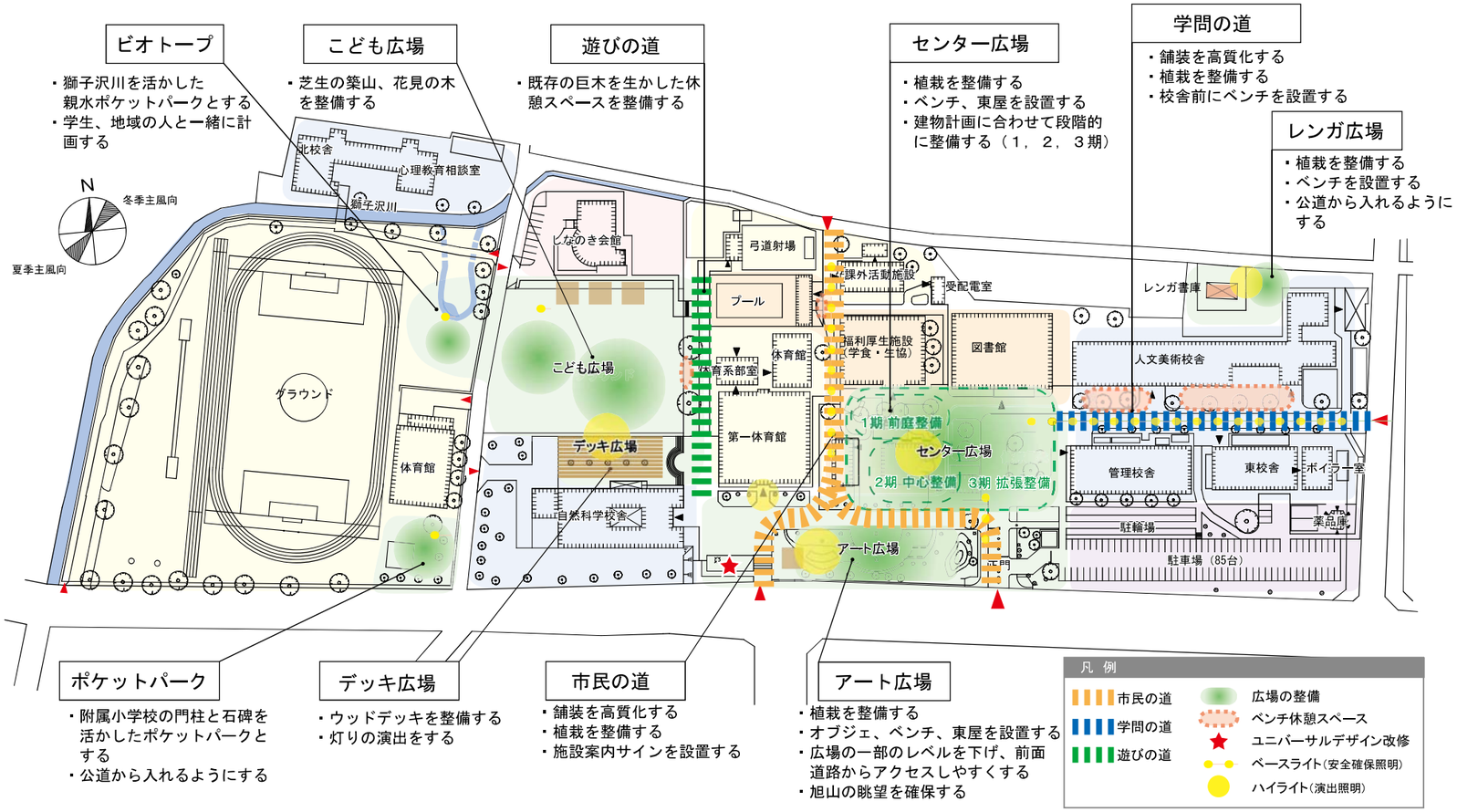
■現状と課題

現在のキャンパス内の広場としては、福利厚生施設前の保存緑地、国道406号線沿いの広場が学生たちの主な交流場所となっている。人文美術校舎の前には放置自転車も目立ち前庭の緑地がいかされてなく、アメニティの高い歩行空間としての整備が必要である。また、敷地周辺には住宅が立ち並び構内を通り抜け散歩する人も多く、構内の緑地やグラウンドは地区公園としての利用ニーズもある。敷地の高低差に配慮しながら市民が入りやすいゲートや道、広場の整備を行う必要がある。

■方針

学生や教職員だけではなく地域の人にも広く利用される魅力的な広場を目指し、アクセスしやすい快適な道やわかりやすいゲートを整備する。既存の緑地や獅子沢川といった自然資源も有効に活用し、近隣の子ども達も遊べる広場とし、学生の教育実践の場としても活用する。塀や石垣などで閉じている敷地境界は、ビオトープやポケットパーク、アート広場など沿道に開かれた圧迫感のない空間とする。

外来者も気持ちよく利用できるようにベンチや照明、わかりやすい案内を整備する。



事　業　項　目		事業展開 短期 / 中期 / 長期
１．広場整備	緑地、アート広場と地域の人も広く利用できる魅力的な広場を整備する。建物計画とともに段階的に行う。	センター広場 1期(前庭) ●設計 ●整備 ／ デッキ・こども広場 ●設計 ●整備 ／ アート広場 ●設計 ●整備 ／ レンガ広場 ●設計 ●整備 ／ センター広場 2期(中心) ●設計 ●整備 ／ センター広場 3期(拡張) ●設計 ●整備
２．道の景観整備	「学問の道」は、人文美術校舎の前庭スペースと合わせて学生や教職員のためのアメニティの高い道とし、自転車が放置されないようにする。また、「市民の道」遊びの道」は広場と一体感を持たせ、通り抜けしやい道とする。	市民の道(南北) ●設計 ●整備 ／ 学問の道(東西) ●設計 ●整備 ●人文美術校舎前整備(ベンチ、休憩スペース)
３．ポケットパーク ビオトープづくり	獅子沢川を活かした親水ポケットパークを地域住民と一緒につくり、子供達の遊び場となるよう整備する。また、旧付属小学校の門柱があるところもポケットパークとし、地域の人が休める場とする。	ビオトープ ●設計 ●整備 ／ ポケットパーク ●設計 ●整備
４．サイン計画	外来者にわかりやすくトータルデザインされた案内サインを整備する。	●サイン計画 ●随時整備
５．照明計画	主な道には夜間の安全を確保できるようにベースライトを整備し、街区の顔となる体育館前やアート広場などは演出効果の高いハイライトにするなど、空間に適した照明方法とする。	●照明設計 ●随時整備
６．ユニバーサルデザイン	誰もが使いやすいデザイン、わかりやすい案内、敷地内の段差解消などのガイドラインをつくり、空間設計に反映させる。	●デザインガイド作成 ／ ●アート広場のスロープ計画

1 広場整備 –オープンスペースの計画ディテール–

■方針

旭山の眺望や夜間の照明演出等の工夫をし、地域の人も広く利用できる緑豊かな広場を整備する。また、教育学部らしく、音やアートなど五感で感じる空間づくりとする。

●センター広場１期整備

図書館及び学食前の保存緑地地帯をアメニティの高いコミュニティースペースとして植栽の再整備とベンチ等の整備を行う。



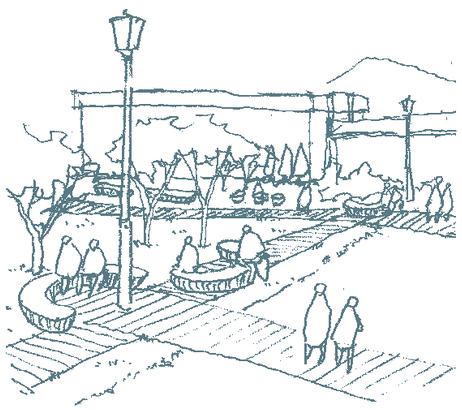
現　状



整備イメージ

●センター広場２期３期整備

第２期整備においては教育実験総合センターを移転して当該建物を除去し、広場スペースを拡張する。第３期では相談室音楽練習室の移転を行い両建物の除去を行い、キャンパスのコミュニティの中心となるようなシンボル広場としてゆとりのある空間を形成する。



整備イメージ

●こども広場

子どもやその家族が集い楽しめるよう全体に起伏をつけた芝生広場や、桜やもみじなどを植樹し、一年を通して四季の移ろいを感じ取れる広場計画とし、学生主体でイベントなど開催し積極的に活用する。



現　状



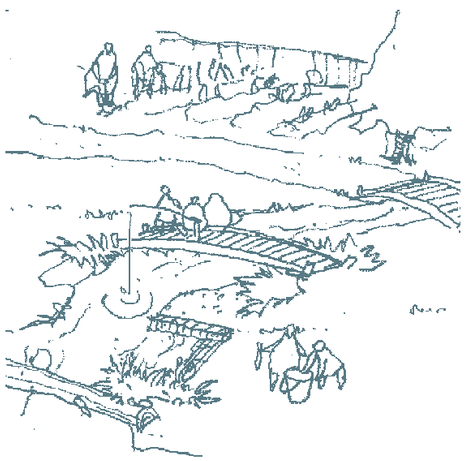
整備イメージ

●ビオトープ

夏にホタルが舞う獅子沢川をグラウンド側に一部引き込み、ビオトープを形成する。計画段階から子どもを交えた地域住民とワークショップを開催するなどして、整備後の維持管理（植栽の手入れなど）においても地域と共同に行う。



獅子沢川



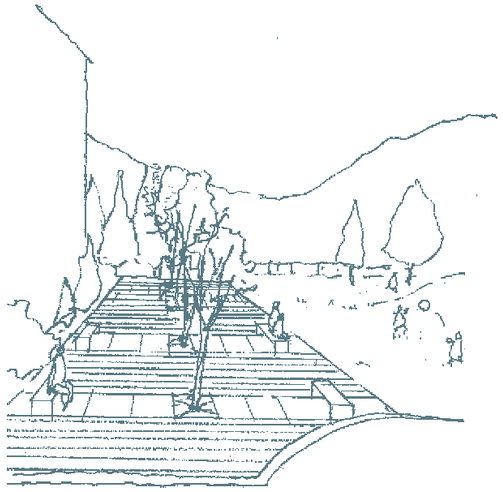
整備イメージ

●デッキ広場

既存の植栽を生かしながら浮き床のウッドデッキを施す。床下から照明することで、こども広場やしなのき会館側から眺める広場として位置づけ、夏場は夕涼みの広場としても利用できる。



現　状



整備イメージ

〇東京工業大学の事例　（「新建築2006.7」より）

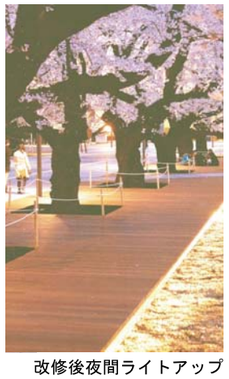
アスファルトの車道及び歩道を、ウッドデッキ舗装にリニューアルし、道路両脇の桜並木と芝生のオープンスペースを最大限に利用してシンボルロードとして整備した。



改修前



改修後昼間の風景



改修後夜間ライトアップ

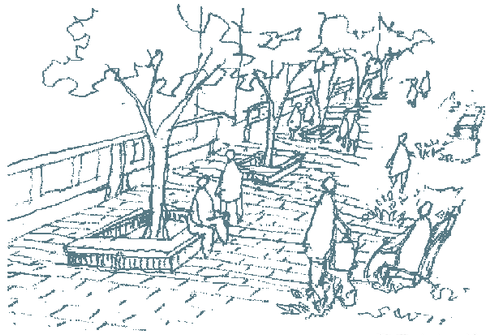
2　道及びゲートの整備　–オープンスペースの計画ディテール–

■方針

各門から伸びる東西、南北に通る道をキャンパスの軸として位置づけ、周辺の建物や広場とを結ぶ回遊ネットワークとして整備する。また、アメニティの高い憩いのスペースとしてベンチや植栽を整備していく。

●学問の道

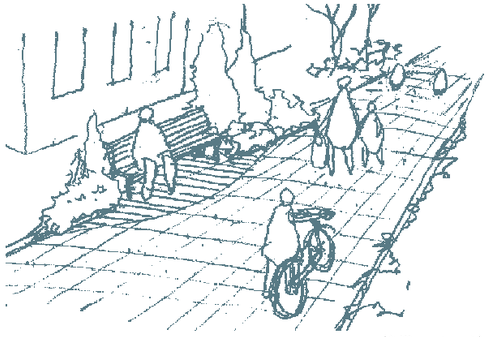
センター広場と教育研究ゾーンを結ぶ道は主に学生や教職員が使用する。ベンチを備えた並木道を整備し、休み時間などの休憩スペースとする。



整備イメージ

●市民の道

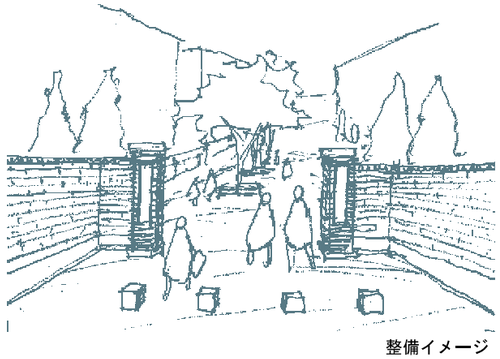
東西に長い本キャンパスにおいては北門から正門へ抜ける市民が多い。その通り抜けの道を「市民の道」として舗装を高質化したりベンチを設置するなど景観整備する。



整備イメージ

●ゲート整備

キャンパスへのアクセスポイントとして特に重要と思われる4つの出入り口について統一されたデザインのゲートを整備していく。



整備イメージ

3ー3ー4　交通の計画

■現状と課題

現在、国道406号線沿いに85台の駐車スペースがあり、正門と北門より構内へ車両の乗り入れが可能である。駐車場のスロープの勾配がきつく、冬季のスリップ対策が必要である。

また、自転車置き場は各所にまとまった規模で設置しているが、校舎前に放置されている自転車が多く、エントランスをふさいでるほか美観も損なっているため、その対策が課題である。

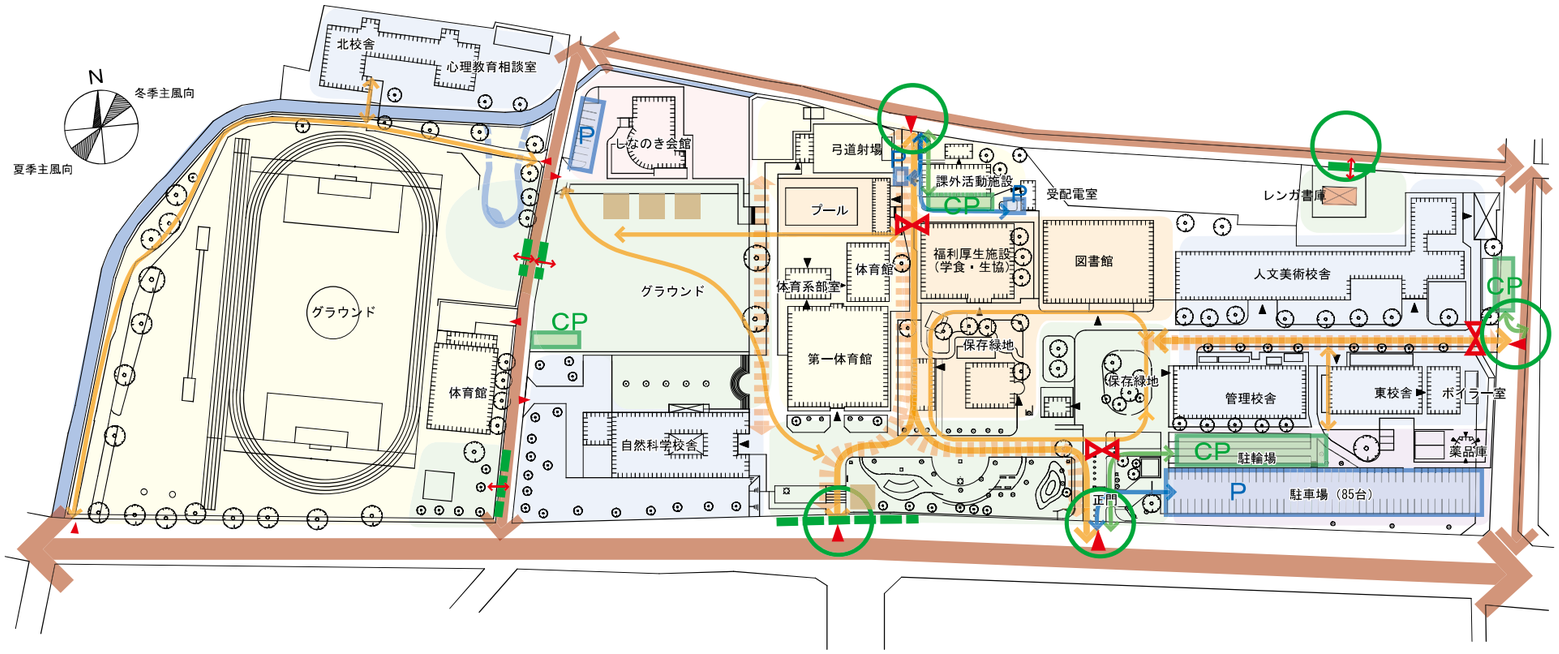
学生	1,036人
教員	101人
事務職員	25人

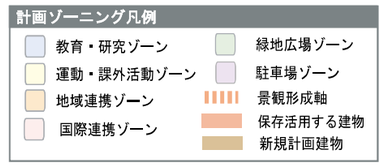
車両入構許可証発行枚数	374 枚
駐車場	84 台
駐車台数	60 台
駐輪場	370 台(1学生あたり0.25)
自転車台数(バイク/自転車)	50/250 台

（平成18年9月現在）

■方針

安全な歩行空間を確保するため歩車分離とする。原則として車両、自転車ともにゲート近くの駐車場および駐輪場にとめ、構内は歩くように促す（Park & Walk）。ただし、緊急車両やサービス用車両の乗り入れはできるようにする。また、自転車で通過する外来者の取扱いに関しては今後検討していく。







事　業　項　目		事業展開 短期 6	中期 12
1．駐車場計画	構内侵入を防ぐための車止めやサインを設置する。また、駐車場の冬季スリップ対策として舗装を改善し、正門の車両ゲートを撤去し駐車場出入口のみとする。	●駐車場整備	
2．駐輪場計画	現在の収容量を確保しながら各ゲート近くへ集中設置する（多段式等の検討）。また、不正駐輪を予防するため利用者登録制とし有料シールの導入などを検討し、適正数を維持する。	●駐輪場整備	
3．ゲートの整備	道の整備と合わせて大学の門構えや塀の改修を行う。 また、レンガ広場やポケットパーク及びビオトープやこども広場のアクセスゲートを整備し、ビオトープとこども広場を横断する公道は車速を抑制する措置を講ずる。		●「遊びの道」ベンチ整備 ●「市民の道」ゲート整備 ●「学問の道」ゲート整備

1 駐車場整備 ―交通の計画ディテール―

■方針

車はキャンパスの正門横にある駐車場に駐車し、原則としてキャンパス内への乗り入れを制限する。正門入り口部分の車両ゲートを撤去し、脱着式の車止めにより緊急車両や身障者の乗り入れはできるようにする。車両ゲートは駐車場出入口のみとする。また、駐車場の冬季スリップ対策として舗装を改善する。


正門入り口のゲート


駐車場


構内道路での路肩駐車


照明器具もかねた車止めの例

2 駐輪場整備 ―交通の計画ディテール―

■方針

現在自転車はキャンパス景観を損ねる最も大きな要因となっている。そこで自転車についても車同様に、エントランスに隣接する駐輪場に停めることを徹底し、キャンパス内移動は徒歩とする。そのためエントランスに隣接する駐輪場を２段式に整備し収容能力を高める整備を行う。


放置自転車は歩行者の障害となっている


ロータリー付近は車両の通行もあり危険である


2段式駐輪システムの例

３－３－５　インフラストラクチャーの計画

■現状と課題

［電気設備］　１回線高圧受電方式で、２系統受電し共同溝を介して各棟へ配電。

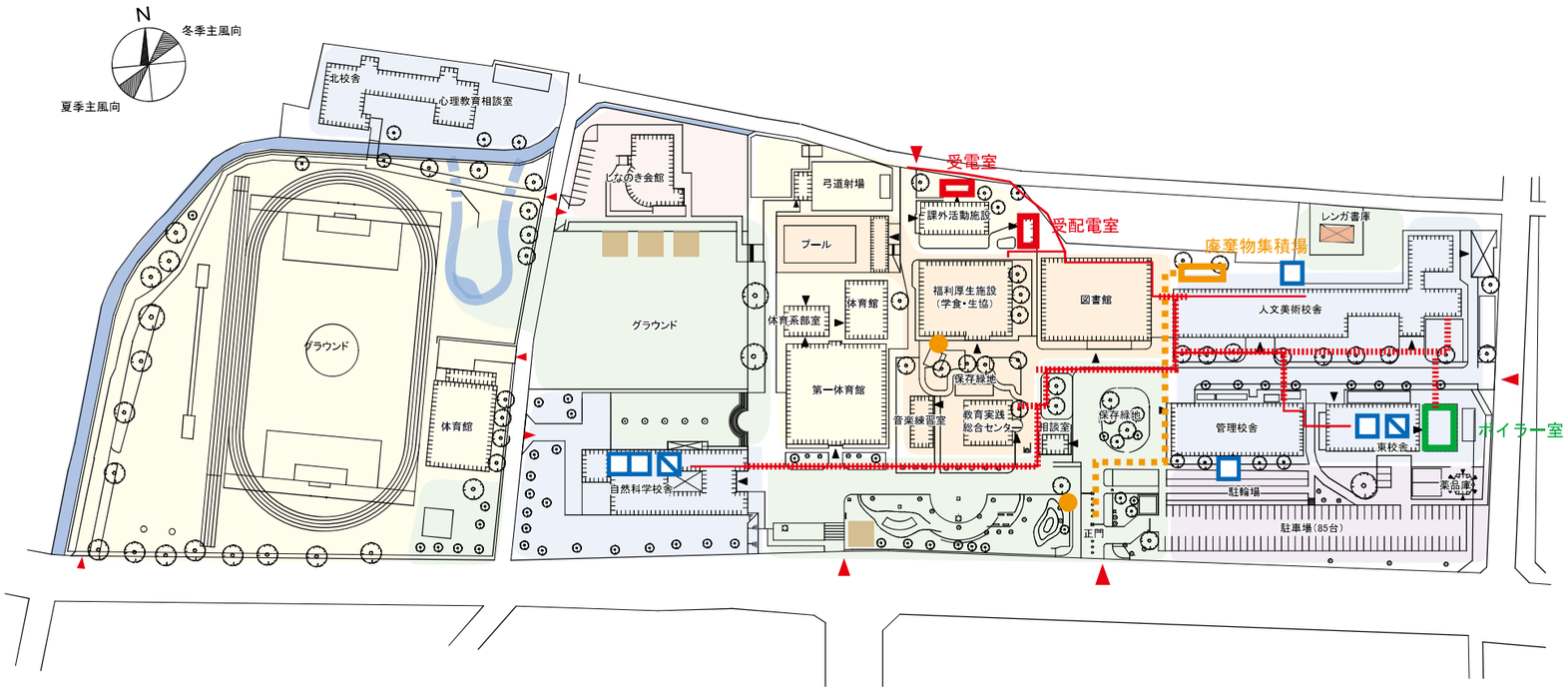
［給水設備］　市水本管より供給を受け、低層建物は直結給水方式、高層建物は高架水槽方式により各建物に給水。高置水槽の衛生面が課題。

［排水設備］　雨水系・生活系・実験系の３系統分流式。雨水系は、地下浸透及び公共側溝へ放流。生活系・実験系は公共下水道へ放流。尚、実験排水の一部はPH濃度をモニタリングしている。

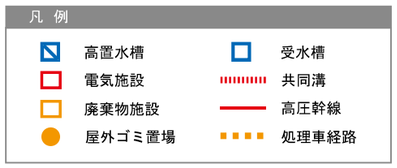
［ガス設備］　都市ガス(13A)を３箇所より引き込み、土中埋設配管にて各建物に供給。

［空調設備］　新営建物についてはガスヒートポンプによる個別空調が主体。それ以外は蒸気による暖房となっており、熱源はボイラ室より供給しているが各建物一括供給であるため、個別暖房ができずエネルギーロスが多い。各施設に適したシステムが必要。

［廃棄物］　資源の有効活用のため分別の徹底により、リサイクル化を推進。それ以外の一般廃物及び実験系廃棄物は業者に委託して処理している。







■方針

１．省エネルギー化

　設備機器（ボイラー）の耐用年数を鑑みGHP（ガスヒートポンプ）、EHP（電気ヒートポンプ）の比較検討の上で将来性、経済性、快適性、維持更新のしやすさなどの観点から維持管理計画の策定を進めていく。

２．地球環境への配慮

　CO2の排出を削減するためその目標値を設定し、到達するまでのロードマップを作成する。省エネだけでなく低公害の太陽エネルギーなどの創エネ（新エネルギーの供給）も組み合わせて目標達成に努める。

３．循環型社会への取り組み

　ゴミの分別収集の徹底による再資源化、汚濁物（水、空気、物質）処理におけるエネルギー利用化を図るなど各キャンパスの課題としてキャンパス毎に研究し取り組んでいく。

○衛生管理上の問題から、高置水槽による低層建物への給水からポンプ圧送方式への移行を検討する。

項　目	事業展開		
	短　期	中　期	長　期
１．インフラ整備	●維持管理計画策定 ●給排水･ガス配管の改修および更新 ●空調熱源の検討 ●加圧ポンプ式給水の検討		
２．廃棄物処理	●処理方法の検討	●ゴミ置き場の整備 ●その他廃棄物処理施設の整備	

３－３－６　コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画

■現状と課題

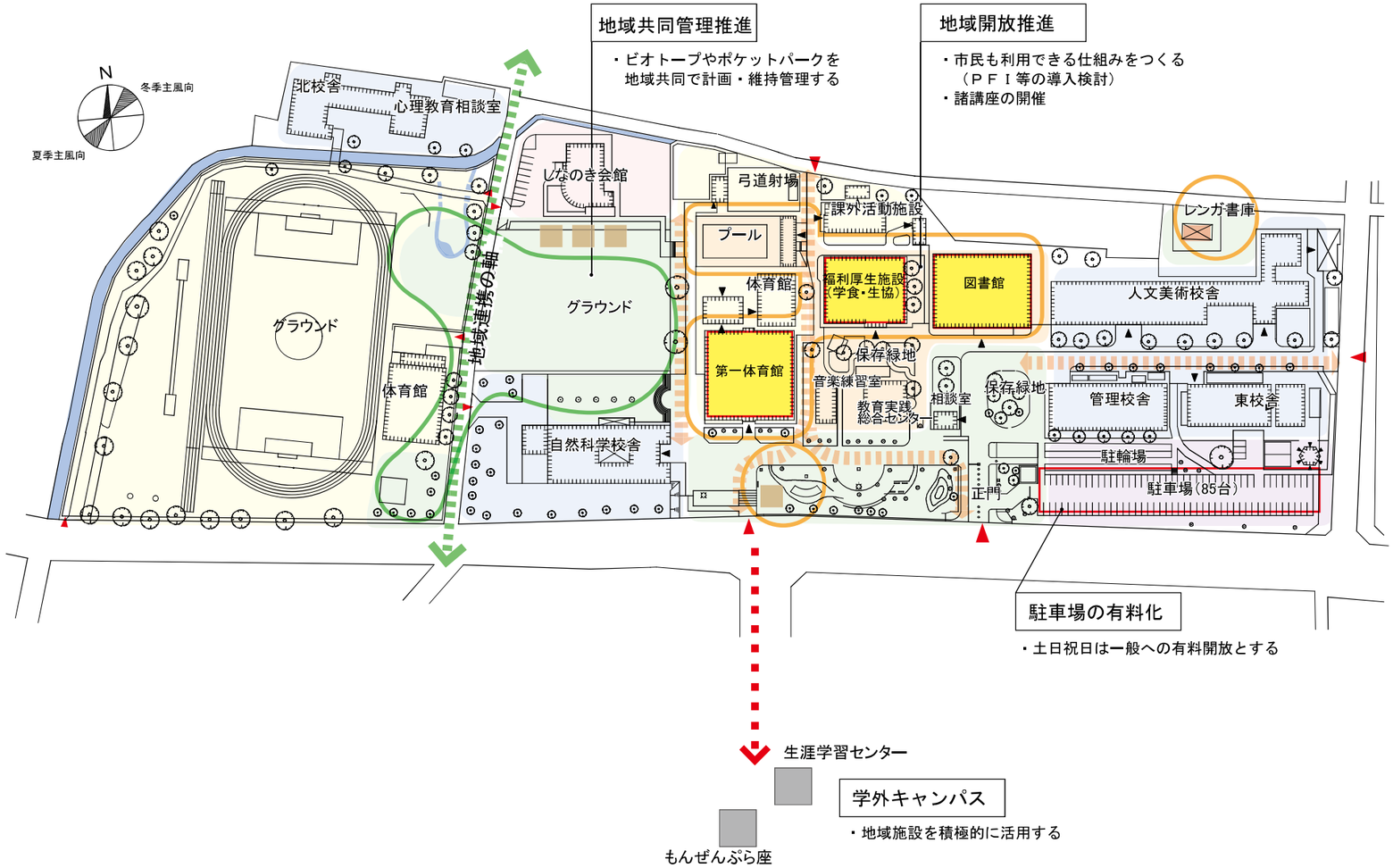
地域との連携は今後の大学に求められる重要な責務のひとつである。現在、地域の人が利用できる施設は図書館、福利厚生施設、グラウンドなどであるが、積極的に宣伝開放しているわけではないので外来者利用率は低い。本学部の教員が学校等の地域の教育関係機関の求めに応じ、出向して講義等を行なう「出前講座」を実施したり、公開講座の開催や心理教育相談室など地域へのサービス提供も行われている。

中心市街地に隣接した当立地においてさらに地域連携を強化し、大学施設、教員、学生を地域の財産として活用してもらえる仕組みをつくると同時に、我々も地域の施設を利用したり大学の枠を越え学生の社会参加を促すべきである。

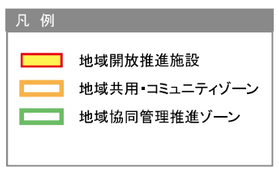
■方針

現在実施されている出前講座や公開講座などをさらに発展させ、文部科学省の「放課後子どもプラン」に即した学生のチューター制度などを推進し、地域との結びつきをより深くする。また、キャンパス内の施設を積極的に市民に開放するために利用できる範囲を明確にし周知宣伝し、構内にて諸講座を柔軟に展開できるような環境整備もあわせて行う。

さらに、土日祝日の利用率が低い駐車場も観光客や市民が利用できるようにする。学外施設の利用としてはもんぜんぷら座や生涯学習センターなど中心市街地の施設も積極的に利用する。







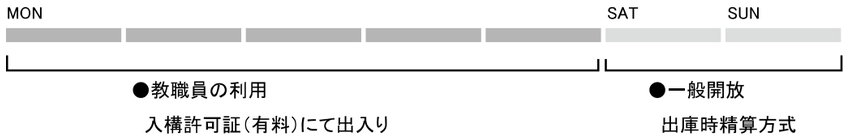
事　業　項　目		事業展開 短期	中期	長期
１．駐車場の有料化と一般開放	教職員の利用は平日に限り、有料化する。 土日祝日は観光客など市民に有料開放できるようゲートを改修する。	●検討・実施		
２．施設の地域開放推進	諸施設の民間開放を促進する一方、土日祝日といった限定期間において民間へ施設を貸し出し、その運営管理も任せるＰＦＩ方式の導入も検討する。		●検討・実施	

1　駐車場の有料化
ーコミュニティーの計画ディテールー

■方針

現在、駐車場を利用しているのは主に教職員であり、利用率が低くなる土日祝日を一般に有料で開放することを検討する。

また、教職員の利用についても年間維持費として有料化を検討する。



［参考］大門町周辺駐車場利用料金(平成18年12月現在)

○善光寺大門町栄表参道パーキング　1時間300円(18台)

○長野市大門駐車場　1時間300円(11台)

○表参道もんぜん駐車場　20分100円(48台)

2　施設の地域開放
ーコミュニティーの計画ディテールー

■方針

図書館、体育館、グラウンド、福利厚生施設（学生食堂、生協）等の大学所有施設の地域開放を促進する。

●体育館、グラウンド

地域スポーツの振興、健康づくりのため、土日に限り申込みのあった団体や個人の使用を認める。

また、民間経営会社とのＰＦＩ契約（土日に限る）によりトータル的な施設運営管理や柔軟なソフト展開も検討する。

●図書館

一般市民の利用は受付カウンターにて申込み、閲覧、貸し出しが可能となる。

●福利厚生施設（学生食堂、生協）

一般市民の利用。

［参考］　ＰＦＩ（Private Finace Initiative）

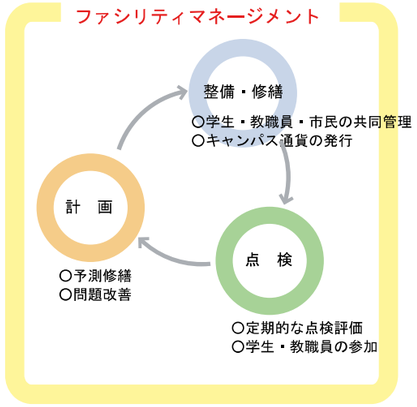
公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力、技術的能力を活用して行う事業手法。

民間のノウハウを活用することにより、国や地方公共団体等が直接実施するよりも効率的かつ効果的に公共サービスを提供できる場合に採用される。

３－３－７　維持管理の計画

■現状と課題

施設維持管理は維持管理部署によって把握実施されており、施設マネージメントのデータベース化及び運用のためのシステム（スクールプラン）を平成19年度より導入している。

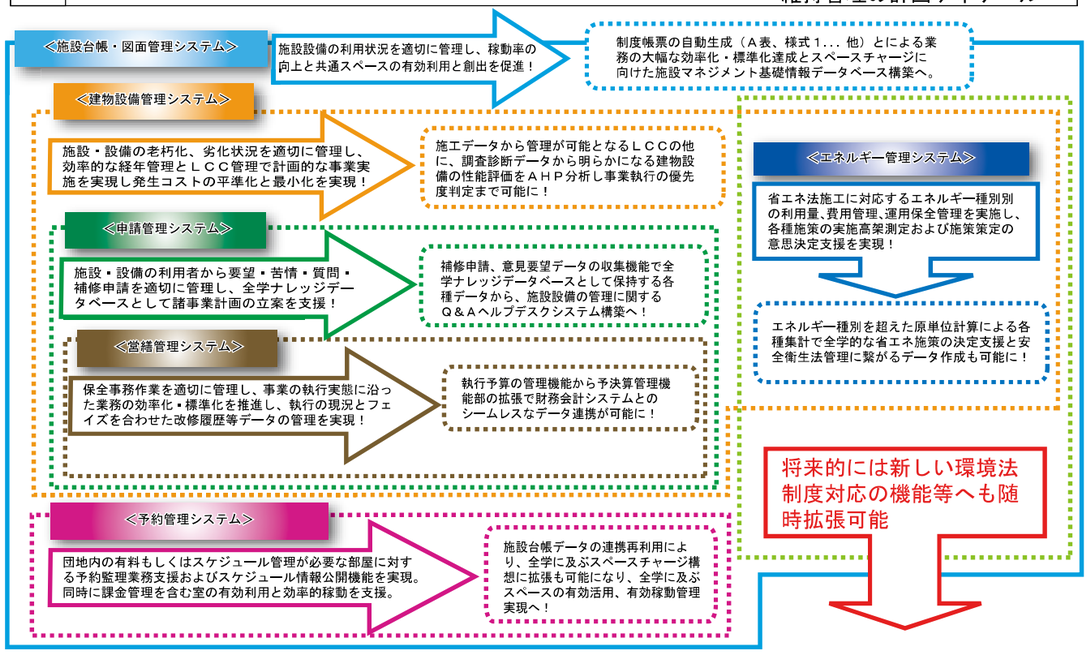


■方針

まず施設の状況を常に把握し計画的に修繕し維持していくことが重要である。また、学生や教職員も参加して点検することにより施設管理職員だけでは把握しきれないニーズに合った修繕ができるとともに施設維持への意識向上も期待できる。ペンキの塗り替えなどの簡易作業は、一般市民も参加できるイベントとして企画し、地域ぐるみで大学を支えていく仕組みをつくっていくことも重要である。

事　業　項　目		事業展開 短期	中期	長期
１．施設管理のシステム化（ファシリティマネージメント）	キャンパス全体を総合的かつ長期的視野にたって統括し、各維持管理部署との情報を共有するデータベースをつくる。	●データベース化 → 随時更新		
２．参加型点検評価	学生や教職員等が定期的に点検するキャンパスパトロールを実施し、そのデータを蓄積管理し、修繕計画へ反映させる。	●点検組織づくり → 定期点検実施		
３．キャンパス通貨、NPO団体等との協働	外構の植栽管理などは市民やＮＰＯ団体と協働し、協力に対する対価補償としてキャンパス通貨などを検討する。		●キャンパス通貨の運用	

1　施設管理システム(スクールプラン)
ー維持管理の計画ディテールー



信州大学キャンパスマスタープラン　Shinshu University Campus Master Plan 2007

Ｃ．長野（工学）キャンパス　～ 緑萌えるふれあい工房　ものづくりキャンパス ～





序．キャンパスマスタープランについて

１－１．キャンパスマスタープランの必要性と策定の経緯 …… 序－1
１－２．キャンパスマスタープランの位置づけ …… 序－1
１－３．アクションプランの位置づけ …… 序－1
１－４．信州大学の理念との整合 …… 序－2
１－５．信州大学「信州大学ビジョン2015／信州発飛翔プラン」との整合 …… 序－2
１－６．キャンパスの全体像 …… 序－5

C．長野(工学)キャンパス

２．現状と課題
２－１．配置図・現状写真・問題点 …… C－1
２－２．ディベロップメントプラン …… C－1

３．長野(工学)キャンパスマスタープラン
３－１．キャンパスマスタープランの目標と作成方針 …… C－2
３－２．基本方針と戦略 …… C－3
３－３．カテゴリー別計画
３－１．全体計画の骨子 …… C－4
３－３－２．建物の計画 …… C－5
３－３－３．オープンスペースの計画 …… C－7
３－３－４．交通の計画 …… C－9
３－３－５．インフラストラクチャーの計画 …… C－11
３－３－６．コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画 …… C－12
３－３－７．維持管理の計画 …… C－13

２－１．配置図・現状写真・問題点











問題点凡例

- 中央広場が保健室２棟で分断されているため、一体感が損なわれている
- 管理棟周辺の駐車場を見直し、整備する
- 講堂は老朽化の対策が必要であるが、地域貢献施設としての再生整備も考慮する
- 工学部図書館は経年劣化により老朽化が進んでいるので改修を検討する
- 体育館は老朽化が激しいが、学生・教員の福利施設としても検討する

２－２．ディベロップメントプラン（改修が必要な建物一覧）

ディベロップメントプラン				
電気電子工学科西棟耐震改修	1964(昭39)	R4	2,360㎡	Is値0.39
社会開発工学科東棟改修	1966(昭41)	R4	2,313㎡	Is値0.43
講義棟耐震改修	1969(昭44)	R3	2,545㎡	Is値0.47
情報工学科耐震改修	1975(昭50)	R6	4,708㎡	Is値0.54

Ｃ．長野(工学)キャンパスマスタープラン

３ー１．キャンパスマスタープランの目標と作成方針

信州大学長野(工学)キャンパスは、大学の理念及び工学部の理念に沿った研究教育等の諸活動を展開する舞台であり、それにふさわしい環境の整備と質の向上を確保することを目的とする。キャンパスマスタープランの作成にあたっては、それらの理念に則し、キャンパスの立地条件、前章で検討した現状分析及びその課題、ユーザーの要望を加味し、先ず基本方針と戦略を策定する。更にその内容を建物、オープンスペース、交通、インフラ、コミュニティ、維持管理という6つのカテゴリーに分類整理し、項目ごとに短・中・長期整備スケジュールを立案する。

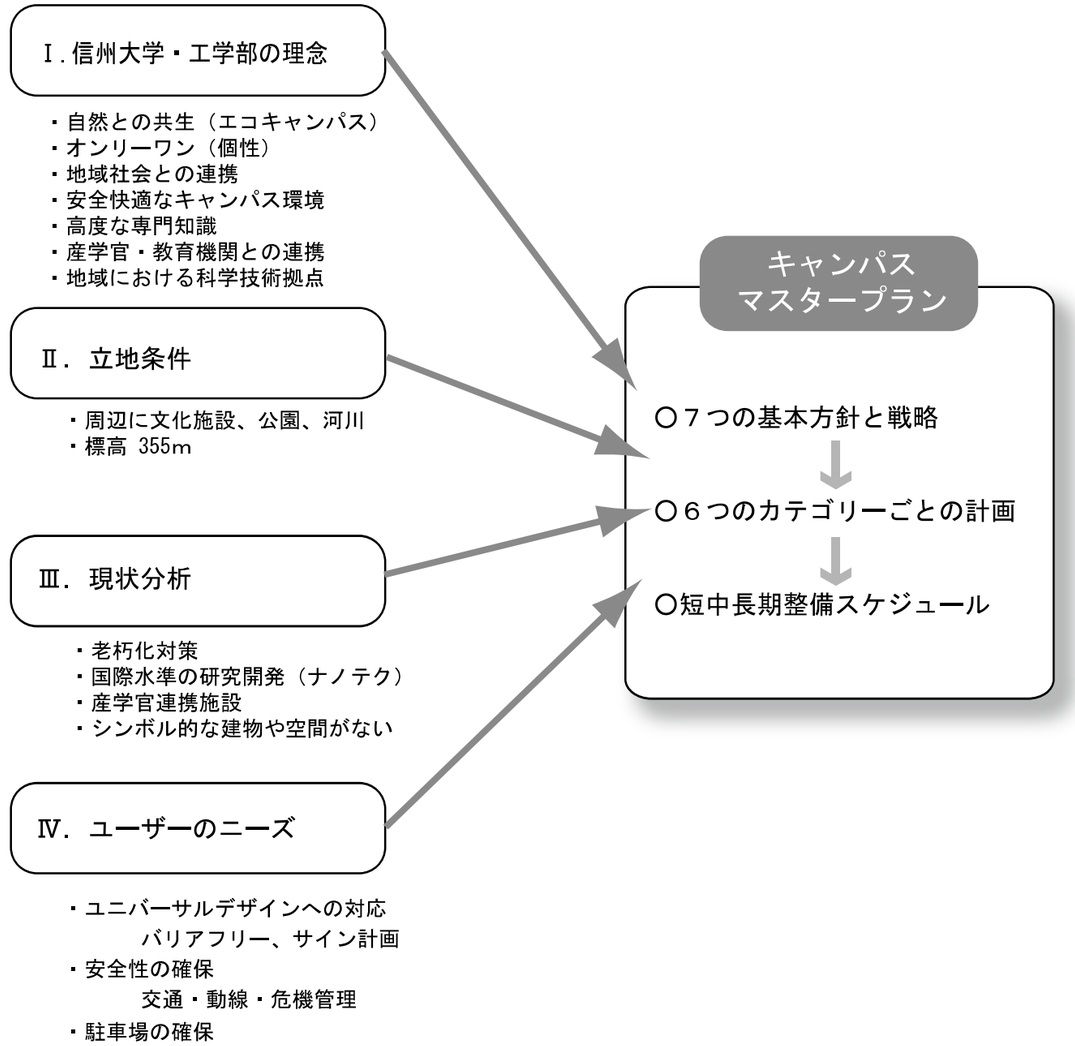
■工学部の理念・目標

（理　念）

本学部は、恵まれた自然環境の中で個性を生かし、基礎的学力の素養のもとに工学の幅広い専門的知識を有する創造性豊かな人材を養成する。また、工業技術と環境保全との調和に深く関心を持って人類社会に貢献し、高度情報化社会における学際的技術の研究開発や国際化に対応できる人材を育成する。

（目　標）

本学部は、基礎学力の向上を重視しつつ専門知識並びに学際分野の修得を基盤にし、創造力の育成と課題探求能力を開発する教育を行い、世界的な研究拠点の構築を目指す。さらに、産学官及び地域高等教育機関と連携して研究成果や研究環境を地域に還元し、地域における科学技術情報の中核的拠点としての役割を果たすことを目標とする。



３－２．基本方針と戦略　　～緑萌えるふれあい工房 ものづくりキャンパス～

キャンパス整備の基本方針とその戦略を下表にまとめる。

基本方針		戦略	カテゴリー
1	キャンパス アイデンティティー	【最先端技術の開発・公開】 ・産学官の連携強化、地域への公開 ・ナノテクノロジー、カーボンナノチューブ 【周辺の緑地環境の連続性】 ・若里公園のケヤキ並木から犀川河川敷まで	・技術開発の成果発表、交流の場の整備 ・シンボル並木（通り抜けの散策道）の整備 ・ゲート整備	建物・コミュ オープンスペース 交　通
2	アメニティを高める 現状資産の活用	【心地よいキャンパス「空間秩序の明確化」】 ・学生研究施設と地域開放エリア ・キャンパスの軸と建物のネットワーク化 【ニーズに対応した施設利用】 ・学生、教職員の交流スペース ・教育研究環境の充実 ・駐車場、駐輪場動線の見直し 【老朽化対策】 ・建物の安全性の確保	・シンボル並木の整備 ・建物をつなぐパーゴラ整備 ・駐車場の増設及び有料化 ・施設整備（図書館増築、飲食施設等） ・機能改善 ・広場整備（学生食堂前等） ・耐震補強 ・インフラストラクチャーの見直し	オープンスペース オープンスペース 交　通 建物・コミュ 建　物 オープン・コミュ 建　物 インフラ
3	地域社会との連携	【「知財・人財・資財」の共有、発展】 ・産学官連携施設の利用促進、地域交流施設 【地域住民との共生】 ・自然資源、施設の地域開放	・企業と連携した研究、地域サービス ・地域文化、大学文化の発表・交流 ・図書館、福利施設等の地域開放	コミュニティ コミュニティ コミュニティ
4	参加型キャンパス	【キャンパスづくりへの学生・教職員の参加】 ・学生、教職員が参加した点検評価 ・ソフト事業への学生参加	・定期的な点検評価のシステム、組織づくり ・学生の企画参加 ・施設整備等の計画及び施工への学生参加	維持管理 コミュニティ 建物・オープン・コミュ
5	サスティナビリティ	【地域の風土の反映】 ・地場産材の使用や地域産業との連携 【エコキャンパス】 ・省エネ、CO2削減 【循環型社会への取り組み】 ・ゴミ削減、リサイクル、リユース	・県産材(信州唐松・土・わらすさ・和紙など)の使用 ・維持管理計画の策定 ・景観に配慮したゴミ置き場の整備	建物・オープン・コミュ インフラ インフラ
6	ユニバーサルデザイン	【バリアフリー、ボーダーレスなキャンパス】 ・誰もが使いやすい 【わかりやすいキャンパス】 ・迷わない案内	・ユニバーサルデザイン（デザインガイドラインの策定） ・サイン計画	建物・オープン 建物・オープン
7	安全なキャンパス	【安全な歩行空間】 ・人と車と自転車の動線の分離 【防犯、危機管理】 ・夜間の安全性	・交通計画(歩車分離)、駐車場計画、駐輪場計画 ・照明計画 ・廃棄物処理計画	交　通 オープンスペース インフラ

3ー3　カテゴリー別計画

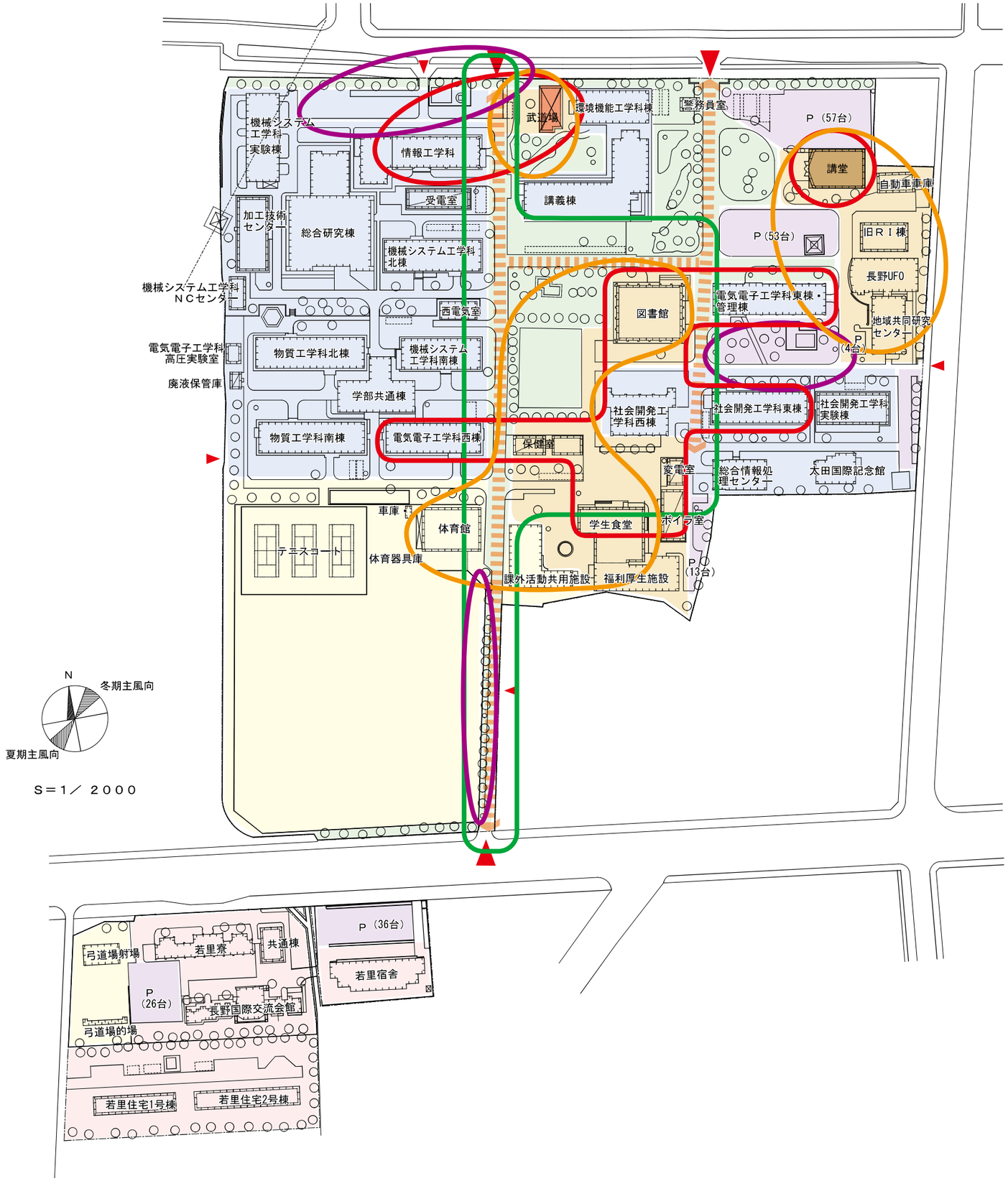
3ー3ー1　全体計画の骨子

計画ゾーニング凡例

- 教育・研究ゾーン
- 運動・課外活動ゾーン
- 地域連携ゾーン
- 緑地広場ゾーン
- 駐車場ゾーン
- 居住ゾーン

計画ポイント凡例

- 建物の計画
- オープンスペースの計画
- 交通の計画
- コミュニティの計画
- 景観形成軸
- 保存活用する建物
- 新規計画建物
- キャンパス出入口



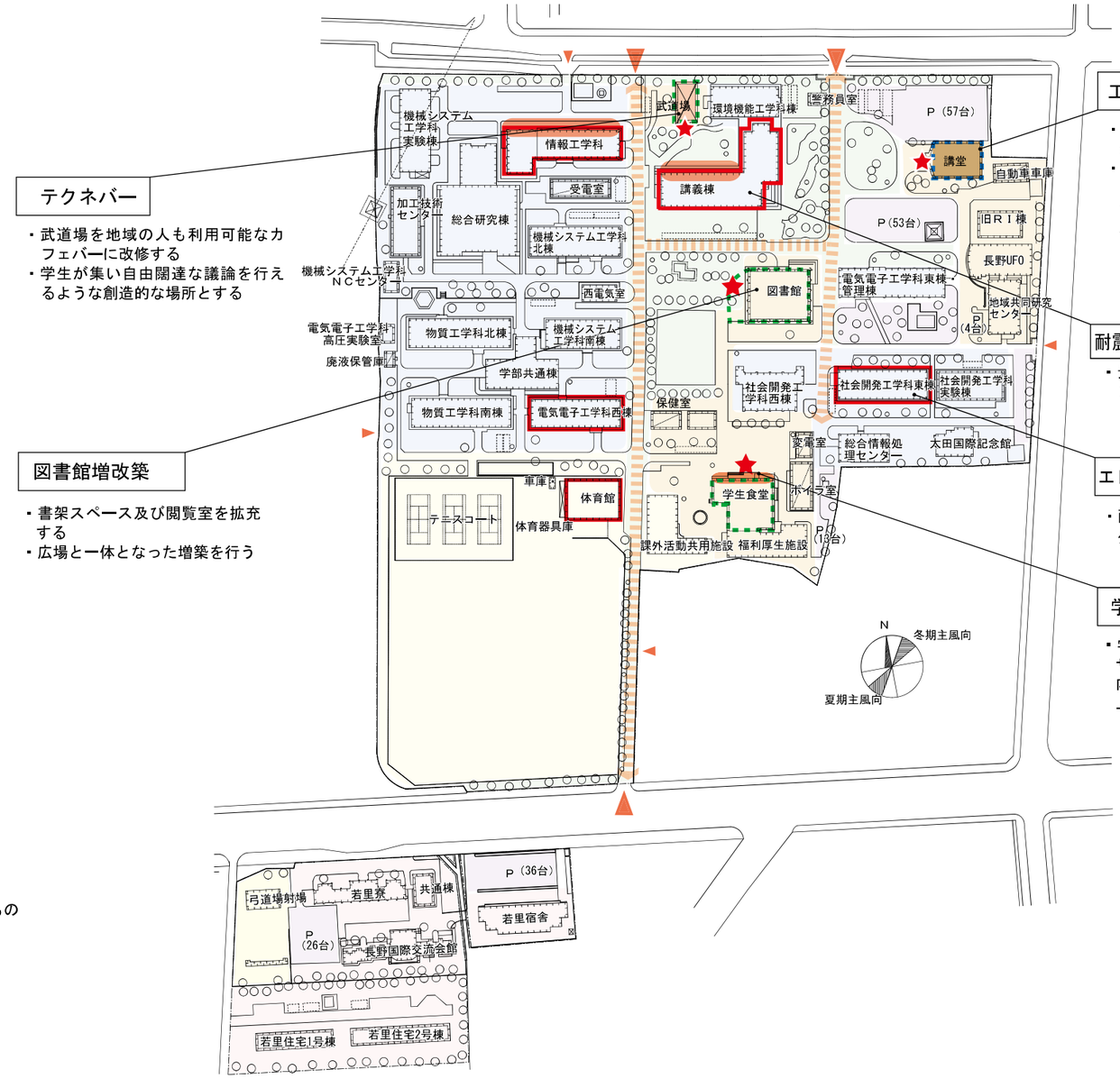
３－３－２　建物の計画

■現状と課題

正門が敷地の北側に位置しているため、軸線となる通りからの景観は各建物の北面のファサードが重要なポイントになっている。耐震補強と同時に景観に配慮したファサードの改修が必要である。また、図書館の書架スペースの拡充や、武道場及び講堂などの老朽化建物の有効利用など、現状の施設を最大限に活かしつつ、構造的な安全性の確保とニーズに対応した空間の整備が必要である。

■方針

学生が安全かつ快適にキャンパスライフを送れるよう、耐震補強及びファサード改修、図書館機能の拡充、交流施設などの整備を行う。また、計画段階から建築や土木を専攻する学生を参加させるばかりでなく、各専門を活かした工学部らしい空間及びシステムづくりとする。また、誰もが使いやすいユニバーサルデザインを推進する。



計画ゾーニング凡例
- 教育・研究ゾーン
- 運動・課外活動ゾーン
- 地域連携ゾーン
- 駐車場ゾーン
- 緑地広場ゾーン
- 居住ゾーン
- 景観形成軸

凡　例
- 耐震補強
- 内外装リニューアル
- 解体・移転
- 保存活用する建物
- 新規計画建物
- ファサードデザイン重要箇所
- ユニバーサルデザイン改修

※テクネとは・・・ギリシア語で「技術」を意味する「Techne（テクネー）」にちなんで愛称化したもの

事　業　項　目		事業展開（短期 / 6 / 中期 / 12 / 長期）
１．耐震補強	耐震強度の低い建物から順次補強改修していく。 また、補強工事と同時にファサードデザインの改善を行う。	●耐震設計→補強・改修
２．施設整備	武道場をカフェバーとして再生し、図書館を増改築する。講堂は解体し工学部会館として多目的ホールを新築する。その他施設の改修等をすすめる。	●施設利用方針検討（計画への学生参加） ●工学部会館 ●図書館 ●テクネバー ●学生食堂改修
３．ユニバーサルデザイン	誰もが使いやすいデザイン、わかりやすい案内（サイン）のガイドラインをつくり、施設・空間設計に反映させる。社会開発工学科東棟にはエレベーターを設置する。	●デザインガイド作成 ●サイン計画
４．県産材の使用	県産材(信州唐松・土・わらすさ・和紙など)を使用することを通じ、地域産業への関心を高める。	●施設計画に合わせて使用検討

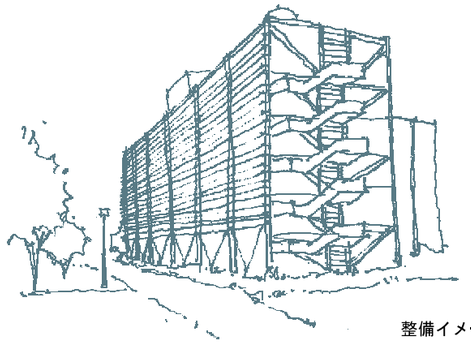
1　耐震補強　ー建物の計画ディテールー

■方針

1982年の耐震基準法改正以前に建設された強度不足の建物を耐震補強していく。また、単純な耐震補強に終らせることなくデザイン性を兼ね備えた整備を行う。



現状（情報工学科棟）



整備イメージ

2　施設整備　ー建物の計画ディテールー

■方針

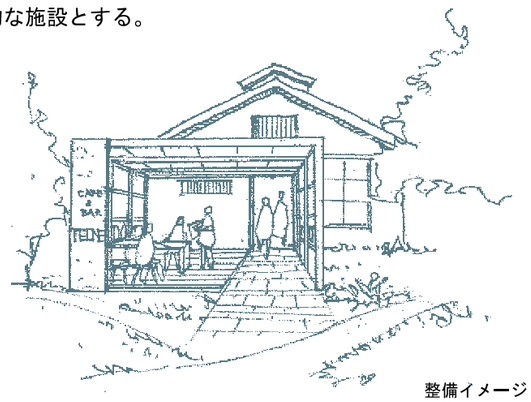
豊かなキャンパスライフを送れるようニーズにあった福利施設、地域の人も利用できる交流施設など、既存のストックを活用しながらアメニティの高い空間価値を付加していく。

●テクネバー（旧武道場）

老朽化した武道場をカフェバーに改修し、地域の人々も利用しやすい施設とする。学生が集い活発な議論や創造の場となるよう、工学部らしいアトリエ的な施設とする。



現　状



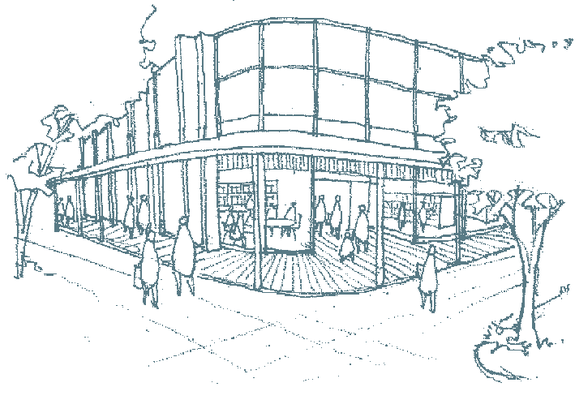
整備イメージ

●図書館の増改築

より多くの専門書のための増床を行うと共に、図書館横に広場（テクネ広場）及びパーゴラネットワークとのつながりを考慮する。また、テクネ広場に面するところに出入り口を設け、雑誌などのスペースを充実させることで、地域住民も気軽に利用できるようにする。



現　状



整備イメージ

●工学部会館

既存の講堂を解体し、学内外の研究者及び地域住民も利用できる多目的ホールを新設する。施設内には様々な研究の成果などの展示スペースを確保し、工学部での活動を地域住民及び企業に広く知ってもらう。



現　状



整備イメージ

3ー3ー3 オープンスペース

■現状と課題

個々の建物が一定の間隔を保ち敷地全体に広がって建っており、その間を埋めるように緑化しているが積極的なスペースの利用には至っていない。一方、イチョウ並木や桜や藤棚など季節ごとに楽しめる樹木や広場もあり、学生及び教職員の憩いの場も確保されているが、若里公園からつづくケヤキ並木との連続性や、正門からメインとなる広場への誘導が不十分である。よって地域住民にも親しまれる豊かな外部空間とするには外部からのアクセスのしやすさ、わかりやすさが課題である。

■方針

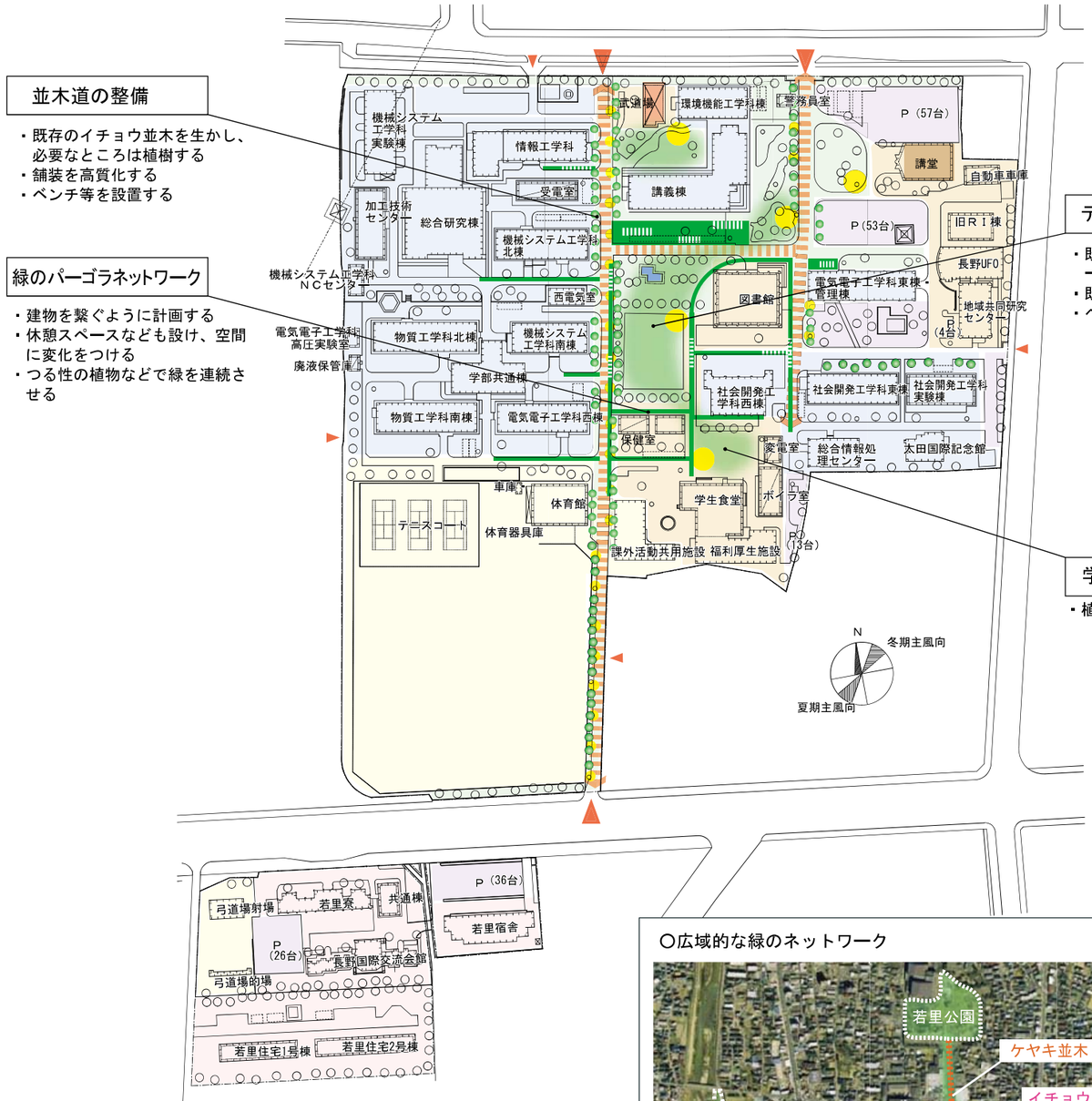
地域とキャンパスとの視覚的繋がりを考慮し、若里公園からのケヤキ並木から続く散策路としてイチョウ並木を整備する。その並木道を軸に広場や建物をつなぐ「緑のパーゴラ」を設置し、建物間の移動を快適にすると同時にそれに囲まれる広場景観にもアクセントを与える。並木道の「軸」とパーゴラの「ネットワーク」によりそれぞれの空間に導きやすくする。

並木道の整備
- 既存のイチョウ並木を生かし、必要なところは植樹する
- 舗装を高質化する
- ベンチ等を設置する

緑のパーゴラネットワーク
- 建物を繋ぐように計画する
- 休憩スペースなども設け、空間に変化をつける
- つる性の植物などで緑を連続させる

テクネ広場
- 既存の緑地を活かし、図書館と一体となった整備を行う
- 既存の池を整備する
- ベンチ等を設置する

学生広場
- 植栽、ベンチ等を整備する



計画ゾーニング凡例
- 教育・研究ゾーン
- 運動・課外活動ゾーン
- 地域連携ゾーン
- 駐車場ゾーン
- 緑地広場ゾーン
- 居住ゾーン
- 景観形成軸
- 保存活用する建物
- 新規計画建物

凡　例
- 緑のパーゴラネットワーク
- 〃　（開口・透明部）
- 広場整備
- ベースライト（安全確保照明）
- ハイライト（演出照明）

事　業　項　目		事業展開：短期（6）	中期（12）	長期
1．パーゴラネットワーク及び、並木道整備	建物や広場の整備および並木道整備と合わせて段階的にパーゴラネットワークの整備を行う。	並木道 ●整備	パーゴラ ●設計 ●整備	
2．広場整備	既存の緑を生かしながらさらに植樹、ベンチ、舗装等の整備を行う。	テクネ広場 ●設計 ●整備	学生広場 ●設計 ●整備	
3．サイン・照明計画	わかりやすい案内サイン、夜間の安全を確保できるベースライトを整備する。	●サイン・照明設計	●随時整備	

○広域的な緑のネットワーク



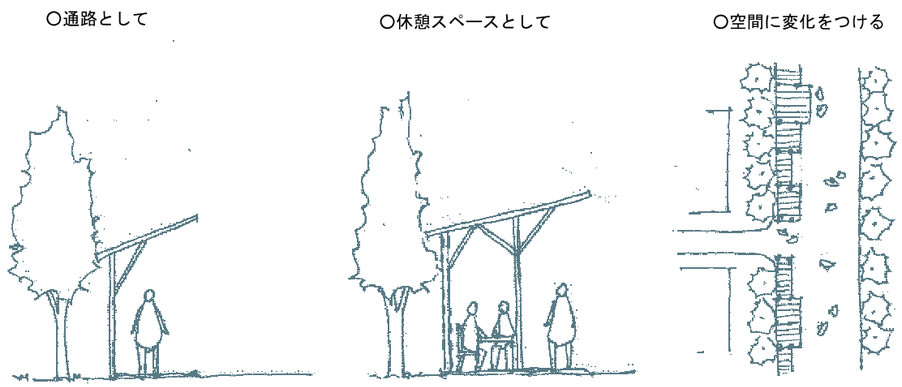
1　緑のパーゴラネットワーク整備 –オープンスペースの計画ディテール–

■方針

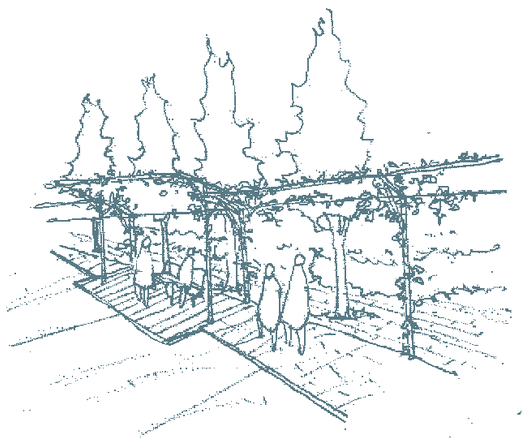
　パーゴラでそれぞれの建物と外部空間を繋ぎ、キャンパスを一体的に感じれるよう計画する。単なる通路としてだけではなく休憩スペース等を設け、プロムナードのようにゆったりとした性格をもつようにする。

●パーゴラのディテール

・休憩スペースなど様々な活用ができるようパーゴラの大きさや舗装パターンなどに変化をつける。
・並木と共存させ、つる性の植物などにより緑を連続させる。
・設計・施工の段階で学生や教職員からの意見も取り入れ計画を進める。




広場横の並木道

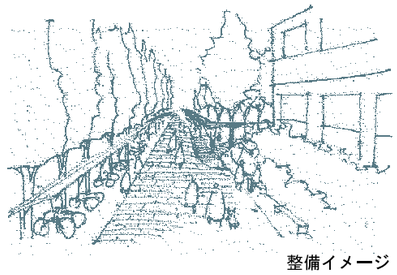

整備イメージ

2　並木道整備 –オープンスペースの計画ディテール–

■方針

　既存のイチョウ並木を生かして必要なところに植樹し、キャンパスのシンボルとして整備する。また、地域の人も通り抜けられる気持ちの良い散策路として景観に適した舗装を整備し、アメニティの高い歩行空間とする。


現状(体育館横)


整備イメージ

3　広場整備 –オープンスペースの計画ディテール–

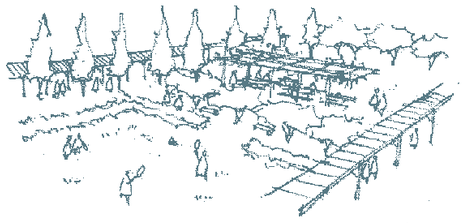
■方針

既存の緑を活かし周辺の建物やパーゴラネットワークと一体となった広場とする。

●テクネ広場

広場としての機能を残し、池やベンチなどを修繕しながら図書館やパーゴラとのつながりある広場とする。


現　状


整備イメージ

●学生広場

　学生食堂のファサード改修やパーゴラ整備とあわせて、人々が寄り付きやすい樹木やベンチを整備し、アメニティの高い広場とする。


現　状


整備イメージ

3ー3ー4　交通の計画

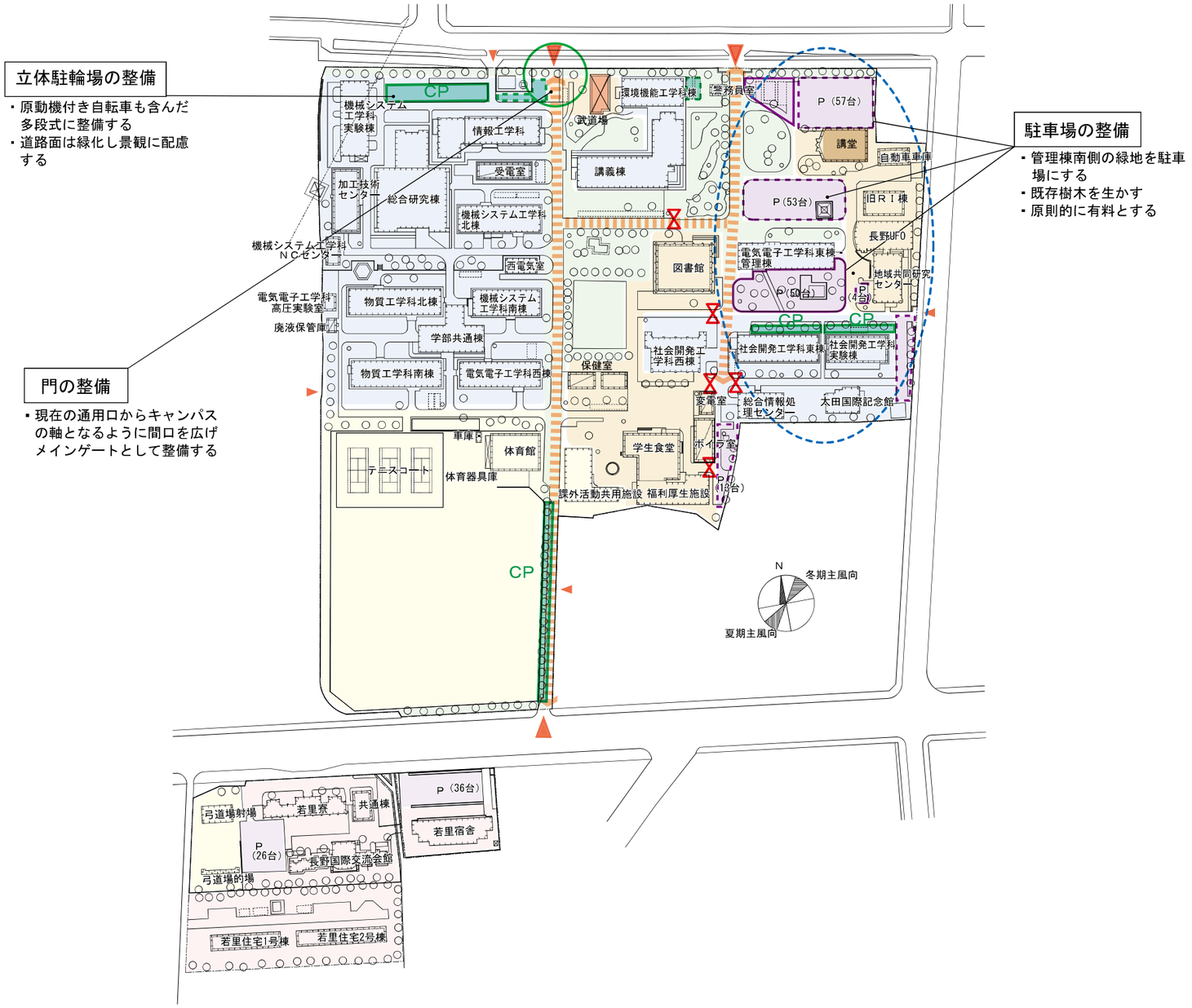
■現状と課題

現在、駐車場は正門入って東側のエリアと、産学官（地域）連携施設利用者用とがあるが、往来できないため共有して使用することができない。今後交流施設などの利用者が増えることを見込むと収容台数を増やす必要がある。また、キャンパス内の各所に駐輪場が設置されているが建物周辺に放置する自転車が多く、景観悪化の原因となっているため対策が必要である。

■方針

原則としてキャンパス内は、車・自転車ともに走行を制限し、歩行者の安全性と快適性を確保する。車においては景観に配慮しながら収容台数を増やし、身障者や緊急車両、資材の運搬などの乗り入れ以外はキャンパス西側の並木エリアの走行を制限する。また、自転車は各門付近に集中して駐輪場を設置し、放置自転車をなくす。

	整備前	整備後
駐車場	127 台	約187台
駐輪場	760 台	約800台



計画ゾーニング凡例
- 教育・研究ゾーン
- 運動・課外活動ゾーン
- 地域連携ゾーン
- 駐車場ゾーン
- 緑地広場ゾーン
- 居住ゾーン
- 景観形成軸
- 新規計画建物

凡　例
- 車両通行エリア
- 車止め
- ゲート整備
- CP 駐輪場（既存）
- CP 駐輪場（候補地）
- P 駐車場（既存）
- P 駐車場（候補地）

事　業　項　目		事業展開 短期	中期	長期
1. 駐輪場整備	現在の収容量を確保しながら出入口付近に集中設置する。 また、不正駐輪を予防するため利用者登録制とし有料シールの導入などを検討し、適正数を維持する。	●駐輪場整備		
2. 駐車場整備	キャンパス内の駐車場は原則的に有料とし、景観配慮のため同時に植栽の整備も行う。	●駐車場整備		
3. ゲート整備	現在の通用口からキャンパスの軸となる並木道に繋がるように、テクネバー横にメインゲートを整備する。		●ゲート整備	

1 駐輪場整備 ―交通の計画ディテール―

■方針

現在の収容量を確保しながら出入口付近に駐輪場を集中設置する。北側は立体駐輪場を整備し(原付自転車も含む）、運動場の横の樹木の間にもまとまった駐輪場を整備する。

また、放置自転車を減らすため利用者登録制とし有料シールの導入などを検討し、適正数を維持する。

●北西門(武道場横)付近



現　状

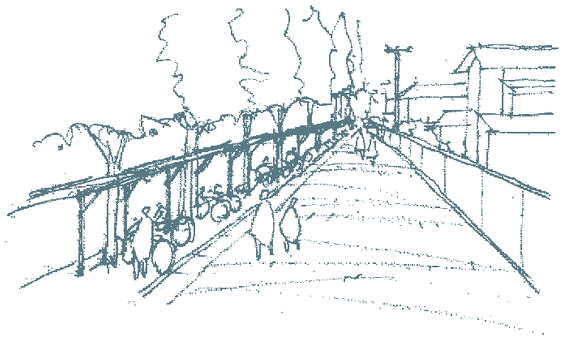


立体駐輪場の例

●南門(運動場横)付近



現　状



整備イメージ

2 駐車場整備 ―交通の計画ディテール―

■方針

景観に配慮しながら駐車場を増やす。また、構内歩行エリアへの乗り入れを制限するため脱着式の車止めを設置する。



現状（講堂横）

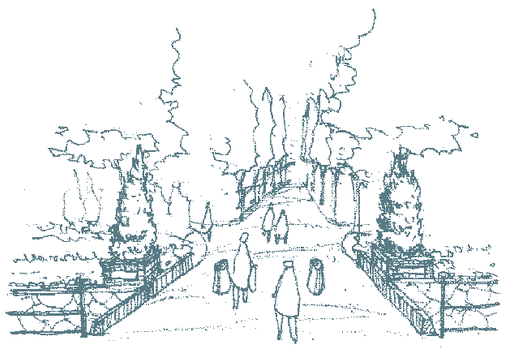
3 ゲート整備 ―交通の計画ディテール―

■方針

テクネバー(旧武道場）横にある通用口をキャンパスの軸となる並木道に繋がるように間口を広げ、メインゲートとして整備する。



現　状



整備イメージ

３－３－５　インフラストラクチャーの計画

■現状と課題

［電気設備］　1回線高圧受電方式で、北西にある受配電室に引き込み、共同溝を利用して各棟へ配電。

［給水設備］　市水本管より供給を受け、低層建物は直結給水方式、高層建物は高置水槽方式により各建物に給水。尚、総合研究棟では、雨水を中水として利用。

［排水設備］　雨水系・生活系・実験系の３系統分流式。雨水系は、地下浸透及び公共側溝へ放流。生活系・実験系は公共下水道へ放流。尚、実験排水は建物単位でPH濃度をモニタリングしている。

［ガス設備］　都市ガス(13A)を２箇所より引き込み、土中埋設配管にて各建物に供給。

［空調設備］　新営建物及び改修整備済建物についてはガスヒートポンプによる個別空調が主体。それ以外は蒸気による暖房となっており、熱源はボイラ室より供給しているが、各建物一括供給であるため、個別暖房ができずエネルギーロスが多い。各施設に適したシステムが必要。

［廃棄物］　資源の有効活用のため分別の徹底により、リサイクル化を推進。現在のゴミ集積場は、施錠できるように整備する必要がある。実験系廃棄物は容器に分別回収し、業者に委託して処理している。

■方針

１．省エネルギー化

　設備機器（ボイラー）の耐用年数を鑑みGHP（ガスヒートポンプ）、EHP（電気ヒートポンプ）の比較検討の上で将来性、経済性、快適性、維持更新のしやすさなどの観点から維持管理計画の策定を進めていく。

２．地球環境への配慮

　CO2の排出を削減するためその目標値を設定し、到達するまでのロードマップを作成する。省エネだけでなく低公害の太陽エネルギーなどの創エネ（新エネルギーの供給）も組み合わせて目標達成に努める。

３．循環型社会への取り組み

　ゴミの分別収集の徹底による再資源化、汚濁物（水、空気、物質）処理におけるエネルギー利用化を図るなど各キャンパスの課題としてキャンパス毎に研究し取り組んでいく。

○衛生管理上の問題から、高置水槽による低層建物への給水からポンプ圧送方式への移行を検討する。



項　　目	事　業　展　開		
	短　　期	中　　期	長　　期
１．インフラ整備	●維持管理計画策定 ●給排水･ガス配管の改修および更新 ●空調熱源の検討 ●加圧ポンプ式給水の検討		
２．廃棄物処理	●処理方法の検討	●ゴミ置き場の整備 ●その他廃棄物処理施設の整備	

３－３－６　コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画

■現状と課題

産学官及び地域連携施設がキャンパスの東側にあり、大学の枠を越えた研究活動の場になっているがその活動は一部の関係者以外にはあまり知られておらず、閉鎖的である。

運動場は地域の人の利用も多いが、図書館などの施設利用はまだ低く、豊かな緑地も含めて地域の人に愛着を持って利用してもらえるような工夫が必要である。

■方針

学内の研究発表の場だけでなく地域の人のための映画上映会やライブ演奏など様々な活動の発表の場として工学部会館を開放し、大学、企業、地域の交流拠点とする。また、テクネバー、図書館、体育館などの施設も地域の人が気軽に利用できるように広く案内したりイベントを企画するなど、学生の社会活動への参加を促しながら地域交流を図る。



計画ゾーニング凡例

- 教育・研究ゾーン
- 運動・課外活動ゾーン
- 地域連携ゾーン
- 駐車場ゾーン
- 緑地広場ゾーン
- 居住ゾーン
- 景観形成軸
- 新規計画建物

凡　例

- 地域交流・開放推進施設
- 学生・地域交流ゾーン
- 産学官連携ゾーン

事　業　項　目		事業展開 短期	中期	長期
１．交流施設の計画・運営への学生や市民の参加	工学部会館（旧講堂）は、様々な活動の発表の場として積極的な学生の利用を促す。またテクネバー（旧武道場）は計画段階から各学科の学生が参加し、キャンパスを学生主体で作っていく。	●検討・実施		
２．施設の地域開放促進	テクネバー（旧武道場）はもとより、産学官連携ゾーン内の建物及び図書館、福利施設、運動施設の利用を促進する。	●検討・実施		

1　計画・運営への学生参加 －コミュニティーの計画ディテール－

■方針

ハードからソフトまでキャンパスづくりに積極的に学生を参加させる。

●諸施設の計画から施工まで

工学部生の専門分野を生かして設計・施工の補助として参加することにより、学生の希望が反映されると同時に実践学習に役立たせる。



学生参加イメージ(光芒祭)

●工学部会館の運営

学生の柔軟な発想で常に情報を発信できるよう、学生はじめ企業や地域に参加を呼びかけ、多目的ホールとしての利用率を高める。

●テクネバーの運営

自分たちの居場所を自分たちでつくる。工学部らしさ、学生らしさを出し、地域の人とも「工学」で交流できる施設とする。

2　施設の地域開放 －コミュニティーの計画ディテール－

■方針

キャンパス内の施設を地域に開放し、多くの人が利用できるようにする。

●既存施設（運動施設・図書館・福利施設・工学部会館）

民間経営会社とのPFI契約（土日に限る）によりトータル的な施設運営管理や柔軟なソフト展開も検討する。

また工学部会館(旧講堂)は、産学官連携と地域交流の二つをつなぐ拠点であり、市民活動の発表の場として広く利用していもらうよう積極的に呼びかけるなど、運営戦略が必要である。


運動場


工学部会館イメージ

[参考]　ＰＦＩ（Private Finace Initiative）

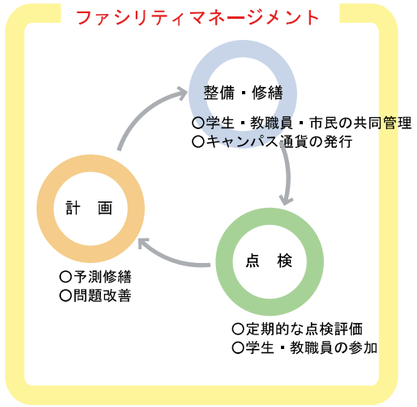
公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力、技術的能力を活用して行う事業手法。

民間のノウハウを活用することにより、国や地方公共団体等が直接実施するよりも効率的かつ効果的に公共サービスを提供できる場合に採用される。

３－３－７　維持管理の計画

■現状と課題

施設維持管理は維持管理部署によって把握実施されており、施設マネージメントのデータベース化及び運用のためのシステム（スクールプラン）を平成19年度より導入している。

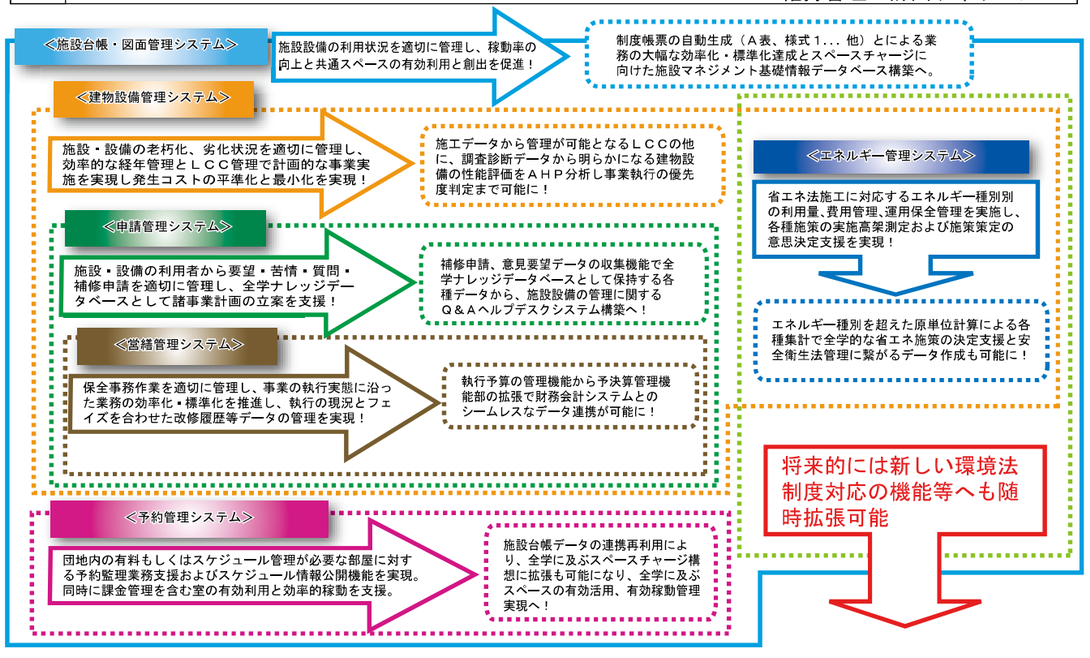


■方針

まず施設の状況を常に把握し計画的に修繕し維持していくことが重要である。また、学生や教職員も参加して点検することにより施設管理職員だけでは把握しきれないニーズに合った修繕ができるとともに施設維持への意識向上も期待できる。ペンキの塗り替えなどの簡易作業は、一般市民も参加できるイベントとして企画し、地域ぐるみで大学を支えていく仕組みをつくっていくことも重要である。

事　業　項　目		事業展開 短期	中期	長期
１．施設管理のシステム化（ファシリティマネージメント）	キャンパス全体を総合的かつ長期的視野にたって統括し、各維持管理部署との情報を共有するデータベースをつくる。	●データベース化 → 随時更新		
２．参加型点検評価	学生や教職員等が定期的に点検するキャンパスパトロールを実施し、そのデータを蓄積管理し、修繕計画へ反映させる。	●点検組織づくり → 定期点検実施		
３．キャンパス通貨、NPO団体等との協働	外構の植栽管理などは市民やＮＰＯ団体と協働し、協力に対する対価補償としてキャンパス通貨などを検討する。		●キャンパス通貨の運用	

1　施設管理システム(スクールプラン) －維持管理の計画ディテールー



信州大学キャンパスマスタープラン　Shinshu University Campus Master Plan 2007

D. 南箕輪キャンパス　～ 食と緑を科学する　自然豊かなフィールドキャンパス ～





序．キャンパスマスタープランについて

１－１．キャンパスマスタープランの必要性と策定の経緯 …… 序－1

１－２．キャンパスマスタープランの位置づけ …… 序－1

１－３．アクションプランの位置づけ …… 序－1

１－４．信州大学の理念との整合 …… 序－2

１－５．信州大学「信州大学ビジョン2015／信州発飛翔プラン」との整合 …… 序－2

１－６．キャンパスの全体像 …… 序－5

D．南箕輪キャンパス

２．現状と課題

２－１．配置図・現状写真・問題点 …… D－1

２－２．ディベロップメントプラン …… D－1

３．南箕輪キャンパスマスタープラン

３－１．キャンパスマスタープランの目標と作成方針 …… D－2

３－２．基本方針と戦略 …… D－3

３－３．カテゴリー別計画

３－１．全体計画の骨子 …… D－4

３－３－２．建物の計画 …… D－5

３－３－３．オープンスペースの計画 …… D－7

３－３－４．交通の計画 …… D－9

３－３－５．インフラストラクチャーの計画 …… D－11

３－３－６．コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画 …… D－12

３－３－７．維持管理の計画 …… D－13

２－１．配置図・現状写真・問題点



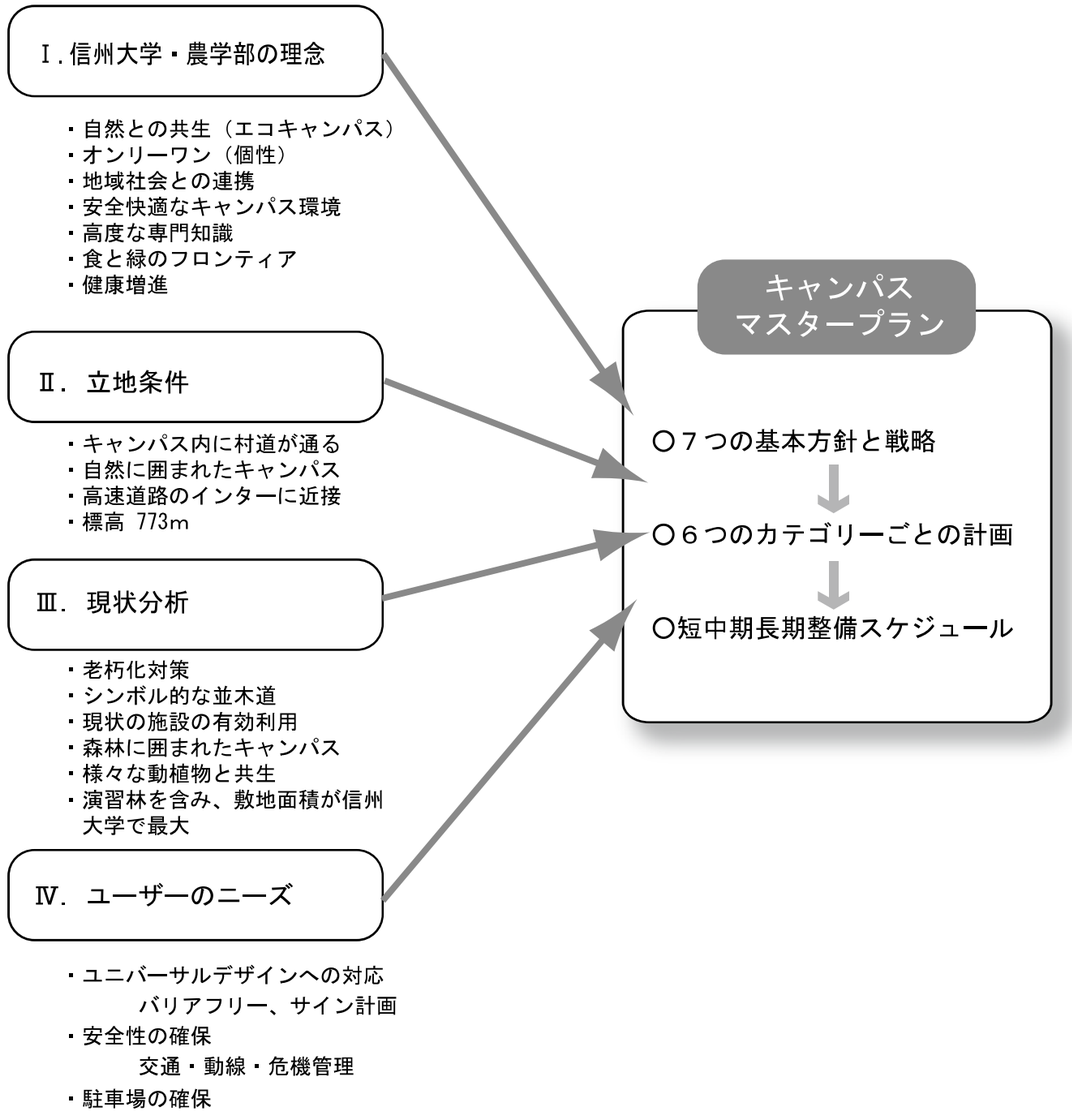





冬期主風向
N
夏期主風向
S＝1／４０００
学生寄宿舎
自転車置場
ボイラ室
中原寮
宿舎
宿舎
5階建宿舎
宿舎ホール
至伊那インター
樹木見
樹木見本林
樹木見本林
演習林農具舎
演習林苗畑
総合実験実習棟
農場研究室
農場研究室
実験圃場
カラス室
農場研究室
農場研究室
カラマツ並木
果樹園
農場管理棟
果樹園
収納室
便所
選果場
排水処理施設
農場研究棟
農具舎
大農具舎
高圧室
農場研究室
堆肥舎
農場土壌
中央自動車道
放牧場
グランド
当直室
PB3台
PB3台
テニスコート
課外活動施設
倉庫
倉庫
倉庫

３－１．キャンパスマスタープランの目標と作成方針

信州大学南箕輪キャンパスは、大学の理念及び農学部の理念に沿った研究教育等の諸活動を展開する舞台であり、それにふさわしい環境の整備と質の向上を確保することを目的とする。キャンパスマスタープランの作成にあたっては、それらの理念に則し、キャンパスの立地条件、前章で検討した現状分析及びその課題、ユーザーの要望を加味し、先ず基本方針と戦略を策定する。更にその内容を建物、オープンスペース、交通、インフラ、コミュニティ、維持管理という6つのカテゴリーに分類整理し、項目ごとに短・中・長期整備スケジュールを立案する。



■農学部の理念・目標

（理　念）

信州の豊かな自然と風土のもとで、食料・環境・生命を支える学問を展開し、科学性、実践性、倫理性の高い教育と研究を行う。自然と人が共生する持続的社会の創造を目指し、広い視野と課題探求能力を備えた人材を養成する。

（目　標）

１．変化する社会に適応した知的創造に貢献する
２．食と緑のフロンティアを切り拓き、人間生活の質的向上と健康で豊かな社会の創造に貢献する
３．人間性あふれた創造力豊かな人材を養成する
４．開かれた大学として幅広い連携を進め、社会に貢献する

（教育理念）

自然豊かな環境のもとで、豊かな人間性と幅広い教養を築き、農学に関する広い知識・技術を涵養して、専門的な知識や研究能力を養成する。さらに、地球的な広い視野と現実的な視点に立って問題をとらえ解決する能力を持つ人材を育成する。

（教育目標）

１．持続的社会の創造に貢献する人間性豊かな人材の育成
２．社会の一員としての問題意識の醸成と実践性、倫理性、 国際性を備えた人材の育成
３．農学分野の基礎能力と応用能力を持つ人材の養成
４．フィールド研究と実験研究が連携する教育の実践

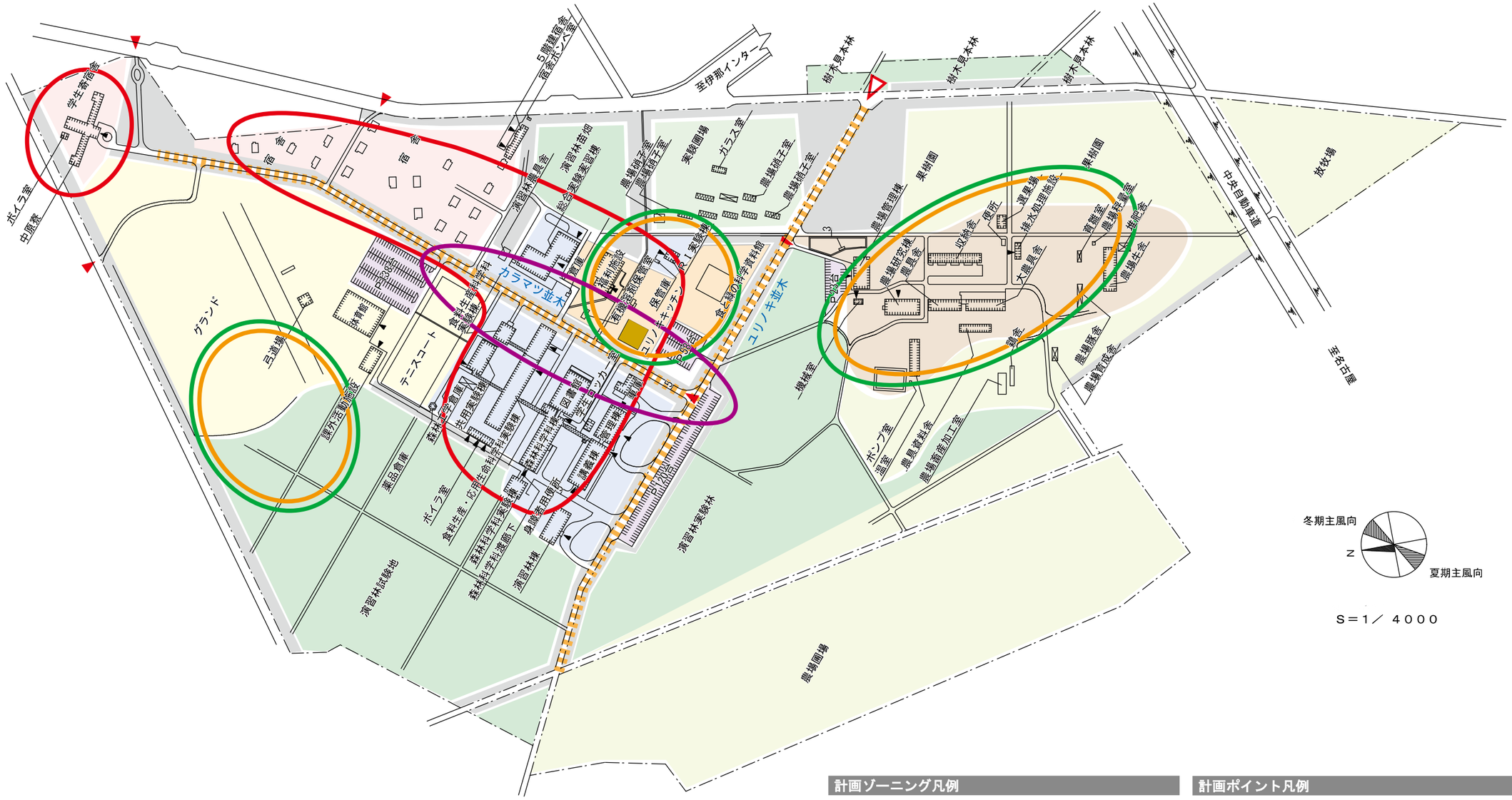
３－２．基本方針と戦略　　～食と緑を科学する 自然豊かなフィールドキャンパス～ ＜恵まれた自然環境での安全･安心な活力ある教育･研究拠点の整備･創出＞

キャンパス整備の基本方針とその戦略を下表にまとめる。

基本方針		戦略	カテゴリー
1 キャンパスアイデンティティー	【豊かな自然を生かす】 ・良好な実験・観察フィールドの持続と生態系の保全 ・農場、演習林の適切な利用 【教育研究が育む農林産物の利活用】 ・実験観察フィールドの地域への公開 ・農林産物の販売	・実験・観察フィールド資料の公開・施設の充実 ・実験・観察フィールドの解説案内整備 ・学習空間の提供･公開による地域との連携 ・農林産物産品の開発研究・販売	建物・コミュ オープン・コミュ オープン・コミュ 建物・コミュ
2 アメニティを高める現状資産の活用	【心地よいキャンパス「空間秩序の明確化」】 ・農学部のシンボル「ユリノキ並木」と「カラマツ並木」 ・学生研究施設と地域開放エリア 【ニーズに対応した施設利用】 ・学生、職員の交流スペース ・教育研究環境の充実 ・駐車場、駐輪場動線の見直し 【老朽化対策】 ・建物の安全性の確保 【森林資源・運動施設の活用】 ・学生及び地域の自然・農林学習空間、運動施設の市民開放	・カラマツ並木の歩行者優先道路整備 ・駐車場利用者制限 ・施設整備（農林産物販売所） ・機能改善 ・広場整備（動物エリア、グラウンド、福利施設周辺） ・耐震補強 ・インフラストラクチャーの見直し ・宿舎の有効利用 ・市民開放ゾーンの整備（地域開放） ・西駒・手良沢山・野辺山ステーションの有効利用	交　通 交　通 建　物 建　物 オープンスペース 建　物 インフラ 建　物 オープン・コミュ コミュニティ
3 地域社会との連携	【「知財・人財・資財」の共有、発展】 ・産学官連携施設（資料館、研修空間の提供） 【地域住民との共生】 ・自然資源、施設の地域解放	・企業と連携した農林産物の研究、販売 ・図書館、福利施設等の地域開放	コミュニティ コミュニティ
4 参加型キャンパス	【キャンパスづくりへの学生・教職員の参加】 ・学生、教職員が参加した点検評価 ・ソフト事業への学生参加	・定期的な点検評価のシステム、組織づくり ・農産物加工販売所の計画運営への学生の参加	維持管理 コミュニティ
5 サスティナビリティ	【地域の風土の反映】 ・地場産材の使用や地域産業との連携 【エコキャンパス】 ・省エネ、CO2削減 【循環型社会への取り組み】 ・ゴミ削減、リサイクル、リユース	・県産材(信州唐松・土・わらすさ・和紙など)の使用 ・維持管理計画の策定 ・景観に配慮したゴミ置き場の整備	建物・オープン・コミュ インフラ インフラ
6 ユニバーサルデザイン	【バリアフリー、ボーダーレスなキャンパス】 ・誰もが使いやすい 【わかりやすいキャンパス】 ・迷わない案内	・ユニバーサルデザイン（デザインガイドラインの策定） ・サイン計画	建物・オープン 建物・オープン
7 安全なキャンパス	【安全な歩行空間】 ・人と車と自転車の動線の分離 【防犯、危機管理】 ・夜間の安全性	・交通計画、駐車場計画、駐輪場計画 ・照明計画 ・廃棄物処理計画	交　通 オープンスペース インフラ

３－３　カテゴリー別計画

３－３－１　全体計画の骨子


学生寄宿舎
ボイラ室
中原寮
宿舎
宿舎
5階建宿舎
宿舎ボイラ室
演習林事務室
演習林苗畑
総合実験実習棟
辛伊那インター
樹木見本林
樹木見本林
樹木見本林
実験圃場
ガラス室
農場苗子室
農場苗子室
農場苗子室
農場管理棟
果樹園
果樹園
中央自動車道
放牧場
農場研究棟
農業倉庫
収納舎
便所
排水処理施設
直売室
農場販売室
堆肥舎
大農具舎
農場生産
農場医舎
農場育成舎
厩舎
実名古屋
カラマツ並木
ユリノキ並木
食と緑の科学資料館
保管庫
ユリノキキッチン
P230台
P230台
P230台

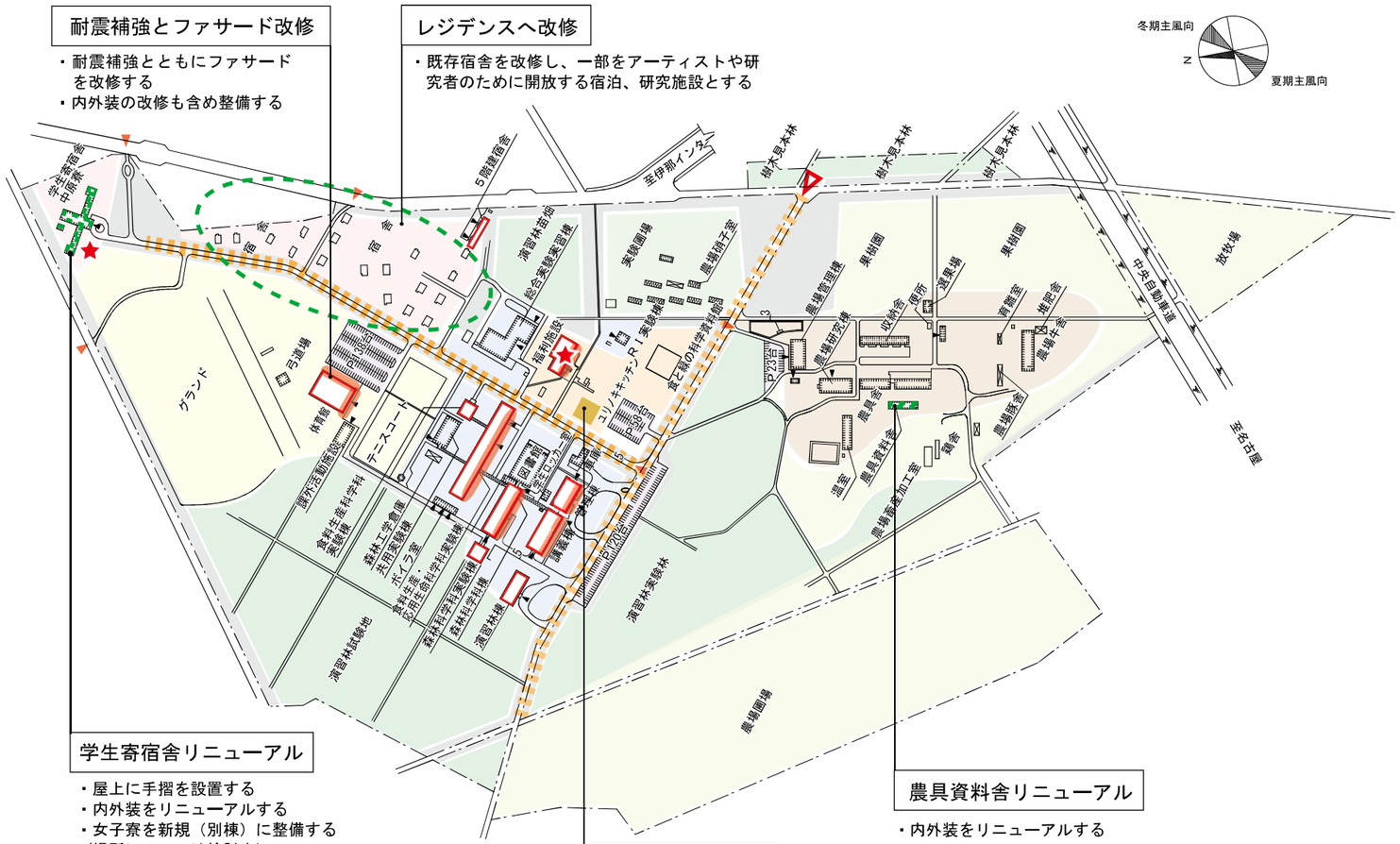
3－3－2　建物の計画

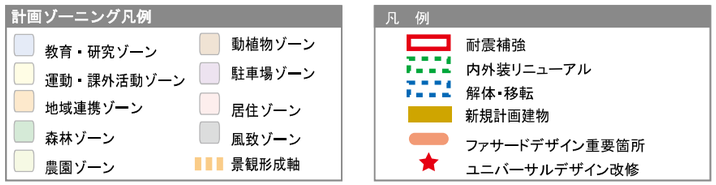
■現状と課題

南箕輪キャンパスは広大な敷地を有し、緩やかな起伏をもつ地形に沿って施設が建てられており、各棟が渡り廊下で繋がれている。耐震強度の低い建物もあり、順次補強していく必要がある。また、女子用施設が不足しており、全学生が快適に過ごせる施設づくりが必要である。

■方針

学生が安全快適に学校生活を送れるように、既存建物の耐震補強や内外装のリニューアルを行う。内外装の老朽化、耐震強度不足を改善すると共に、女子トイレ等の整備も合わせて行い、女子寮も新設する。全体として自然環境に配慮したデザインとし、ユニバーサルデザインを推進する。





事　業　項　目		事業展開 短期	中期	長期
1. 耐震補強	耐震強度の低い建物から順次補強改修していく。 また、補強工事と同時に内装やファサードデザインの改善もあわせて行う。	●耐震設計→補強・改修		
2. 施設整備	学生寄宿舎の屋上に手摺を設置するなど安全快適な学校生活が送れるよう既存建物のリニューアルを行い、別棟で新規に女子寮を整備する。また、キャンパスの持っている特徴（農産）や地域との関わり合いを考慮した施設の整備（ユリノキキッチン、農具資料舎等）リニューアルを行う。	●施設利用方針検討 ●学生寄宿舎　●ユリノキキッチン	●農具資料舎	●レジデンスへの改修
3. ユニバーサルデザイン	誰もが使いやすいデザイン、わかりやすい案内（サイン）のガイドラインをつくり、施設・空間設計に反映させる。	●デザインガイド作成 ●サイン計画		
4. 県産材の使用	県産材（信州唐松・土・わらすさ・和紙など）を使用することを通じ、地域産業への関心を高める。	●施設計画に合わせて使用検討		

1　耐震補強
ー建物の計画ディテールー

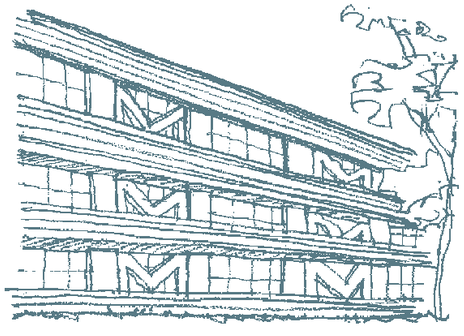
■方針

1982年の耐震基準法改正以前に建設された強度不足の建物を耐震補強していく。また、単純な耐震補強に終らせることなくデザイン性を兼ね備えた整備を行う。

●景観形成軸

ユリノキ並木やカラマツ並木など周辺の環境との調和を重視し、補強ブレースの他に格子のデザインを取り入れるなど、自然景観を害さないファサードデザインとした耐震補強をする。


現状（食料生産・応用生命科学科実験棟）


整備イメージ

2　施設整備
ー建物の計画ディテールー

■方針

豊かなキャンパスライフを送れるようニーズにあった福利施設、地域の人も利用できる交流施設など、既存のストックを活用しながらアメニティの高い空間価値を付加していく。

●ユリノキキッチン

アイスやヨーグルト、チーズなどの農産物加工および販売に喫茶スペースなど、学生だけではなく地域との交流の場を新設する。加工過程の見学や親子料理教室など体験型の学習もできるようにする。

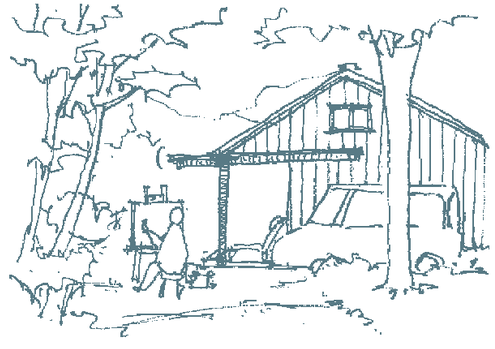

現状（計画地周辺）


整備イメージ

●既存宿舎をレジデンスへ改修

老朽化が激しく景観としてもあまり良くない既存宿舎をレジデンスとして改修する。これはアーティストや研究者などが豊かな自然環境の中で創作や研究が行える場として開放することを基本目的とするが、将来的には一般に開放することも検討する。

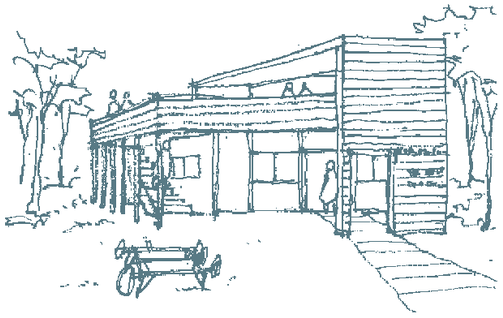

現　状


整備イメージ

●農具資料舎リニューアル

内外装をリニューアルし、自然と調和した建物とする。


現　状


整備イメージ

3ー3ー3 オープンスペースの計画

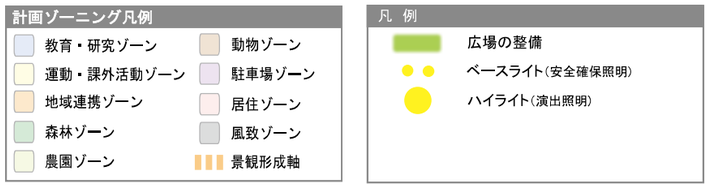
■現状と課題

本キャンパスは豊かな自然環境を有している。その一方、福利施設（学食）前および食と緑の科学資料館周辺は、充分な整備が行われておらず、両施設をつなぎ往来がスムーズにできるような空間整備が必要である。村道脇に隣接されている圃場は、数種類の家畜が飼育され地域への公開も行われているが、外灯やサインは充分に整備されておらず、夜間の安全性にも問題がある。

■方針

福利施設（学食）前および食と緑の科学資料館、さらにユリノキキッチンとの施設をつなぐよう散策路整備と芝生舗装を行うことで、学生や周辺住民がゆっくりとくつろげる外部空間とする。また、豊かな自然を生かしたピクニック広場やアスレチック広場等の整備、飼育されている家畜等を見せる工夫をするなど、キャンパスの財産を地域の人に公開することも検討する。照明については、動植物の生育に問題ないよう計画する。





事　業　項　目		事業展開 短　期（6）	中　期（12）	長　期
1．広場整備	食の広場、動植物ふれあい広場、レクリエーション広場、アスレチック広場、ピクニック広場、テニスコートを地域に開放できるよう整備する。	●環境整備		
2．道の景観整備	ユリノキ並木やカラマツ並木をキャンパスのシンボルロードとして保全し、他の沿道の風致ゾーンも自然景観の保全に努める。	風致ゾーン及びユリノキ並木等保全		
3．サイン計画	外来者にわかりやすくトータルデザインされた広場案内サインを整備する。	●サイン計画	●随時整備	
4．照明計画	主な道には夜間の安全を確保できるようにベースライトを整備する。 照明については、動植物の生育に問題ないよう計画する。	●照明設計	●随時整備	
5．ユニバーサルデザイン	誰もが使いやすいデザイン、わかりやすい案内、敷地内の段差解消などのガイドラインをつくり、空間設計に反映させる。また、並木の案内板を整備する。	●デザインガイド作成		

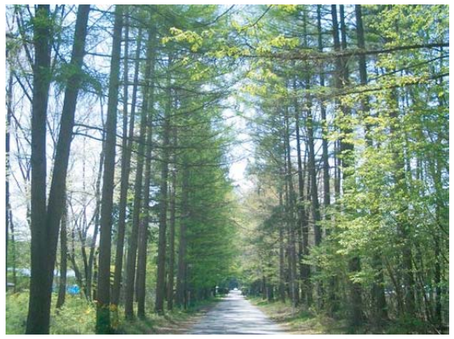
1 広場整備 –オープンスペースの計画ディテール–

■方針

豊かな自然環境を維持しながら地域に開放し、自然学習やレクリエーションなど、多くの人が訪れる場となるよう整備する。

「動植物ふれあい広場」「食の広場」「アスレチック広場」と、それぞれ違った特徴を持つ広場を整備し、それらを散策しながら楽しめるようにする。

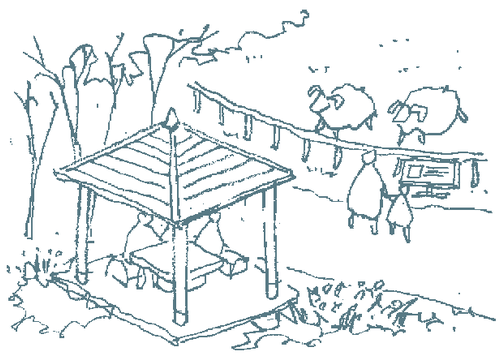

ユリノキ並木


カラマツ並木

●動植物ふれあい広場

キャンパス南側には数種類の家畜が飼われており現状でも周辺住民が見学に来るなど、大学と地域とをつなげる重要な場所となっている。一般的な動物園とは違い、家畜としての情報や研究成果などを紹介し、人と動植物との関わりなどを学べる工夫をする。また、休憩のための東屋なども整備する。


現　状


整備イメージ

●食の広場

福利施設（学食）近くには、食と緑の科学資料館が新設されたが、建物のまわりのオープンスペースが未整備で、他の施設とのつながりがうすい。そこでこのエリアに新たに計画するユリノキキッチンも含めて「食の広場」として芝生整備や東屋の設置などを行うことで施設間を有機的につなぎ、大学内外の施設利用者のたまりの空間を作る。

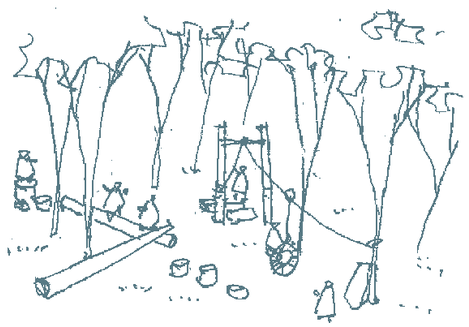

現　状


整備イメージ

●アスレチック広場、ピクニック広場

演習林試験地の一部を子供も利用できるアスレチック広場として整備する。また、近接したグラウンドの一部に芝生や東屋を整備し、アスレチック広場とつながるピクニック広場とする。


現　状


整備イメージ

3ー3ー4　交通の計画

■現状と課題

現在、敷地中央に村道（ユリノキ並木）が走り一般車両の交通量も多く、歩行者の安全性と快適性の弊害となっている。さらにカラマツ並木でも車の通行により危険性が高い。安全設備とゆとりある歩行空間が必要である。また、キャンパス内の放置自転車は景観悪化の原因となっている。

■方針

歩行者の安全性と快適性を確保するため、村道にハンプ設置や車速を落とす工夫を行う。これは村役場と協議し検討が必要。また、広場など交流施設周辺に駐輪場を確保し、カラマツ並木は原則車両通行禁止としてテニスコート西側へ迂回させる。駐車場は原則有料にし、各出入口にゲートを設置する。

	整備前	整備後
駐車場	339 台	370 台
駐輪場	380 台	440 台



計画ゾーニング凡例

- 教育・研究ゾーン
- 運動・課外活動ゾーン
- 地域連携ゾーン
- 森林ゾーン
- 農園ゾーン
- 動物ゾーン
- 駐車場ゾーン
- 居住ゾーン
- 風致ゾーン
- 景観形成軸

凡　例

- 構内車路
- 村道（公道）
- ゲート整備
- CP 駐輪場（既存）
- CP 駐輪場（候補地）
- P 駐車場（既存）
- P 駐車場（候補地）
- 車止め

事　業　項　目		事業展開 短期	事業展開 中期
１．村道周辺の安全措置	歩行者の安全性と快適性を確保するため、村道にハンプや横断歩道など車速を落とす工夫を行う。また、木製ガードレールを整備する。	●協議 ●整備	
２．駐車場有料化	キャンパス内の駐車場はゲートを設置し原則的に有料とし、景観配慮のため同時に植栽の整備も行う。		●駐車場整備
３．駐輪場計画	現在の収容量を確保し、景観配慮しながら集中設置する。また、不正駐輪を予防するため利用者登録制とし有料シールの導入などを検討し、適正数を維持する。	●駐輪場整備	

1 歩行者の安全確保 ー交通の計画ディテールー

■方針

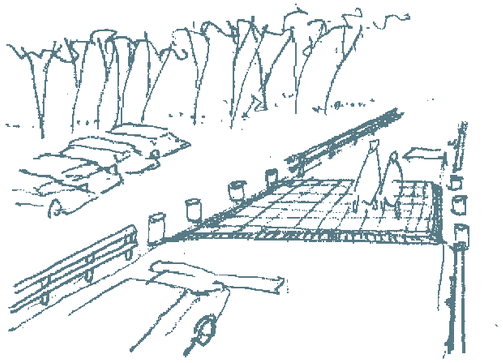
歩行者の安全確保のため、村道（ユリノキ並木）の車両減速措置や木製ガードレールの整備、カラマツ並木の一部の歩行者優先道路整備を行う。

車はキャンパス内の既存の駐車場に駐車することを原則とし、有料化する。カラマツ並木は原則車両通行禁止とし、テニスコート西側へ迂回させ、緊急自動車及び身障者対応に限るものとする。

●車両減速措置及び木製ガードレール整備

歩行者の安全性と快適性を確保するため、村道にハンプ設置や木製ガードレールの整備、車速を落す工夫を行う。これは村役場と協議し検討が必要である。


村道沿いの駐車場


整備イメージ

●カラマツ並木の一部歩行者優先道路整備

カラマツ並木の一部は緊急車両等を除き車両通行禁止とし、テニスコート西側へ車を迂回させる。


カラマツ並木

2 駐輪場整備 ー交通の計画ディテールー

■方針

駐輪場は既存のデザインを踏襲し、自然景観に配慮した駐輪場を整備する。

食の広場、動植物ふれあい広場、レクリエーション広場、アスレチック広場、ピクニック広場、テニスコートなど交流施設にアクセスしやすいよう配置整備する。


福利施設横の駐輪場

３－３－５　インフラストラクチャーの計画

■現状と課題

［電気設備］　１回線高圧受電方式で、共同溝及び地中埋設管路を利用して各棟へ配電。又、農場等の地区は架空配電。

［給水設備］　市水本管より供給を受け、構内のほとんどの建物は直結給水方式とし、一部の高層建物は高置水槽方式により各建物に給水。尚、一部の建物では、地下式水槽を利用。また，灌漑用水は井水を利用。

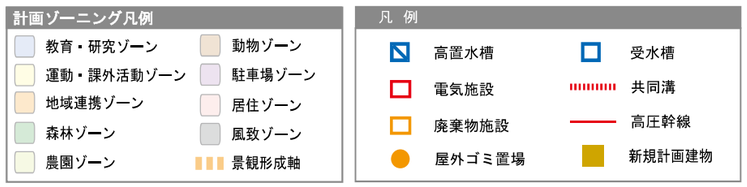
［排水設備］　雨水系・生活系・実験系の３系統分流式で地下浸透及び公共側溝へ放流。生活系・実験系は構内の排水処理施設で処理を行った後、雨水系と合流して河川へ放流しているが、近年中に公共下水道に接続される予定である。尚、実験排水は最終調整槽にてPH濃度をモニタリングしている。

［ガス設備］　都市ガスが未整備なため、液化石油ガスボンベをガスボンベ庫で管理し各棟へ供給。

［空調設備］　蒸気による暖房が主体。熱源はボイラ室より供給しているが各建物一括供給であるため、個別暖房ができずエネルギーロスが多い。補助暖房としてガスや石油ストーブ等で対応しているが、各施設に適したシステムが必要。

［廃棄物］　資源の有効活用のため分別の徹底により、リサイクル化を推進。それ以外の一般廃物及び実験系廃棄物は業者に委託して処理している。





■方針

１．省エネルギー化

設備機器（ボイラー）の耐用年数を鑑みGHP（ガスヒートポンプ）、EHP（電気ヒートポンプ）の比較検討の上で将来性、経済性、快適性、維持更新のしやすさなどの観点から維持管理計画の策定を進めていく。

２．地球環境への配慮

CO2の排出を削減するためその目標値を設定し、到達するまでのロードマップを作成する。省エネだけでなく低公害の太陽エネルギーなどの創エネ（新エネルギーの供給）も組み合わせて目標達成に努める。

３．循環型社会への取り組み

ゴミの分別収集の徹底による再資源化、汚濁物（水、空気、物質）処理におけるエネルギー利用化を図るなど各キャンパスの課題としてキャンパス毎に研究し取り組んでいく。

〇衛生管理上の問題から、高置水槽による低層建物への給水から直結給水方式への移行を検討する。

〇動物用の糞尿処理施設を検討し、整備していく。

項　目	事業展開		
	短　期	中　期	長　期
１．インフラ整備	●維持管理計画策定 ●給排水･ガス配管の改修および更新 ●空調熱源の検討 ●直結給水方式への検討		
２．廃棄物処理	●処理方法の検討 ●ゴミ置き場の整備 ●その他廃棄物処理施設の整備		

３－３－６　コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画

■現状と課題

学生・教職員の交流の場としては福利施設周辺が中心であり、食と緑の科学資料館の新設により地域の交流の場としても有効であるがそのソフト展開が課題である。

家畜のいる圃場や豊かな森林資源の一部など、大学の研究施設として閉鎖せずに積極的に地域に開放することが望まれる。

■方針

食と緑の科学資料館およびユリノキキッチンの活用・運営など計画段階から学生も参加し、様々な文化活動を展開できる充実した地域交流の場となるようにする。家畜のいる圃場は、一般的な動物園とは違い、家畜としての情報や研究成果などを紹介し、人と動植物との関わりを学べる工夫をするなど、多くの人が訪れる施設となるようNPO団体等と連携した運営方法も検討する。演習林を利用したアスレチックなどの市民開放ゾーンや、一般に開放するレジデンスの管理運営についてもNPO団体等と連携しサービスを充実させる。



計画ゾーニング凡例

教育・研究ゾーン	動物ゾーン
運動・課外活動ゾーン	駐車場ゾーン
地域連携ゾーン	居住ゾーン
森林ゾーン	風致ゾーン
農園ゾーン	景観形成軸

凡　例

地域開放推進施設

事　業　項　目		事業展開 短期	中期	長期
１．交流施設の計画・運営	各ゾーンにおいて学生参加型の運営やNPO団体等との連携を推進し学生や地域に積極的に開放するなど、施設・サービス等の充実をはかる。	●検討・実施		
２．施設の地域開放促進	図書館・福利施設など、施設の地域開放を促進する。			●検討・実施

1　施設の地域開放　–コミュニティの計画ディテール–

■方針

農学部の施設、自然環境、研究成果など地域に積極的に開放し、その計画運営においては学生参加型の運営やNPO団体等と連携し充実したものにしていく。

●動植物ふれあいゾーン

運営はNPO団体や農業協同組合等との連携を検討し、学生の家畜研究とも合わせた運営体制の構築が必要である。また、農学部独自の特徴として学生や教職員が食育に関する展示や各種教室を開催するなどソフト展開もあわせて行い施設全体の魅力を創造する。



鶏や黒毛和牛を飼育

●食と緑のゾーン

ユリノキキッチンは厨房を併設し、単なる加工品の製造販売だけでなく、料理教室など地域と交流できる活動に有効利用し、学生やNPO団体等の企画運営により、農学部ブランドの農産加工物を開発販売するなどの幅広い活動を支援する。



農産物の販売

●市民開放ゾーン

体育館、テニスコート、グラウンド、アスレチックなど多くの人が利用できる健康レクリエーション施設として管理運営する。NPO団体や民間企業などと連携し一部有料化するなど、サービスの充実や安定した運営を図る。また、アスレチックの遊具などは学生と地域の子供が制作するなど参加型イベント等も検討する。



木製の工作物

●既存施設（体育館・図書館・福利施設等）、レジデンスゾーン

民間企業とのPFI契約により、トータル的な施設運営管理や柔軟なソフト展開を検討し、土日や祝日の運営等で利用者の利便性向上をはかる。

また、アーティストや研究者のために開放する宿泊、研究施設としてのレジデンスは、信州大学の他学部の教授や学生のほか広くクリエイターに開放し、研究創作活動の場として利用してもらう。

施設の管理運営は、民間企業やNPO団体などと連携もしくは委託する。



体育館

［参考］　ＰＦＩ（Private Finace Initiative）

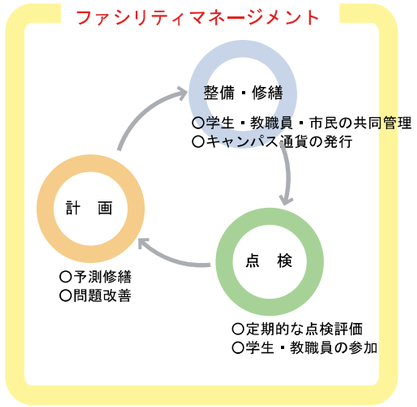
公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力、技術的能力を活用して行う事業手法。

民間のノウハウを活用することにより、国や地方公共団体等が直接実施するよりも効率的かつ効果的に公共サービスを提供できる場合に採用される。

３－３－７　維持管理の計画

■現状と課題

施設維持管理は維持管理部署によって把握実施されており、施設マネージメントのデータベース化及び運用のためのシステム（スクールプラン）を平成19年度より導入している。

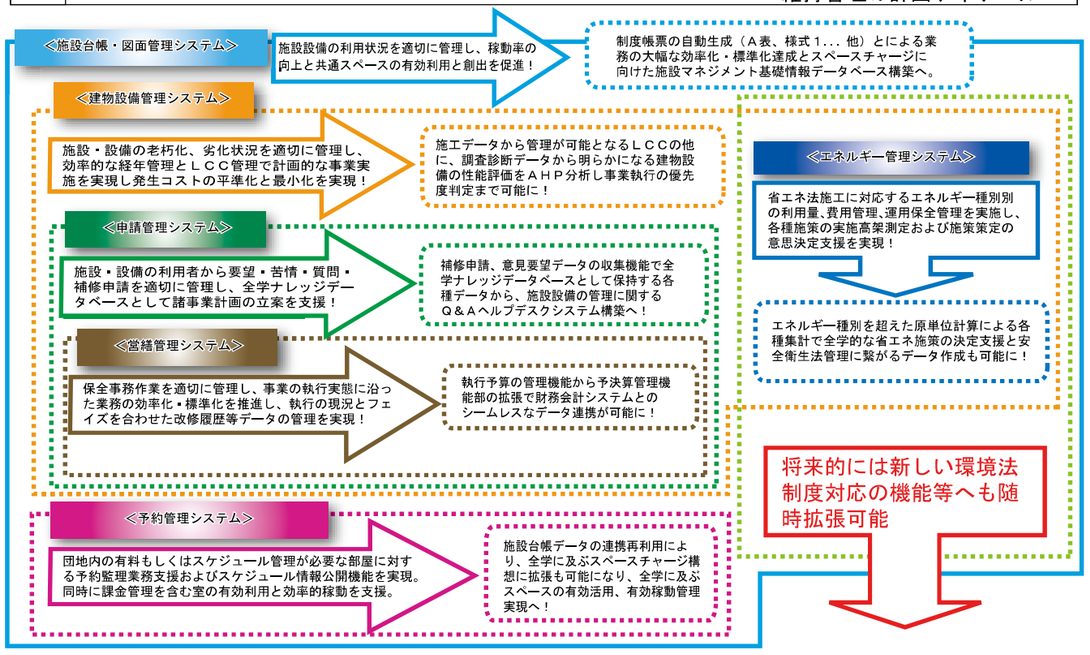


■方針

まず施設の状況を常に把握し計画的に修繕し維持していくことが重要である。また、学生や教職員も参加して点検することにより施設管理職員だけでは把握しきれないニーズに合った修繕ができるとともに施設維持への意識向上も期待できる。ペンキの塗り替えなどの簡易作業は、一般市民も参加できるイベントとして企画し、地域ぐるみで大学を支えていく仕組みをつくっていくことも重要である。

事　業　項　目		事業展開 短期	中期	長期
１．施設管理のシステム化（ファシリティマネージメント）	キャンパス全体を総合的かつ長期的視野にたって統括し、各維持管理部署との情報を共有するデータベースをつくる。	●データベース化 → 随時更新		
２．参加型点検評価	学生や教職員等が定期的に点検するキャンパスパトロールを実施し、そのデータを蓄積管理し、修繕計画へ反映させる。		●点検組織づくり → 定期点検実施	
３．キャンパス通貨、NPO団体等との協働	外構の植栽管理などは市民やＮＰＯ団体と協働し、協力に対する対価補償としてキャンパス通貨などを検討する。			●キャンパス通貨の運用

1　施設管理システム（スクールプラン）　–維持管理の計画ディテール–



Ｅ．上田キャンパス　～ 歴史の糸で最先端を紡ぐ　桑の実キャンパス ～





序．キャンパスマスタープランについて

１－１．キャンパスマスタープランの必要性と策定の経緯 …… 序－1

１－２．キャンパスマスタープランの位置づけ …… 序－1

１－３．アクションプランの位置づけ …… 序－1

１－４．信州大学の理念との整合 …… 序－2

１－５．信州大学「信州大学ビジョン2015／信州発飛翔プラン」との整合 …… 序－2

１－６．キャンパスの全体像 …… 序－5

E．上田キャンパス

２．現状と課題

２－１．配置図・現状写真・問題点 …… E－1

２－２．ディベロップメントプラン …… E－1

３．上田キャンパスマスタープラン

３－１．キャンパスマスタープランの目標と作成方針 …… E－2

３－２．基本方針と戦略 …… E－3

３－３．カテゴリー別計画

３－１．全体計画の骨子 …… E－4

３－３－２．建物の計画 …… E－5

３－３－３．オープンスペースの計画 …… E－7

３－３－４．交通の計画 …… E－9

３－３－５．インフラストラクチャーの計画 …… E－11

３－３－６．コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画 …… E－12

３－３－７．維持管理の計画 …… E－13

２－１．配置図・現状写真・問題点

















問題点凡例

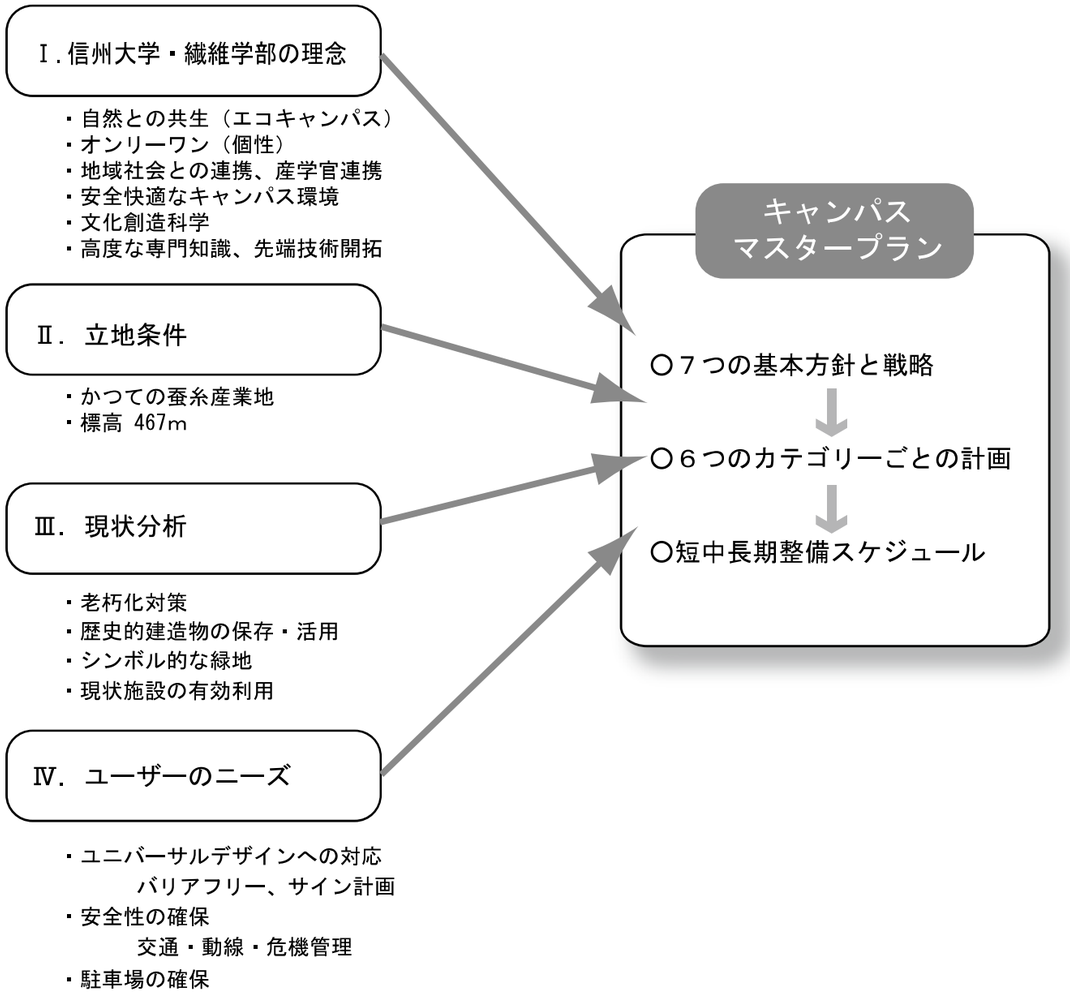
- 国道１４１号線からのアクセスが分かりにくく、将来的に東側の国道１８号線からのアクセスの検討が必要
- 警務員室や千曲会館など、デザイン的にも興味を引く建物があり、存廃・改修の検討が必要
- 高分子工業研究施設は老朽化も著しく、女子トイレもないため早急な対応が望まれる
- 職員宿舎は築４０年を経た木造宿舎が残っており、改築が必要

２－２．ディベロップメントプラン（改修が必要な建物一覧）

ディベロップメントプラン				
機能機械学科棟改修	1962(昭37)	R3	2,344㎡	Is値0.57
高分子工業研究施設改修	1963(昭38)	R2	1,050㎡	Is値0.66
応用生物科学科棟改修	1975(昭50)	R4	2,813㎡	Is値0.35
機能高分子学科棟改修	1979(昭54)	R5	2,410㎡	Is値0.67

３－１．キャンパスマスタープランの目標と作成方針

信州大学上田キャンパスは、大学の理念及び繊維学部の理念に沿った研究教育等の諸活動を展開する舞台であり、それにふさわしい環境の整備と質の向上を確保することを目的とする。キャンパスマスタープランの作成にあたっては、それらの理念に則し、キャンパスの立地条件、前章で検討した現状分析及びその課題、ユーザーの要望を加味し、先ず基本方針と戦略を策定する。更にその内容を建物、オープンスペース、交通、インフラ、コミュニティ、維持管理という6つのカテゴリーに分類整理し、項目ごとに短・中・長期整備スケジュールを立案する。



■繊維学部の理念・目標

（理　念）

豊かな自然に抱かれた本学部・大学院は、衣・食・住の要である“繊維”に根ざした伝統的な科学技術を背景として、学際的先端科学技術のさらなる展開を図り、21世紀における文化創造科学技術を開拓する。さらに、優れた人格と国際性を有し、未来を創造しうる、広い視野と高い能力を持つ技術者、高度専門職業人、研究者を養成する。そして、地球環境と共生し、人類社会の発展と平和、福祉の向上に資することを理念とする。

（目　標）

◎教育の目標

優れた人格の形成、進展する科学技術と社会の変化に対応しうる能力・未来創造能力、基礎学力に裏付けされた専門性 、国際性、情報処理能力を涵養し、技術者、将来の研究者として十分な基礎的素養を身につけ、総合的視野と高い能力を備えた人材を養成する。

◎研究の目標

・国際的・学際的工学系新領域の開拓
・新ライフスタイルを生み出す文化創造科学技術の創成
・フロンティア繊維総合技術科学の国際的中核研究拠点（COE）の形成
・産官学連携協力による新産業の創出
・地域産業の振興への貢献

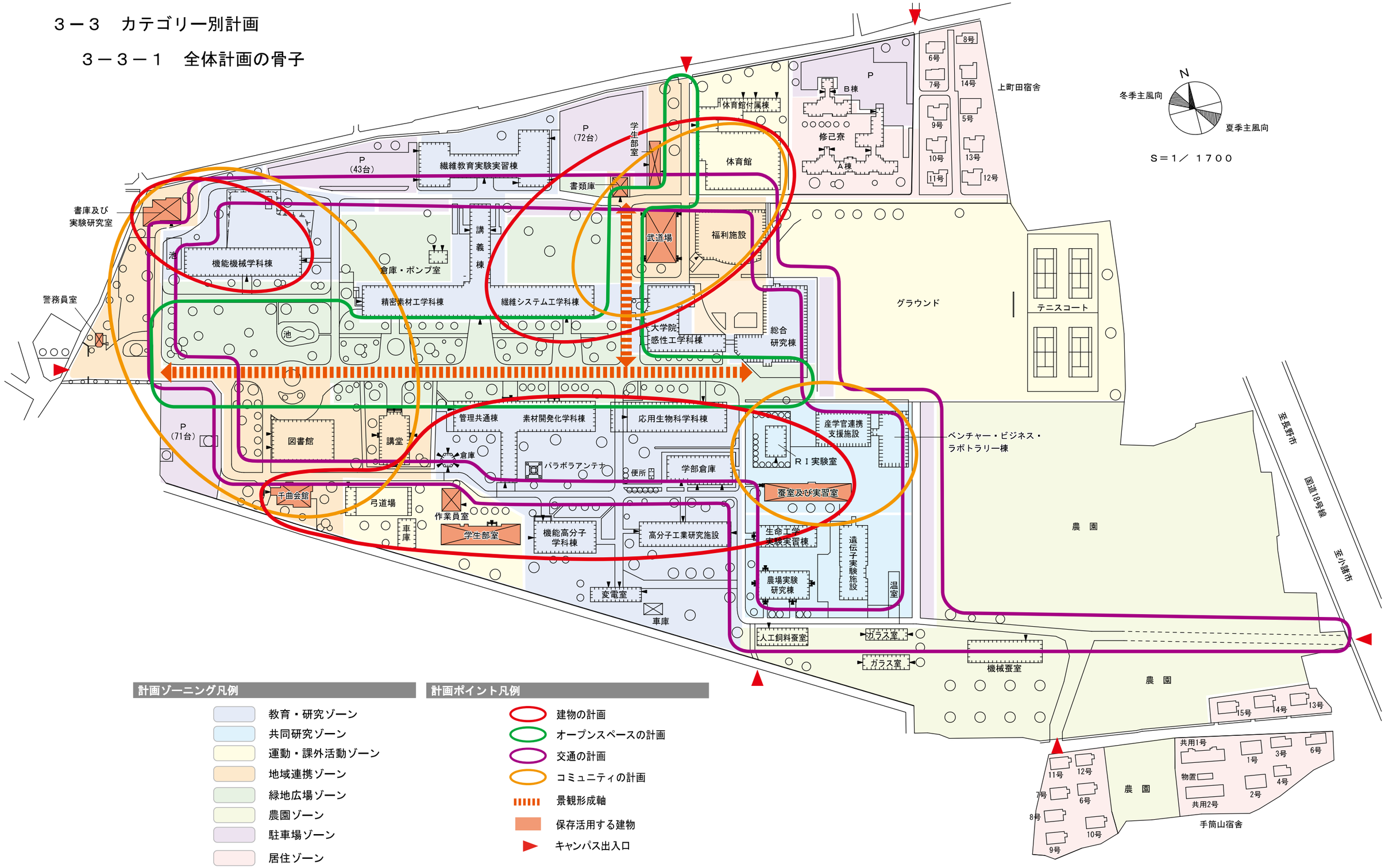
３－２．基本方針と戦略　　～歴史の糸で最先端を紡ぐ　桑の実キャンパス～

キャンパス整備の基本方針とその戦略を下表にまとめる。

基本方針		戦略	カテゴリー
1	キャンパスアイデンティティー	【最先端技術を生かす】 ・バイオテクノロジー、最先端機能繊維、素材開発等、全国に１つしかない学部 【歴史を生かす】 ・養蚕業の地域的歴史	・歴史的情緒の感じられる空間づくり　建物・オープン ・外部研究者がアクセスしやすい動線整備　交通 ・最先端繊維の資料展示や製品の販売　建物
2	アメニティを高める現状資産の活用	【心地よいキャンパス「空間秩序の明確化」】 ・中央の目抜き通りと環状道路 ・アクセスのしやすさ 【ニーズに対応した施設利用】 ・学生、職員の交流スペース ・教育研究環境の充実 ・駐車場、駐輪場動線の見直し 【老朽化対策】 ・建物の安全性の確保 【歴史資産の活用】 ・現代ニーズに合わせた利用 ・既存遊休施設の再生利用	・歩行者の回遊を誘導する緑地・広場の整備　オープンスペース ・中央の目抜き通りの景観整備　建物・オープン ・ゲートの整備と歩車分離の整備　交通 ・駐車場の有料化　交通 ・施設整備（歴史的建物の保存・リニューアル）　建物 ・機能改善　建物 ・耐震補強　建物 ・インフラストラクチャーの見直し　インフラ ・菅平研修施設の有効利用　建物
3	地域社会との連携	【「知財・人財・資財」の共有、発展】 ・産学官連携支援施設 ・知的クラスター、企業との共同研究 【地域住民との共生】 ・パブリックスペースの地域開放	・繊維企業との連携、共同研究推進　コミュニティ ・外来者用駐車場の適所配置　交通 ・地域に開放した庭木の整備　オープンスペース ・図書館、福利施設等の地域開放　コミュニティ
4	参加型キャンパス	【キャンパスづくりへの学生・教職員の参加】 ・学生、教職員が参加した点検評価 ・意識向上	・定期的な点検評価のシステム、組織づくり　維持管理 ・キャンパスづくりへの参加活動　建物・オープン
5	サスティナビリティ	【地域の風土の反映】 ・地場産材の使用や地域産業との連携 【エコキャンパス】 ・省エネ、CO2削減 【循環型社会への取り組み】 ・ゴミ削減、リサイクル、リユース	・県産材(信州唐松・土・わらすさ・和紙など)の使用　建物・オープン・コミュ ・維持管理計画の策定　インフラ ・景観に配慮したゴミ置き場の整備　インフラ
6	ユニバーサルデザイン	【バリアフリー、ボーダーレスなキャンパス】 ・誰もが使いやすい 【わかりやすいキャンパス】 ・迷わない案内	・ユニバーサルデザイン（デザインガイドラインの策定）　建物・オープン ・サイン計画　建物・オープン
7	安全なキャンパス	【安全な歩行空間】 ・人と車と自転車の動線の分離 【防犯、危機管理】 ・夜間の安全性	・交通計画（環状道路の整備）、駐車場計画、駐輪場計画　交通 ・照明計画　オープンスペース ・廃棄物処理計画　インフラ

３－３　カテゴリー別計画

３－３－１　全体計画の骨子



計画ゾーニング凡例

- 教育・研究ゾーン
- 共同研究ゾーン
- 運動・課外活動ゾーン
- 地域連携ゾーン
- 緑地広場ゾーン
- 農園ゾーン
- 駐車場ゾーン
- 居住ゾーン

計画ポイント凡例

- 建物の計画
- オープンスペースの計画
- 交通の計画
- コミュニティの計画
- 景観形成軸
- 保存活用する建物
- キャンパス出入口

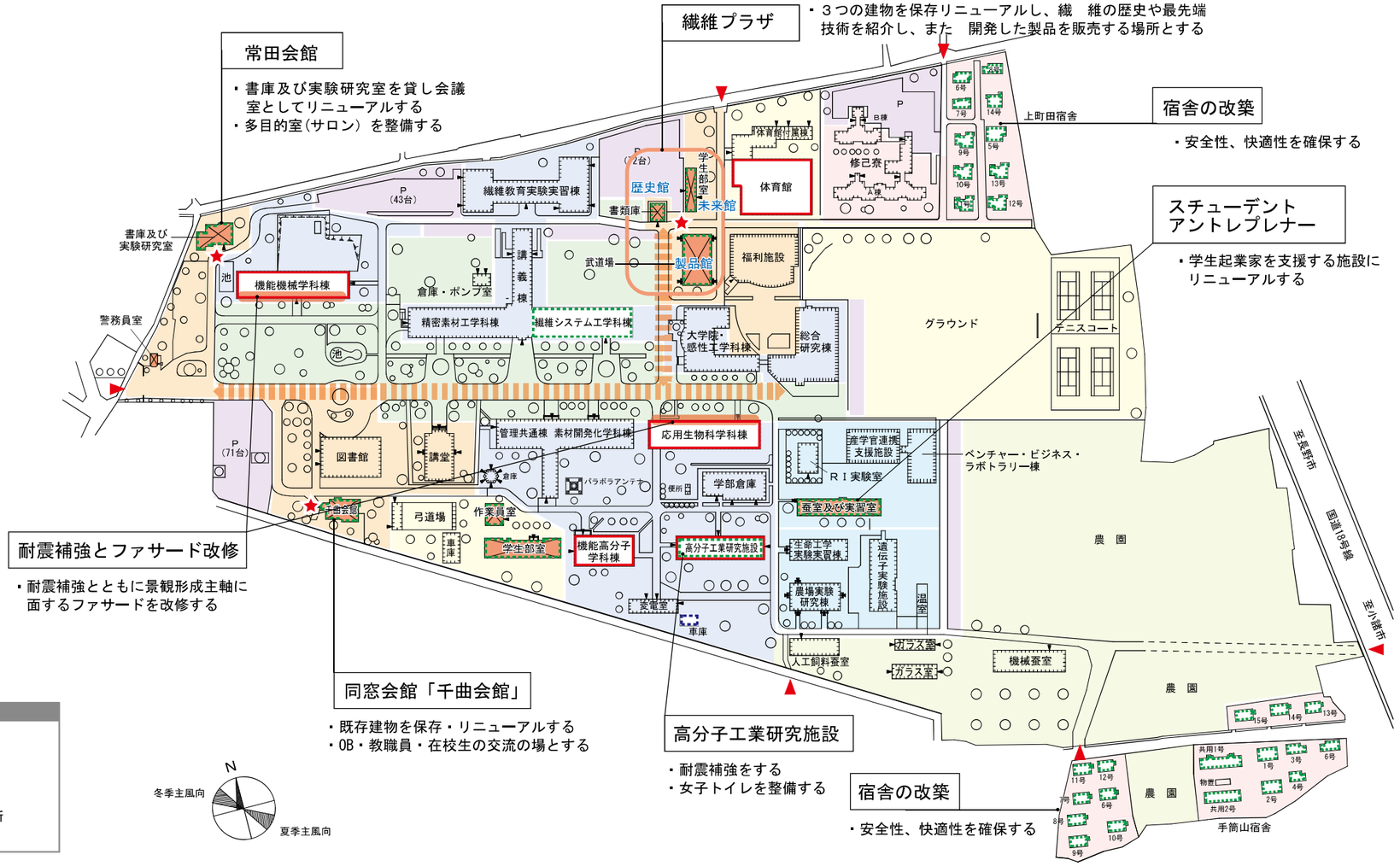
3ー3ー2　建物の計画

■現状と課題

登録有形文化財の講堂をはじめ歴史的建物が現存し、上田キャンパスの顔ともなっている。一方で、内外装の老朽化が進み、耐震的に問題があるものもあり、現状の施設を最大限に活かしつつ、構造的な安全性の確保とニーズに対応した空間の整備が必要である。

■方針

歴史的建物はその情緒を生かし保存リニューアルし、地域に開放したり学内交流の拠点ともなるよう整備する。また、学生が安全かつ快適にキャンパスライフを送れるよう、既存建物の老朽化対策及び耐震補強をし、ニーズに対応したリニューアルを行う。景観形成軸に面するファサードは景観に配慮したデザインとする。内外装は地元の材料等の使用を積極的に検討する。さらに、誰もが使いやすいユニバーサルデザインのガイドラインを作成し、順次整備する。新しい研究施設を新設する場合は、場所を十分検討の上進めて行く。また、既存遊休施設である菅平研修施設を有効利用する。



計画ゾーニング凡例

- 教育・研究ゾーン
- 共同研究ゾーン
- 運動・課外活動ゾーン
- 地域連携ゾーン
- 駐車場ゾーン
- 緑地広場ゾーン
- 農園ゾーン
- 居住ゾーン
- 景観形成軸

凡　例

- 耐震補強
- 内外装リニューアル
- 解体・移転
- 保存活用する歴史的建物
- ファサードデザイン重要箇所
- ユニバーサルデザイン改修

事　業　項　目		事業展開（短期 / 中期 / 長期）
１．耐震補強	耐震強度の低い建物から順次補強改修していく。 また、補強工事と同時にファサードデザインの改善を行う。	●耐震設計→補強・改修
２．施設整備	歴史的建築物はその情緒を生かし保存リニューアルし、同窓会館、貸し会議室、繊維資料館などに整備する。繊維資料館の施設は学生提案、学生主体により運営管理する。また、既存建物の安全性、快適性を確保する。	●施設利用方針検討　●施設設計 ●施設測量 ●千曲会館 ●常田会館 ●繊維プラザ ●スチューデントアントレプレナー
３．ユニバーサルデザイン	誰もが使いやすいデザイン、わかりやすい案内（サイン）のガイドラインをつくり、施設・空間設計に反映させる。	●デザインガイド作成 ●サイン計画
４．県産材の使用	県産材（信州唐松・土・わらすさ・和紙など）を使用することを通じ、地域産業への関心を高める。	●施設計画に合わせて使用検討

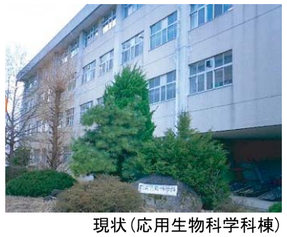
1　耐震補強　―建物の計画ディテール―

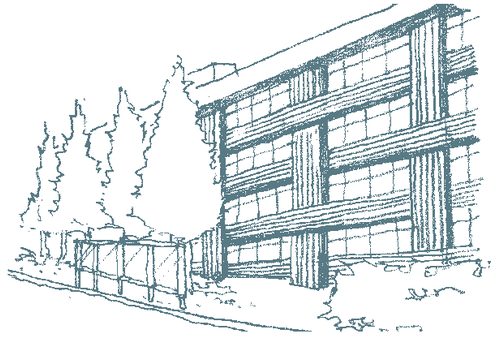
■方針

　1982年の耐震基準法改正以前に建設された強度不足の建物を耐震補強していく。また、単純な耐震補強に終らせることなくデザイン性を兼ね備えた整備を行う。

●景観形成軸

　景観形成軸に面した建物の耐震補強は単純なブレース造の耐震補強とするだけでなく、つむぎの道からの景観に配慮したデザインとする。


現状（応用生物科学科棟）


整備イメージ

2　施設整備　―建物の計画ディテール―

■方針

　豊かなキャンパスライフを送れるようニーズにあった福利施設、地域の人も利用できる交流施設など、既存のストックを活用しながらアメニティの高い空間価値を付加していく。

●同窓会館「千曲会館」

　歴史的建物として保存・リニューアルし学生、教職員及びＯＢ･ＯＧのための交流施設として再生する。


現　状


整備イメージ

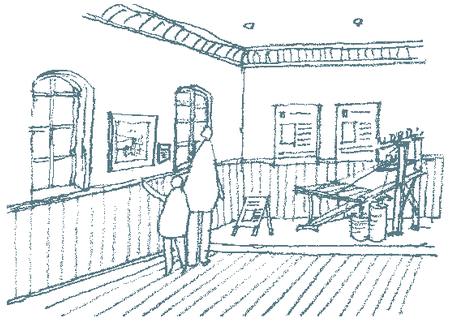
●繊維プラザ（旧赤レンガ倉庫、旧武道場、旧学生部室）

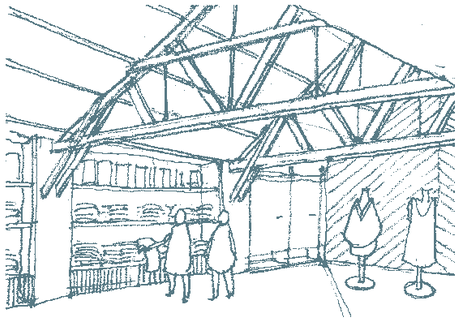
現在の建物を改修し、繊維学部の文化創造発信の場とする。

○赤レンガ倉庫
　→繊維学部の歴史を展示する「歴史館」
○武道場
　→繊維学部で開発された製品の販売を行う「製品館」
○学生部室
　→繊維製品の展示を行う「未来館」


現状（赤レンガ倉庫）


現状（武道場）


「歴史館」の整備イメージ


「製品館」の整備イメージ

●常田会館（旧書庫及び実験研究室）

　エントランスから近いという立地を生かし、書庫及び実験研究室となっている建物を、市民も利用できる貸し会議室として整備する。


現　状


整備イメージ

3ー3ー3　オープンスペースの計画

■現状と課題

正門から東に向けてまっすぐ伸びる景観形成軸の両脇には手入れの行き届いた多種の庭木が植えられ、キャンパス景観の重要な要素となっている。しかし放置自転車も目立ち景観を損ねているので、地域の人も庭木を鑑賞できる歩行空間としての整備が必要である。

■方針

既存の緑地をつなぎ、キャンパス内を回遊できるよう中央の歩道空間を軸とした植栽整備を行う。中央の庭木空間は、近隣住民も親しめる場となるよう整備する。その前庭となる正門側の広場は、小さな子供も遊べるよう池及び芝生の整備を行う。軸の東端に接する広場は、アイストップとして植栽を整備する。

また、武道場周辺の交流施設へ続く道も緑豊かな道とし、人々を導く軸線として整備する。さらに、安全が確保できるよう照明を整備する。



計画ゾーニング凡例

教育・研究ゾーン	緑地広場ゾーン
共同研究ゾーン	農園ゾーン
運動・課外活動ゾーン	居住ゾーン
地域連携ゾーン	景観形成軸
駐車場ゾーン	保存活用する歴史的建物

凡　例

舗装整備	
広場の整備	
植栽の案内整備	
ベースライト（安全確保照明）	
ハイライト（演出照明）	

事　業　項　目		事業展開 短期	中期	長期
1．広場整備	蘭庭を地域の人も広く利用できる魅力的な広場として整備し、順次アイストップ、繊維プラザ周辺の景観整備を行う。	蘭庭（前庭・アイストップ）●設計 ●整備	繊維プラザ周辺 ●設計 ●整備	
2．道の景観整備	つむぎの道は、ゆっくり庭木を観賞できるアメニティの高い道とし、自転車が放置されないようにする。 また、繊維プラザ周辺は建物と調和した整備を行う。		つむぎの道 ●設計 ●整備 繊維プラザ ●設計 ●整備	北側アクセス道の整備 ●設計 ●整備
3．サイン計画	外来者にわかりやすくトータルデザインされた案内サインを整備する。また、蘭庭やつむぎの道の庭木の樹種名などの案内板の整備も行う。		●サイン計画 ●随時整備	
4．照明計画	主な道には夜間の安全を確保できるようにベースライトを整備し、蘭庭は演出効果の高いハイライトにするなど、空間に適した照明方法とする。		●照明設計 ●随時整備	
5．ユニバーサルデザイン	誰もが使いやすいデザイン、わかりやすい案内、敷地内の段差解消などのガイドラインをつくり、空間設計に反映させる。	●デザインガイド作成		

1 広場整備 –オープンスペースの計画ディテール–

■方針

つむぎの道の整備や夜間の照明演出等の工夫をし、広く地域の人も利用できる緑豊かな広場を整備する。

●全体計画

　つむぎの道を中心に、各所に人々が滞留できる広場を整備する。
　キャンパスの情緒ある景観を損なわないよう植栽や自然素材を使うなどの配慮をする。



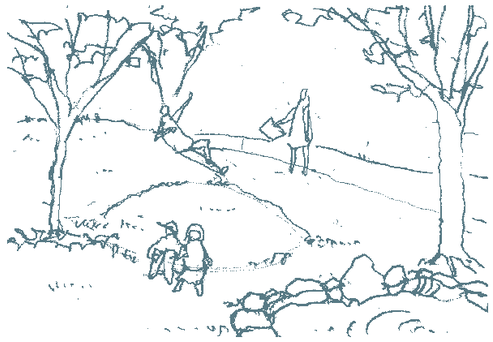
現状（つむぎの道）

●繭（まゆ）庭

　繭の形状をした築山を作り、植栽やベンチを整備する。池の縁は石積みなど自然な造形とし、人々が憩い潤いのある庭とする。



現　状



整備イメージ

●つむぎの道から繊維プラザまで

　植栽やベンチを設置し、放置自転車を抑制する。繊維プラザの建物とあわせて、道というよりも広場のなかに建物が位置しているような景観整備を行う。



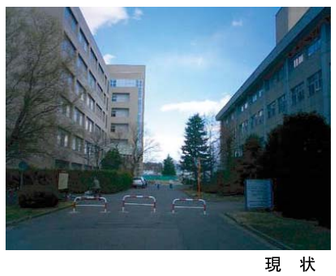
現　状



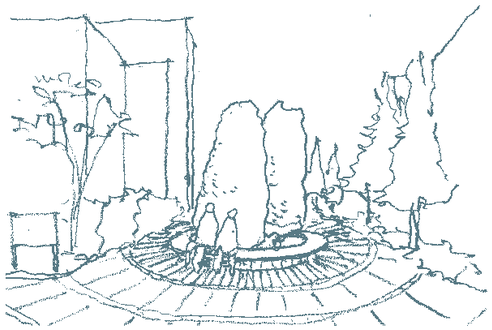
整備イメージ

●アイストップ

つむぎの道のもっとも奥の部分に、アイストップとして、シンボル的な植栽やベンチを設ける。



現　状



整備イメージ

３－３－４　交通の計画

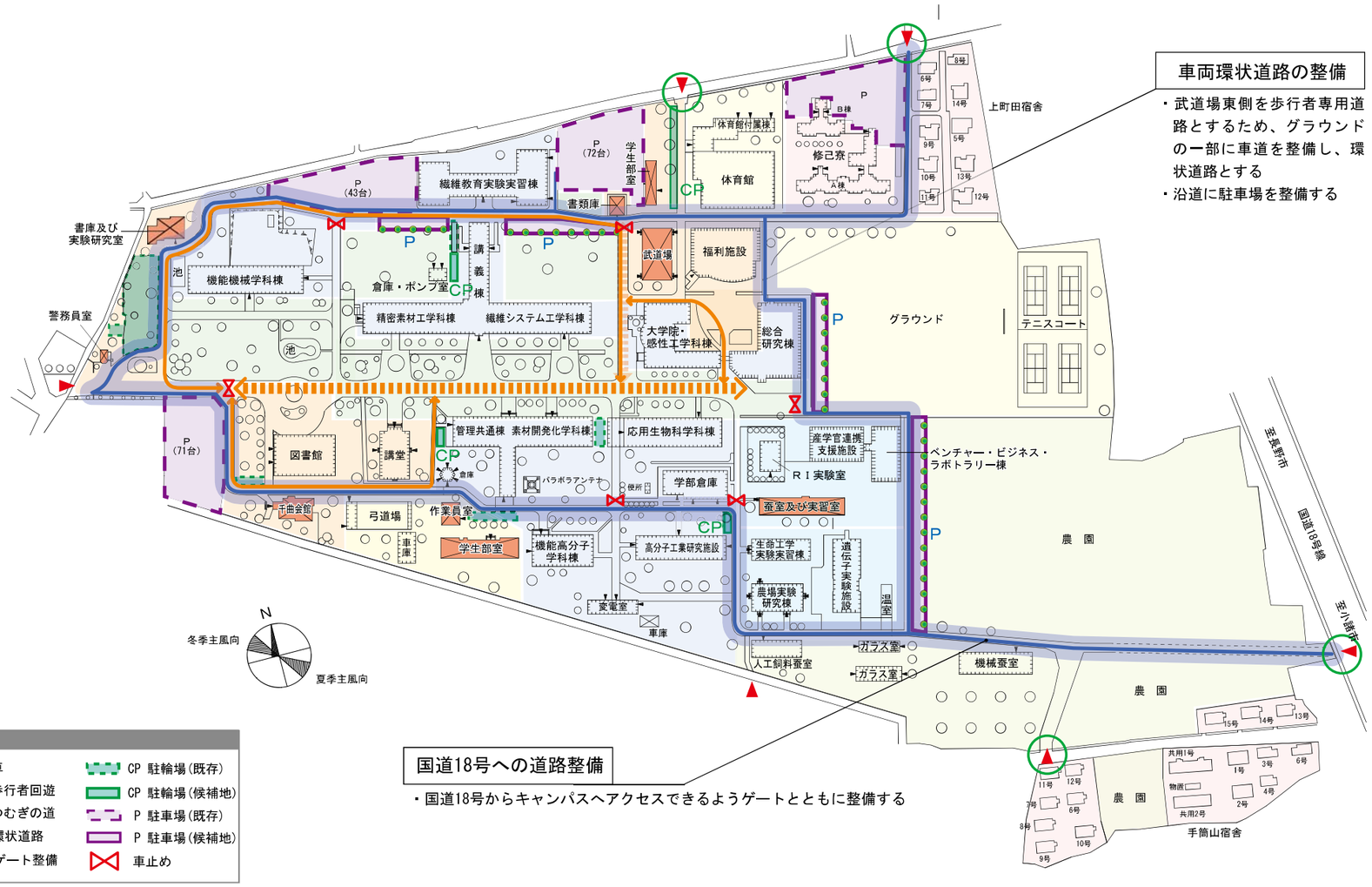
■現状と課題

現在、車両が景観形成軸を横断し、歩行者の快適性及び安全面の弊害となっている。また、国道18号線に通じる通路があるが、国道から車両の進入ができない状態である。また、キャンパス内の放置自転車は景観悪化の原因となっている。

■方針

歩行者の安全性と快適性を確保するため車両動線を環状に整備し、その沿線に駐車場及び駐輪場を確保する。駐車場及び駐輪場は、景観に配慮し緑化する。また国道18号線に通じる通路も車両通行道路として整備を行う。

	整備前	整備後
駐車場	272 台	約352 台
駐輪場	483 台	約480 台



計画ゾーニング凡例

- 教育・研究ゾーン
- 共同研究ゾーン
- 運動・課外活動ゾーン
- 地域連携ゾーン
- 駐車場ゾーン
- 緑地広場ゾーン
- 農園ゾーン
- 居住ゾーン
- 景観形成軸
- 保存活用する歴史的建物

凡　例

- 車
- 歩行者回遊
- つむぎの道
- 環状道路
- ゲート整備
- CP 駐輪場(既存)
- CP 駐輪場(候補地)
- P 駐車場(既存)
- P 駐車場(候補地)
- 車止め

事　業　項　目		事業展開 短期 6 中期 12
１．駐車場有料化	キャンパス内の駐車場は原則的に有料とし、景観配慮のため同時に植栽の整備も行う。	●駐車場整備
２．駐輪場計画	現在の収容量を確保しながら環状動線沿いに集中設置する。また、不正駐輪を予防するため利用者登録制とし有料シールの導入などを検討し、適正数を維持する。	●駐輪場整備
３．車両通行路整備	キャンパス外周部に環状道路を整備する。また、国道18号沿いの部分にはゲートを設置し、キャンパス内車両動線の利便化をはかる。	車両環状道路整備 ●設計 ●整備

1 駐車場整備 ー交通の計画ディテールー

■方針

車はキャンパスのエントランス部分と環状道路沿線にある駐車場に駐車することを原則とし、キャンパス中心軸への乗り入れは、緊急車両及び身障者対応に限るものとする。

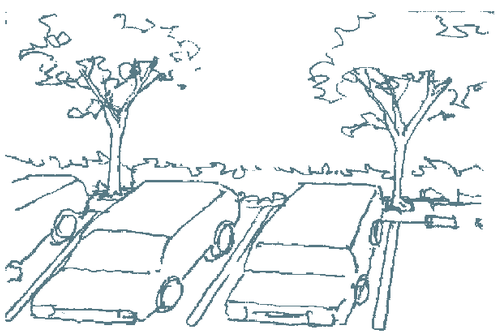
●環状道路整備


農園の一部の沿道を駐車場として整備する


国道18号線からのアクセス道路を整備する

●駐車場の整備

駐車場は、環状道路に面するグラウンド脇に新設し、植栽も同時に整備する。


整備イメージ

2 駐輪場整備 ー交通の計画ディテールー

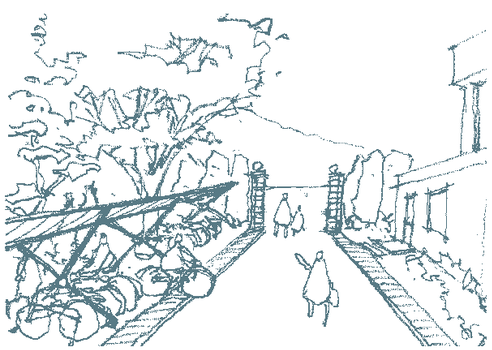
■方針

現在自転車はキャンパス景観を損ねる最も大きな要因となっている。駐輪場を環状道路に近いところに整備してそこにとめることを徹底させ、つむぎの道などの景観形成軸上の放置自転車を抑制する。


放置自転車は歩行者の障害となっている


樹木の間に停める駐輪スペース（正門左手の駐輪場）


駐輪小屋は既存のデザインを踏襲する


キャンパス北側のアクセス道路沿いの駐輪場の整備イメージ

３－３－５　インフラストラクチャーの計画

■現状と課題

［電気設備］　１回線高圧受電方式で、共同溝及び地中埋設管路を利用して各棟へ配電。

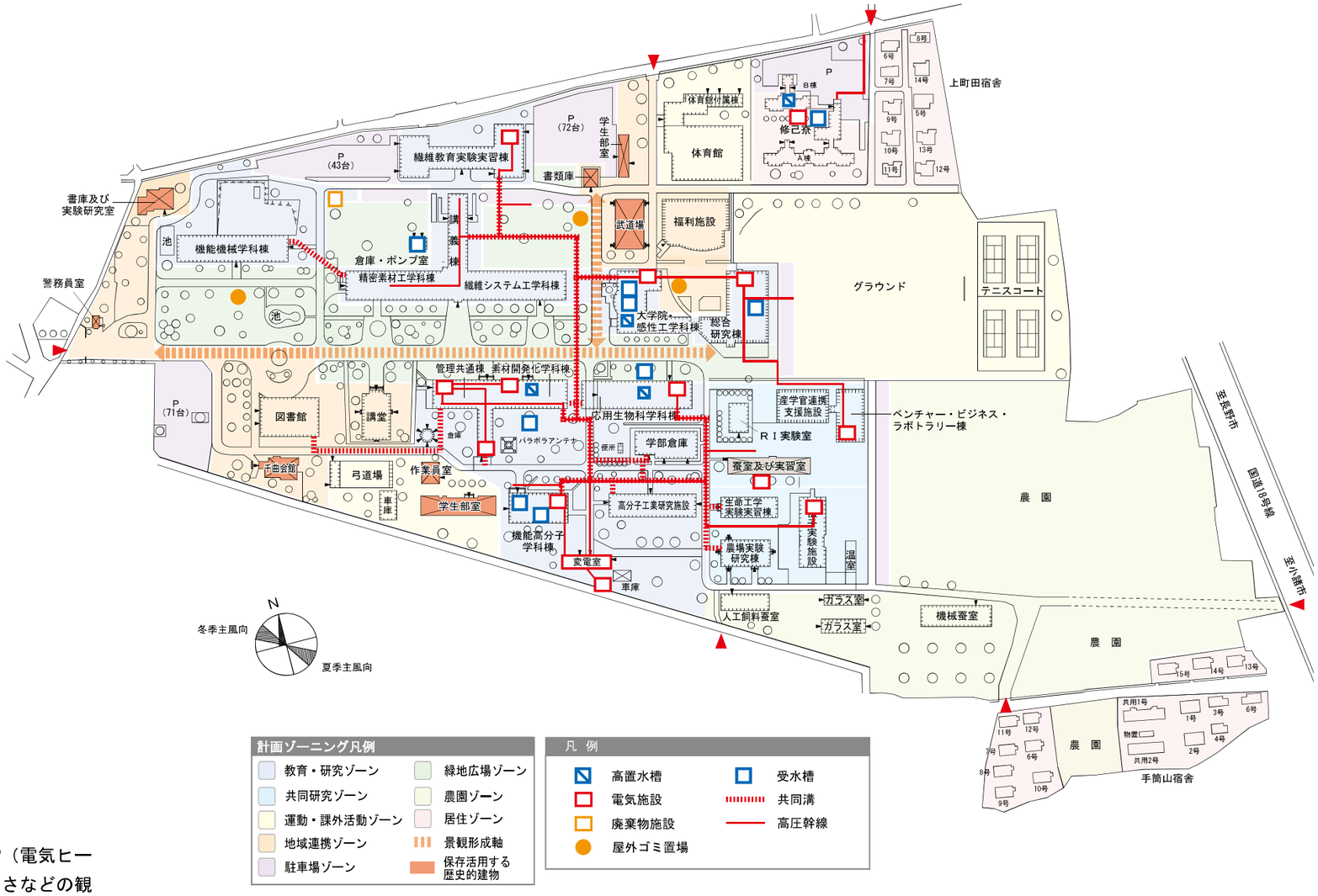
［給水設備］　市水本管より供給を受け、低層建物は直結給水方式、高層建物は高置水槽方式により各建物に給水。尚、一部の建物では、雨水を中水として利用。

［排水設備］　雨水系・生活系・実験系の３系統分流式。雨水系は、地下浸透及び公共側溝へ放流。生活系・実験系は公共下水道へ放流。尚、実験排水は建物単位でPH濃度をモニタリングしている。

［ガス設備］　都市ガス(12A)を１箇所より引き込み、土中埋設配管にて各建物に供給。

［空調設備］　新営建物及び改修整備済建物についてはガスヒートポンプによる個別空調が主体。それ以外は蒸気による暖房となっており、熱源はボイラ室より供給しているが各建物一括供給であるため、個別暖房ができずエネルギーロスが多い。各施設に適したシステムが必要。

［廃棄物］　資源の有効活用のため分別の徹底により、リサイクル化を推進。それ以外の一般廃物及び実験系廃棄物は業者に委託して処分している。



■方針

１．省エネルギー化

　設備機器（ボイラー）の耐用年数を鑑みGHP（ガスヒートポンプ）、EHP（電気ヒートポンプ）の比較検討の上で将来性、経済性、快適性、維持更新のしやすさなどの観点から維持管理計画の策定を進めていく。

２．地球環境への配慮

　CO2の排出を削減するためその目標値を設定し、到達するまでのロードマップを作成する。省エネだけでなく低公害の太陽エネルギーなどの創エネ（新エネルギーの供給）も組み合わせて目標達成に努める。

３．循環型社会への取り組み

　ゴミの分別収集の徹底による再資源化、汚濁物（水、空気、物質）処理におけるエネルギー利用化を図るなど各キャンパスの課題としてキャンパス毎に研究し取り組んでいく。

〇衛生管理上の問題から、高置水槽による低層建物への給水からポンプ圧送方式への移行を検討する。

項　目	事業展開		
	短　期	中　期	長　期
１．インフラ整備	●維持管理計画策定 ●給排水・ガス配管の改修および更新 ●空調熱源の検討 ●加圧ポンプ式給水の検討		
２．廃棄物処理	●処理方法の検討	●ゴミ置き場の整備 ●その他廃棄物処理施設の整備	

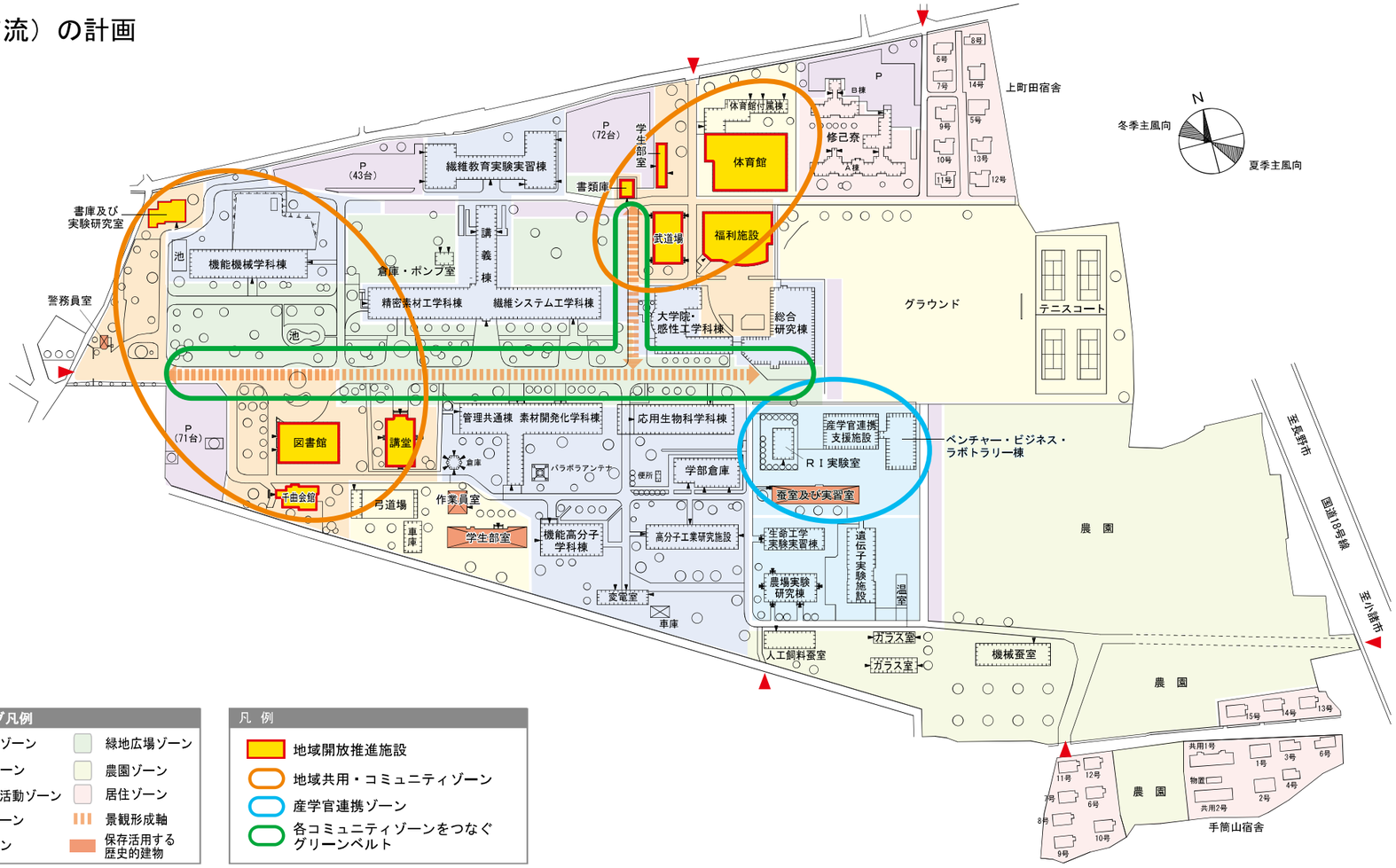
３－３－６　コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画

■現状と課題

繊維学部は歴史的建物や手入れの行き届いた庭木などを有する気持ちの良いキャンパスであり、散策する市民も見受けられる。また、産学官連携施設もあり外来者も多い。講堂や図書館がある静かなゾーン、体育館や福利施設といった人の動きのあるゾーン、産学官連携施設があるビジネスゾーンの3つのコミュニティゾーンが存在するが、それらがキャンパス内に点在している。

■方針

情緒ある歴史的建物を常田会館や繊維プラザなど交流施設としてリニューアルし、地域の人をキャンパス内に引き込む。また、つむぎの道のグリーンベルトでそれぞれのコミュニティゾーンをつなぎ、回遊しやすくする。さらに、キャンパス内の既存の施設を積極的に市民に開放するため周知宣伝をし、地域の交流の場となることを目指す。



計画ゾーニング凡例

- 教育・研究ゾーン
- 共同研究ゾーン
- 運動・課外活動ゾーン
- 地域連携ゾーン
- 駐車場ゾーン
- 緑地広場ゾーン
- 農園ゾーン
- 居住ゾーン
- 景観形成軸
- 保存活用する歴史的建物

凡　例

- 地域開放推進施設
- 地域共用・コミュニティゾーン
- 産学官連携ゾーン
- 各コミュニティゾーンをつなぐグリーンベルト

事　業　項　目		事業展開 短期	中期	長期
１．交流施設の計画・運営への学生や市民の参加	歴史的建物のリニューアルや諸施設の計画や運営などにあたっては、学生の参画や市民の要望なども取り入れる。	●検討・実施		
２．施設の地域開放促進	諸施設の地域開放を促進する一方、土日祝日といった限定期間において民間へ施設を貸し出し、その運営管理も任せるPFI方式の導入も検討する。		●検討・実施	

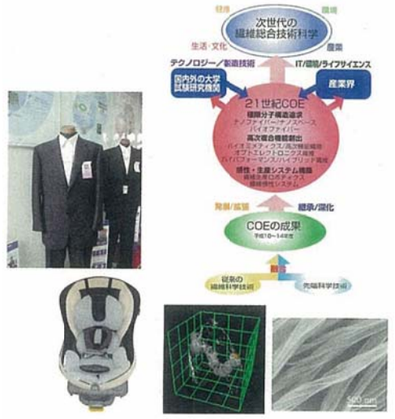
1　産学官の連携　ーコミュニティーの計画ディテールー

■方針

大学における基本的使命である「教育」と「研究」に加え、第三の使命である「社会貢献」に関し、本学の教育、研究の付加価値を高め、信州大学における知の成果を積極的に社会へ還元する。現在様々な活動を諸機関と連携し行っているが、それらをさらに発展させる。

●サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（SVBL）

本学の大学院における、ベンチャー･ビジネスの萌芽的研究開発の推進、および高度な専門職業能力を持つ創造的な人材の育成を目的としている。



●株式会社　信州TLO

TLOとは、Technology Licensing Organization（技術移転機関）の略称で、大学などの優れた研究結果を産業界に技術移転するための新しい組織である。

●上田市産官学連携支援施設（AREC）

17室のレンタルラボが用意されており、企業の技術研究者が利用している。

2　施設の地域開放　ーコミュニティーの計画ディテールー

■方針

書庫及び実験研究室を常田会館（貸し会議室）に、また既存の講堂や体育館、図書館などを積極的に地域住民へ開放する。

●繊維プラザ

繊維の歴史や最先端技術を紹介し、また開発した製品を販売する。学生が計画段階から参加し、学生主体により管理運営する。

●既存施設（講堂、体育館、図書館）

民間経営会社とのＰＦＩ契約（土日に限る）によりトータル的な施設運営管理や柔軟なソフト展開も検討する。

●常田会館

一般市民も使える貸し会議室。

●千曲会館

同窓会館として利用する。

[参考]　ＰＦＩ（Private Finace Initiative）

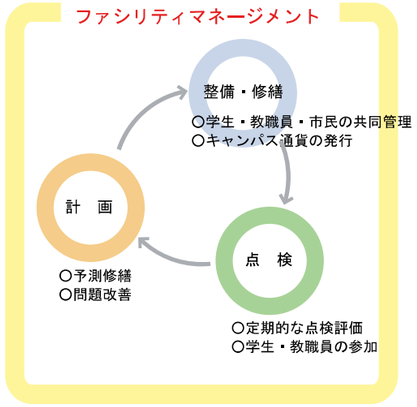
公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力、技術的能力を活用して行う事業手法。

民間のノウハウを活用することにより、国や地方公共団体等が直接実施するよりも効率的かつ効果的に公共サービスを提供できる場合に採用される。

３－３－７　維持管理の計画

■現状と課題

施設維持管理は維持管理部署によって把握実施されており、施設マネージメントのデータベース化及び運用のためのシステム（スクールプラン）を平成19年度より導入している。

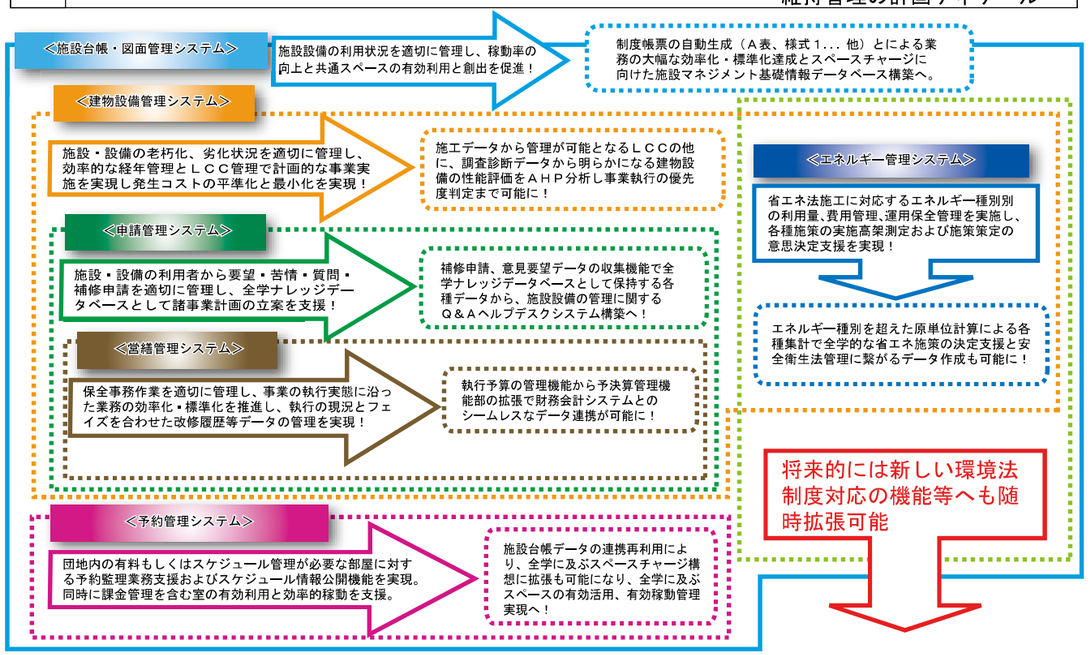


■方針

まず施設の状況を常に把握し計画的に修繕し維持していくことが重要である。また、学生や教職員も参加して点検することにより施設管理職員だけでは把握しきれないニーズに合った修繕ができるとともに施設維持への意識向上も期待できる。ペンキの塗り替えなどの簡易作業は、一般市民も参加できるイベントとして企画し、地域ぐるみで大学を支えていく仕組みをつくっていくことも重要である。

事　業　項　目		事業展開 短期	中期	長期
１．施設管理のシステム化（ファシリティマネージメント）	キャンパス全体を総合的かつ長期的視野にたって統括し、各維持管理部署との情報を共有するデータベースをつくる。	●データベース化 → 随時更新		
２．参加型点検評価	学生や教職員等が定期的に点検するキャンパスパトロールを実施し、そのデータを蓄積管理し、修繕計画へ反映させる。	●点検組織づくり → 定期点検実施		
３．キャンパス通貨、NPO団体等との協働	外構の植栽管理などは市民やＮＰＯ団体と協働し、協力に対する対価補償としてキャンパス通貨などを検討する。	●キャンパス通貨の運用		

1　施設管理システム（スクールプラン）　ー維持管理の計画ディテールー



沿　革

平成１８年　２月　３日　第６回 施設マネジメント委員会
～キャンパスマスタープラン策定プロジェクトチーム設立

平成１８年　７月３１日　第１回 プロジェクト会議開催

平成１８年　９月　５日　第２回 プロジェクト会議開催

平成１８年　９月２８日　第１回 WG（ワーキンググループ）開催

平成１８年１１月　７日　第２回 WG開催

平成１８年１２月１２日　第３回 WG開催

平成１９年　２月２１日　第４回 WG開催

平成１９年　６月２６日　第３回 プロジェクト会議開催

平成１９年　９月１３日　第５回 WG開催

平成１９年１０月　３日　第６回 WG開催

平成１９年１１月２８日　第７回 WG開催

平成１９年１２月２０日　第８回 WG開催

平成２０年　１月１７日　第４回 プロジェクト会議開催

平成２０年　２月　４日　第５回 プロジェクト会議開催

平成２０年　２月１４日　第１１回 施設マネジメント委員会～原案審議

平成２０年　３月　７日　第１２回 施設マネジメント委員会～承認

平成２０年　３月１８日　第１４２回 役員会～承認

制　作

● キャンパスマスタープラン策定プロジェクトチーム

（リーダー）　藤沢　謙一郎（副学長・理事）

（交通担当）　勝山　努（理事）

（戦略担当）　須田　秀志（理事）

（学生担当）　堀口　勲（学務部学務課長）

（施設担当）　長谷川　健一（環境施設部長）

（計画担当・総括）　土本　俊和（工学部教授）

（建築計画担当）　坂牛　卓（工学部准教授）

（インフラ担当）　浅野　良晴（工学部教授）

環境施設部／財務部／学務部

● キャンパスマスタープラン策定プロジェクトWG

（座　　長）　土本　俊和（工学部教授）

（インフラ担当）　浅野　良晴（工学部教授）

（建築計画担当）　坂牛　卓（工学部准教授）

（制 作　担 当）　春原　奈緒（Blue Desk）

【事務職員】

（建築計画担当）　環境施設部環境整備課長　他４名

（インフラ担当）　環境施設部環境企画課長補佐　他３名

（学 生　担 当）　学務部学生支援Ｇ課長補佐　他１名

（交 通　担 当）　財務部財務課総務係主査

（庶 務　担 当）　環境施設部環境企画課長

（アドバイザー）　環境施設部長、環境管理課長